

「介護保険制度に関する認知度調査」

とりまとめ報告書

令和8（2026）年3月

一般財団法人 長寿社会開発センター

はじめに

2000年に創設された介護保険制度は、私たちの暮らしを支える重要な社会的仕組みとして、四半世紀以上にわたり運用されてきました。

高齢化の進展に伴い介護のニーズは増加していますが、制度は多くの改正を経て複雑化しており、家族構成の変化や地域コミュニティの希薄化など、介護を取り巻く環境も大きく変化しています。

制度に対する理解不足は、「社会全体で介護を支え合う」という意識の醸成を妨げる要因ともなり得ます。

こうした状況を踏まえ、制度の認知・理解状況や意識を把握することは重要となります。

本調査では、介護保険サービスをまだ利用していない日本国内に居住する日本国籍の20歳以上65歳未満の方を対象に、介護保険制度および介護保険サービスに対する認知度・理解度・イメージ、ならびに利用意向を明らかにすることを目的にWeb調査を実施しました。

これにより、現に、または今後、社会的な支え手としての役割を担う可能性のある世代であると同時に、将来、介護保険制度を利用する可能性のある世代の意識を把握することが可能となります。

詳細は報告書をご覧くださいと思いますが、本調査では、介護保険制度や介護保険サービスに対する認知度・理解度が、全体として十分に浸透していないことが明らかになりました。

また、介護保険制度の中核機関や地域包括ケアシステムの基盤となる事業所・専門職の認知度も限定的であり、制度の仕組みや支援体制が生活者に十分伝わっていない現状が示唆されました。

今回の調査結果は、20歳以上65歳未満の介護に関わる機会が少ない層の特徴を示すものであり、今後の介護保険制度および介護保険サービスの周知・理解促進を進めるための参考となれば幸いです。

最後に、本調査研究の実施にあたり、回答にご協力いただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

令和8（2026）年3月

一般財団法人 長寿社会開発センター

目次

(1) 調査概要	1
1. 背景と目的	2
2. 実施方法等	2
1) 調査対象	2
2) 調査方法	2
3) 倫理的配慮	2
3. 結果概要	3
(2) 総括	23
(3) 調査結果	35
1. 年齢	36
2. 現在の職業	37
3. 福祉・介護・医療などの分野で働いた経験	39
4. 福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無	42
5. 介護保険制度の認知度	43
6. 介護保険制度を知ったきっかけ	47
7. 40歳になると介護保険料が徴収されることを知っているか	51
8. 第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価	53
9. 介護保険サービスを提供する事業所の認知度	56
10. 介護保険サービスを担う専門職の認知度	73
11. ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ	88
12. 介護保険制度の必要性	94
13. 介護保険制度が「必要だと思う」と回答した理由	97
14. 介護保険制度が「必要ではないと思う」と回答した理由	98
15. 将来の介護保険サービスの利用意向	99
16. 介護保険制度に対する期待	101
17. 介護保険制度に対する懸念	104
(4) 調査票	109

(1) 調査概要

1. 背景と目的

2000年に創設された介護保険制度は、私たちの暮らしを支える重要な社会的仕組みとして、四半世紀以上にわたり運用されてきた。

高齢化の進展に伴い介護のニーズは増加しているが、制度は多くの改正を経て、現在では非常に複雑なものになっている。

制度に対する理解不足は、「社会全体で介護を支え合う」という意識の醸成を妨げる要因ともなり得る。

本調査では、介護保険サービスをまだ利用していない日本国内に居住する日本国籍の20歳以上65歳未満の方を対象に、介護保険制度および介護保険サービスに対する認知度・理解度・イメージ、ならびに利用意向を明らかにすることを目的にWeb調査を行った。

2. 実施方法等

1) 調査対象

調査日時点で、以下に該当する方。

- ・ 調査実施期間に調査会社に登録している、日本国内に居住し、日本国籍を有する20歳以上65歳未満かつ介護保険サービス・障害福祉サービスを利用していない方。
- ・ 本調査に関し、調査協力者自身の同意（個人情報保護方針含む）が得られる方。
- ・ 回答後の同意の撤回は難しいことにも承諾いただける方。

2) 調査方法

- ・ 調査実施期間中に、Web調査会社に登録している調査対象者を対象に、3,000件を目途にWeb調査を実施。当センターが作成した調査票をもとに、配信、回収はWeb調査会社が実施。
- ・ 調査期間は、令和7（2025）年10月23日～10月24日
- ・ 有効回答数3,000件（回収数3,000件）

3) 倫理的配慮

- ・ 本調査は、一般財団法人長寿社会開発センター研究倫理審査委員会の承認を得て実施（承認番号:2025-07）。

3. 結果概要

3_1. 回答者の属性

回答者の属性は以下のとおりであった。 [Q1~4]

【年齢】（図表1-1）

- ・ 「20～39歳」 （50.0%）
- ・ 「40～64歳」 （50.0%）

図表1-1：Q1「年齢」（SA）の分布

（※図は、p 36を参照）

	N	%
20～39歳	1500	50.0%
40～64歳	1500	50.0%
合計	3000	100.0%

【現在の職業】（図表1-2）

- ・ 「会社員」が49.2%で最も多く、
「パート・アルバイト」（16.6%）、
「無職」（11.8%）の順に多かった。

図表1-2：Q2「現在の職業」（SA）の分布

（※図は、p 37を参照）

	N	%
会社員	1475	49.2%
公務員	126	4.2%
自営業	190	6.3%
パート・アルバイト	497	16.6%
学生	56	1.9%
専業主婦・主夫	267	8.9%
無職	354	11.8%
その他	35	1.2%
合計	3000	100.0%

【福祉・介護・医療などの分野で働いた経験】（図表1-3）

- ・「働いたことはない」が81.8%で最も多く、
- 「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」（9.4%）、
- 「過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）」（8.8%）の順に多かった。

図表1-3：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験」（SA）の分布
（※図は、p 39を参照）

	N	%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	9.4%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	263	8.8%
働いたことはない	<u>2454</u>	<u>81.8%</u>
合計	3000	100.0%

【家族等の介護経験の有無（福祉・介護・医療などの分野で「働いたことはない」と回答した方）】（図表1-4）

- ・家族等の介護経験が「ない」が86.9%で約9割を占めた。
- ・家族等の介護経験が「ある」は13.1%であった。

図表1-4：Q4「家族等の介護経験の有無（福祉・介護・医療などの分野で「働いたことはない」と回答した方）」（SA）の分布
（※図は、p 42を参照）

	N	%
ある	321	13.1%
ない	<u>2133</u>	<u>86.9%</u>
合計	2454	100.0%

3_2. 介護保険制度の認知度

介護保険制度の認知度は以下のとおりであった。 [Q5]

【介護保険制度の認知度】（図表1-5）

- ・「知っている」「知らない」の2類型でみると、
「知らない」と回答した割合が62.2%で、約6割を占めた。

図表1-5：Q5「介護保険制度の認知度」（SA）の分布

（※図は、p43を参照）

	N	%
内容をよく知っている	154	5.1%
ある程度知っている	982	32.7%
ほとんど知らない	1148	38.3%
まったく知らない	716	23.9%
合計	3000	100.0%

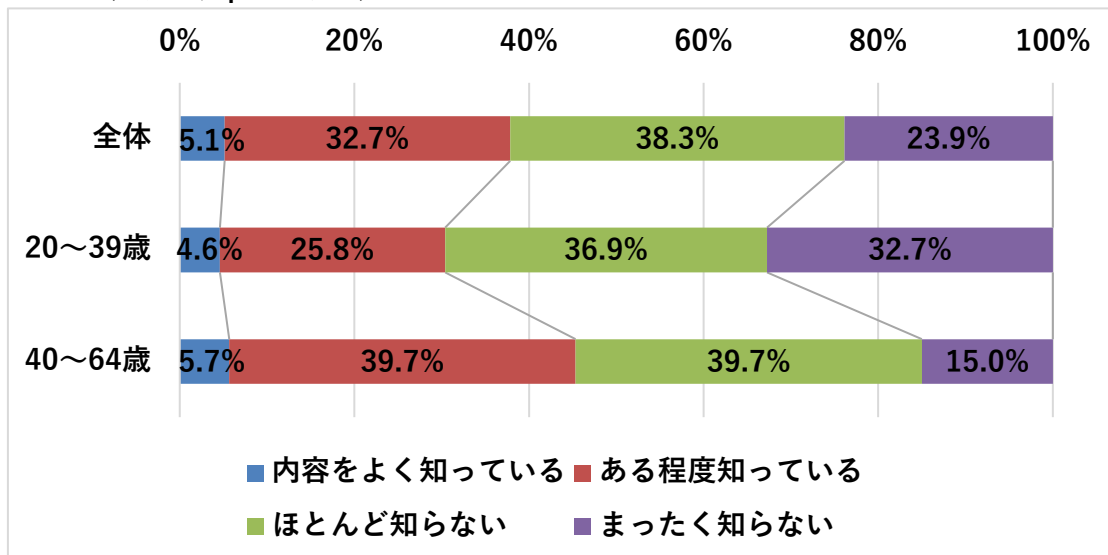
} 62.2%

【年齢別にみた介護保険制度の認知度】（図表1-6）

- ・「20～39歳」では、「ほとんど知らない」が36.9%で最も多かった。
- ・「40～64歳」では、「ある程度知っている」「ほとんど知らない」の回答が同数（39.7%）で最も多かった。
- ・「40～64歳」では、「知っている」と回答した計が45.4%と、「20～39歳」の30.4%と比較して15ポイント高かった。
- ・なお、「介護保険制度の認知度」（Q5）について、「年齢」（Q1）の違いによって有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-6：Q1「年齢」（SA）とQ5「介護保険制度の認知度」（SA）のクロス集計（N=3,000）

（※表は、p44を参照）

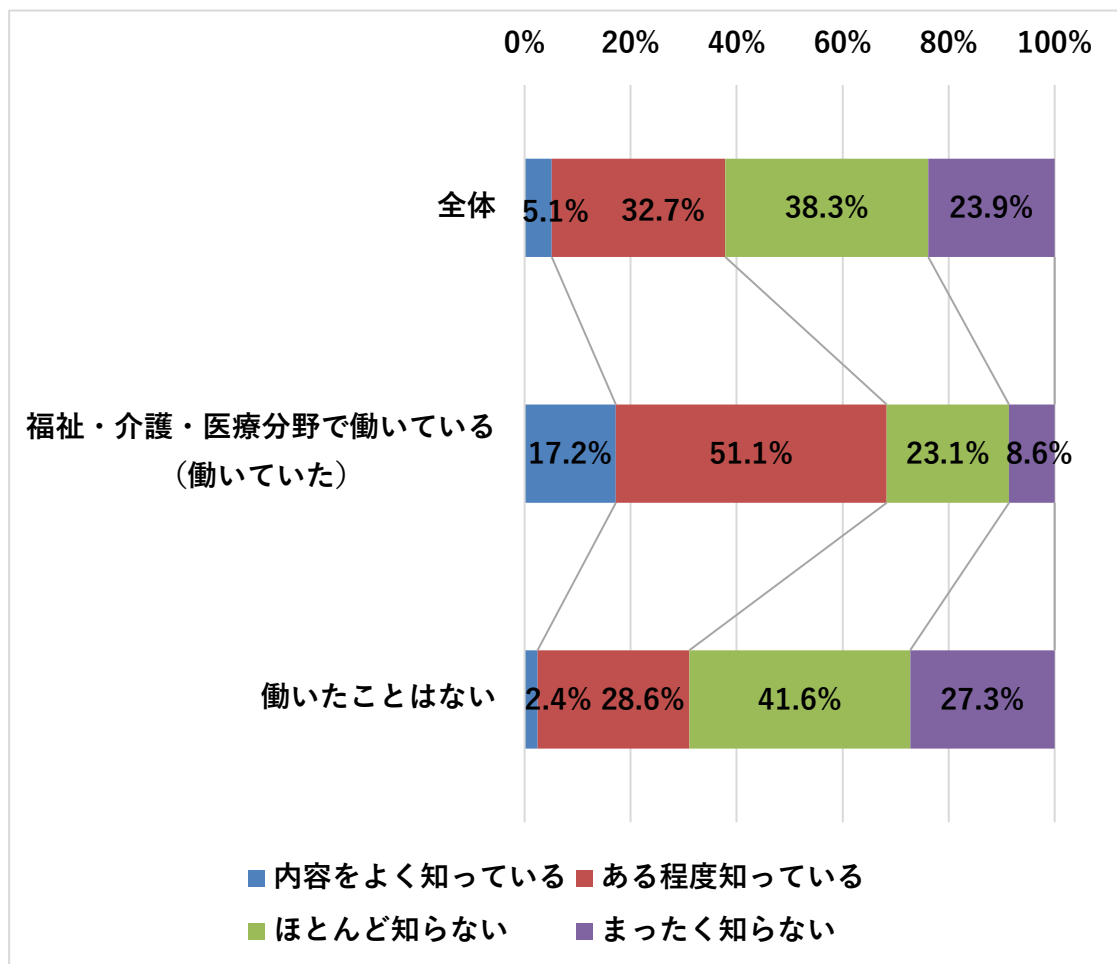


カイ2乗検定： $p < .05$

【福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別にみた介護保険制度の認知度】（図表1-7）

- ・「福祉・介護・医療分野で働いている（働いていた）」方では、「ある程度知っている」が51.1%で最も多かった。
- ・「働いたことはない」方では、「ほとんど知らない」が41.6%で最も多かった。
- ・なお、「介護保険制度の認知度」（Q5）について、「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（Q3）の間で有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-7：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（SA）とQ5「介護保険制度の認知度」（SA）のクロス集計（N=3,000）
（※表は、p45を参照）

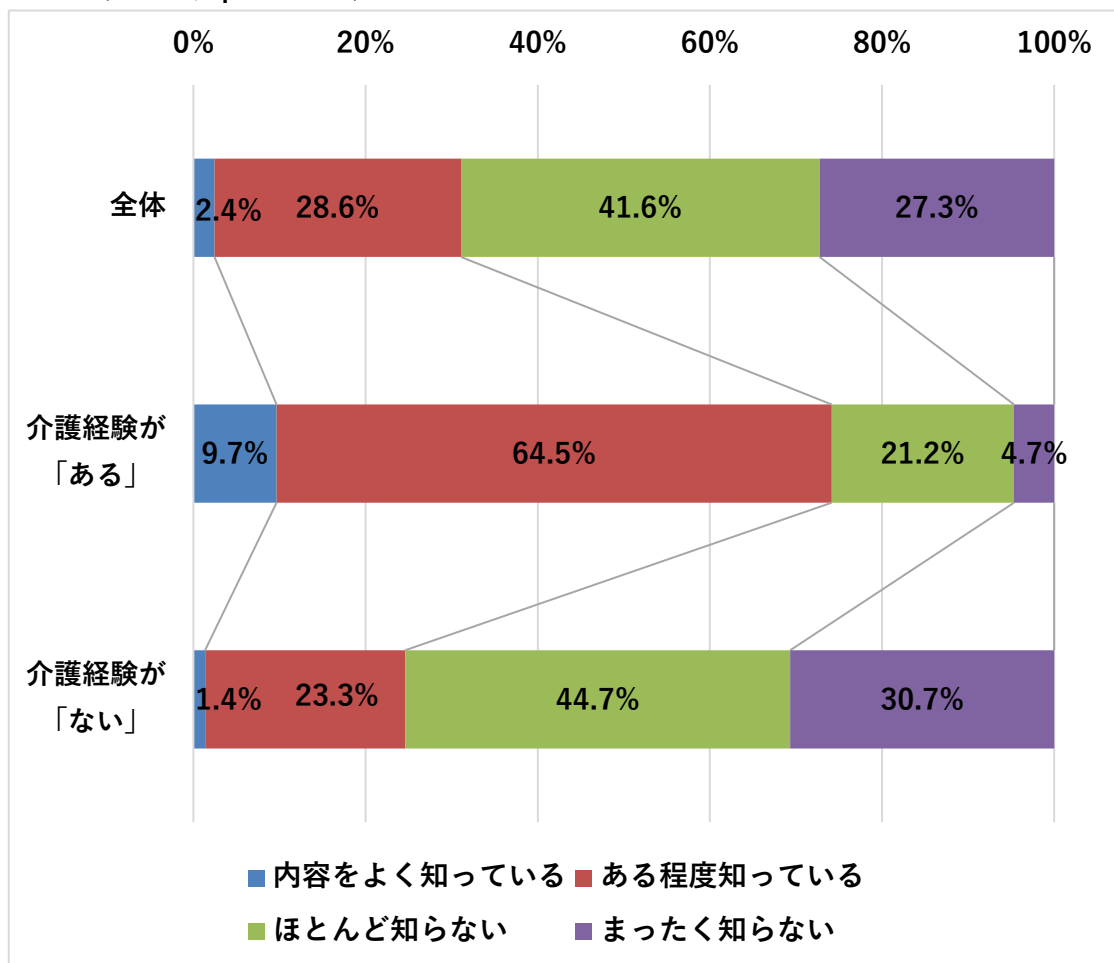


カイ2乗検定： $p < .05$

【福祉・介護・医療などの分野で働いたことはない方の介護経験の有無別にみた介護保険制度の認知度】（図表1-8）

- ・介護経験が「ある」方では、「ある程度知っている」が64.5%で最も多かった。
- ・介護経験が「ない」方では、「ほとんど知らない」が44.7%で最も多かった。
- ・なお、「介護保険制度の認知度」（Q5）について、「福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無」（Q4）の間で有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-8：Q4「福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無」（SA）とQ5「介護保険制度の認知度」（SA）のクロス集計（N=2,454）
（※表は、p46を参照）



カイ2乗検定： $p < .05$

3.3. 介護保険制度を知ったきっかけ

介護保険制度を知ったきっかけは以下のとおりであった。[Q6]

【年齢別にみた介護保険制度を知ったきっかけ】（図表1-9）

- ・順位の違いはあるものの「20～39歳」「40～64歳」ともに上位4つは共通していた。

「20～39歳」	「40～64歳」
1.「マスメディア」30.7%	1.「マスメディア」33.4%
2.「職場」13.8%	2.「福祉・介護関係者」18.5%
3.「福祉・介護関係者」13.8%	3.「市区町村からの情報」16.5%
4.「市区町村からの情報」12.5%	4.「職場」12.8%

- ・「学校」と回答した割合は、「20～29歳」が「40～64歳」に比べて8.6ポイント高かった。
- ・また、「介護保険制度を知ったきっかけ」（Q6）について、「年齢」（Q1）の違いによって有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-9：Q1「年齢」（SA）とQ6「介護保険制度を知ったきっかけ」（SA）のクロス集計（N=1,136）

（※図は、p49を参照）

	全体	マスメディア (新聞、テレビ、インターネットなど)	市区町村からの情報	知人・友人	職場	学校	福祉・介護関係者	医療機関
全体	1136	367	169	112	150	46	189	103
	100.0%	32.3%	14.9%	9.9%	13.2%	4.0%	16.6%	9.1%
20～39歳	456	140	57	42	63	42	63	49
	100.0%	30.7%	12.5%	9.2%	13.8%	9.2%	13.8%	10.7%
40～64歳	680	227	112	70	87	4	126	54
	100.0%	33.4%	16.5%	10.3%	12.8%	0.6%	18.5%	7.9%

カイ2乗検定： $p < .05$

3_4. 介護保険サービスを提供する「事業所」の認知度

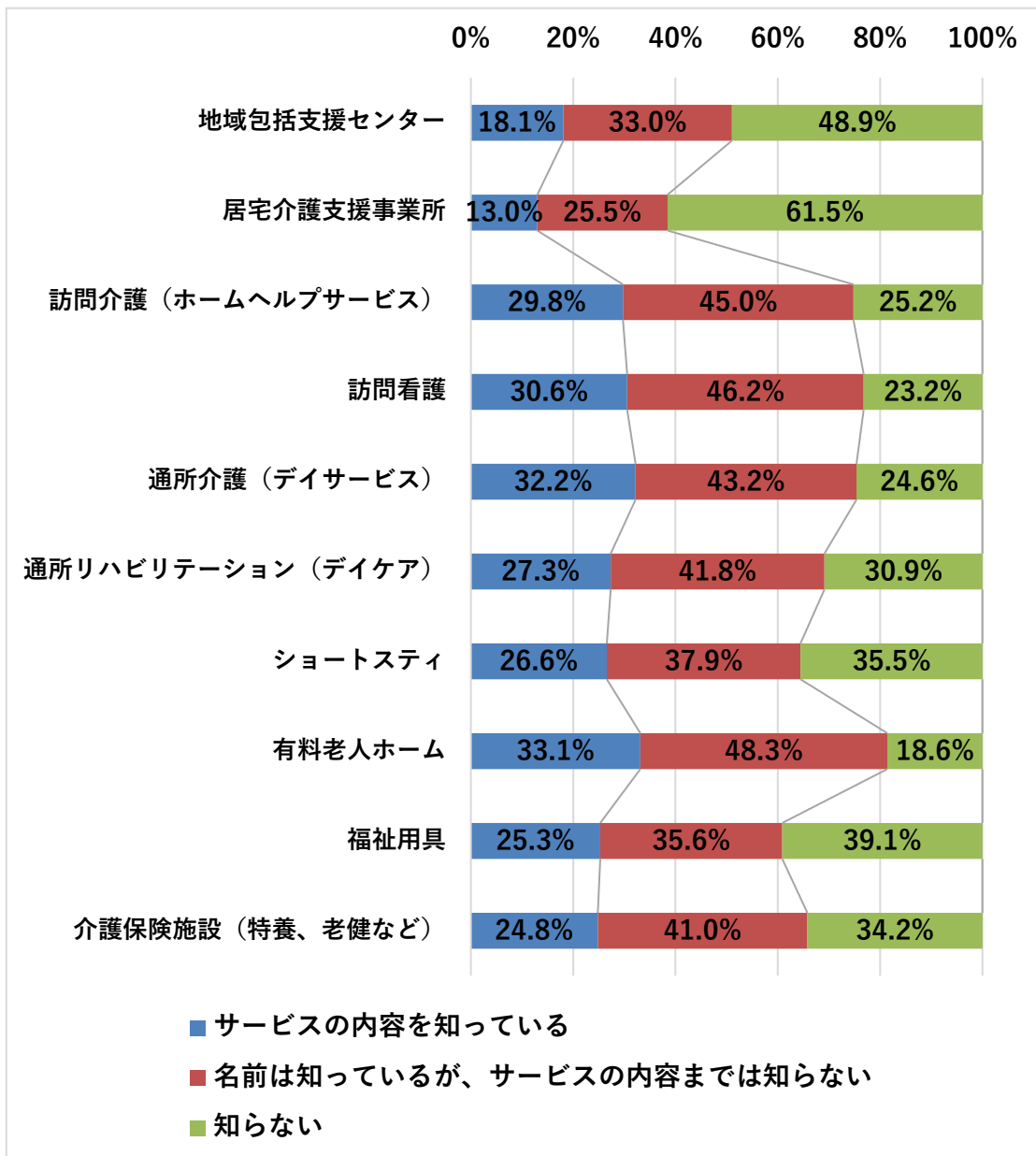
介護保険サービスを提供する「事業所」の認知度は以下のとおりであった。[Q9]

【事業所の認知度】（図表1-10）

- ・「知らない」の回答に着目してみると、
「居宅介護支援事業所」が61.5%で最も多く、
「地域包括支援センター」（48.9%）、
「福祉用具」（39.1%）の順に多かった。

図表1-10：Q9「事業所」の認知度（SA）の分布（N=3,000）

（※表は、p 56を参照）



【事業所別にみた年齢層ごとの認知度の比較】（図表1-11）

「サービスの内容を知っている」と回答した割合

- ・ 順位の違いはあるものの「20～39歳」「40～64歳」ともに上位3つは共通していた。

「20～39歳」	「40～64歳」
1.「有料老人ホーム」30.3%	1.「通所介護」36.0%
2.「通所介護」28.4%	2.「有料老人ホーム」35.9%
3.「訪問看護」28.0%	3.「訪問看護」33.1%

「知らない」と回答した割合

- ・ 「20～39歳」「40～64歳」ともに上位3つは共通していた。

「20～39歳」	「40～64歳」
1.「居宅介護支援事業所」65.9%	1.「居宅介護支援事業所」57.2%
2.「地域包括支援センター」55.4%	2.「地域包括支援センター」42.5%
3.「福祉用具」48.9%	3.「福祉用具」29.4%

「20～39歳」における事業所の認知度

- ・ 「20～39歳」の認知度をみると、多くの事業所で「知らない」と回答する割合が高い一方、
「有料老人ホーム」だけは「サービス内容を知っている」（30.3%）と回答する割合が高かった。

図表1-11：Q9「事業所別にみた年齢層ごとの認知度の比較」（SA）の
分布（N=3,000）

（※図は、p59～60を参照）

No.	事業所名	サービスの内容を知っている			知らない		
		20～39歳	40～64歳	差	20～39歳	40～64歳	差
①	地域包括支援センター	14.8%	21.3%	6.5%	55.4%	42.5%	12.9%
②	居宅介護支援事業所	11.9%	14.1%	2.2%	65.9%	57.2%	8.7%
③	訪問介護（ホームヘルプサービス）	27.2%	32.3%	5.1%	32.2%	18.2%	14.0%
④	訪問看護	28.0%	33.1%	5.1%	30.8%	15.7%	15.1%
⑤	通所介護（デイサービス）	28.4%	36.0%	7.6%	32.3%	17.0%	15.3%
⑥	通所リハビリテーション（デイケア）	24.9%	29.7%	4.8%	36.5%	25.2%	11.3%
⑦	ショートステイ	22.3%	30.8%	8.5%	44.3%	26.7%	17.6%
⑧	有料老人ホーム	30.3%	35.9%	5.6%	26.2%	11.0%	15.2%
⑨	福祉用具	20.5%	30.1%	9.6%	48.9%	29.4%	19.5%
⑩	介護保険施設（特養、老健など）	21.7%	27.9%	6.2%	43.9%	24.5%	19.4%

3_5. 介護保険サービスを担う「専門職」の認知度

介護保険サービスを担う「専門職」の認知度は以下のとおりであった。

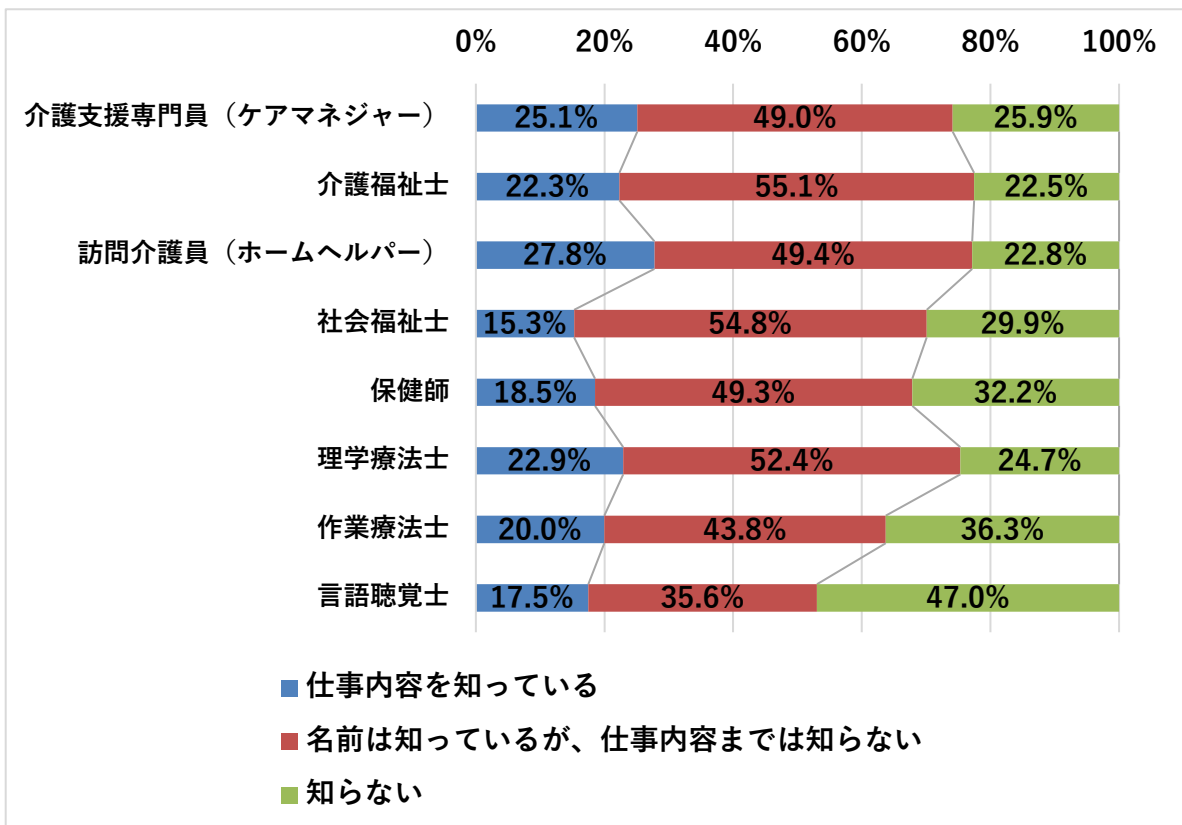
[Q10]

【専門職の認知度】（図表1-12）

- ・「知らない」の回答に着目してみると、「言語聴覚士」が47.0%で最も多く、「作業療法士」（36.3%）、「保健師」（32.2%）の順に多かった。
- ・「介護支援専門員（ケアマネジャー）」と「訪問介護員（ホームヘルパー）」では、「仕事内容を知っている」と回答した割合がそれぞれ25.1%と27.8%で、他の専門職と比較して高い割合となっていた。
- ・「介護支援専門員（ケアマネジャー）」としての認知度は全体で2番目に高く、約4人に1人が「仕事内容を知っている」（25.1%）と回答していた。なお、居宅介護支援事業所としての認知度は低かった（居宅介護支援事業所を「知らない」と回答した割合：「20～39歳」65.9%、「40～64歳」57.2%）。

図表1-12：Q10「専門職」の認知度（SA）の分布（N=3,000）

（※表は、p73を参照）



【年齢層ごとの認知度の比較】（図表1-13）

「仕事内容を知っている」と回答した割合

- ・上位3つは、それぞれ以下のとおりであった。

「20～39歳」	「40～64歳」
1. 「訪問介護員」 25.7%	1. 「訪問介護員」 29.9%
2. 「介護福祉士」 23.1%	2. 「介護支援専門員」 29.0%
3. 「介護支援専門員」 21.2%	3. 「理学療法士」 25.1%

「知らない」と回答した割合

- ・「20～39歳」「40～64歳」ともに上位3つは共通していた。

「20～39歳」	「40～64歳」
1. 「言語聴覚士」 47.1%	1. 「言語聴覚士」 46.8%
2. 「作業療法士」 39.0%	2. 「作業療法士」 33.5%
3. 「保健師」 38.6%	3. 「保健師」 25.7%

「20～39歳」における専門職の認知度

- ・「介護福祉士」「社会福祉士」については、
「20～39歳」の方が「40～64歳」よりも「仕事内容を知っている」
(介護福祉士：「20～39歳」23.1%、「40～64歳」21.5%
社会福祉士：「20～39歳」16.1%、「40～64歳」14.4%)
と回答した割合が高かった。

図表1-13：Q10「専門職別に応じた年齢層ごとの認知度の比較」（SA）の
分布（N=3,000）

（※図は、p76～77を参照）

No.	専門職名	仕事内容を知っている			知らない		
		20～39 歳	40～64 歳	差	20～39 歳	40～64 歳	差
①	介護支援専門員 （ケアマネ ジャー）	21.2%	29.0%	7.8%	33.9%	17.9%	16.0%
②	介護福祉士	23.1%	21.5%	1.6%	27.1%	17.9%	9.2%
③	訪問介護員 （ホームヘル パー）	25.7%	29.9%	4.2%	29.7%	16.0%	13.7%
④	社会福祉士	16.1%	14.4%	1.7%	34.7%	25.1%	9.6%
⑤	保健師	17.9%	19.1%	1.2%	38.6%	25.7%	12.9%
⑥	理学療法士	20.7%	25.1%	4.4%	30.7%	18.6%	12.1%
⑦	作業療法士	19.6%	20.3%	0.7%	39.0%	33.5%	5.5%
⑧	言語聴覚士	17.3%	17.7%	0.4%	47.1%	46.8%	0.3%

3_6. 「介護職の仕事」のイメージ

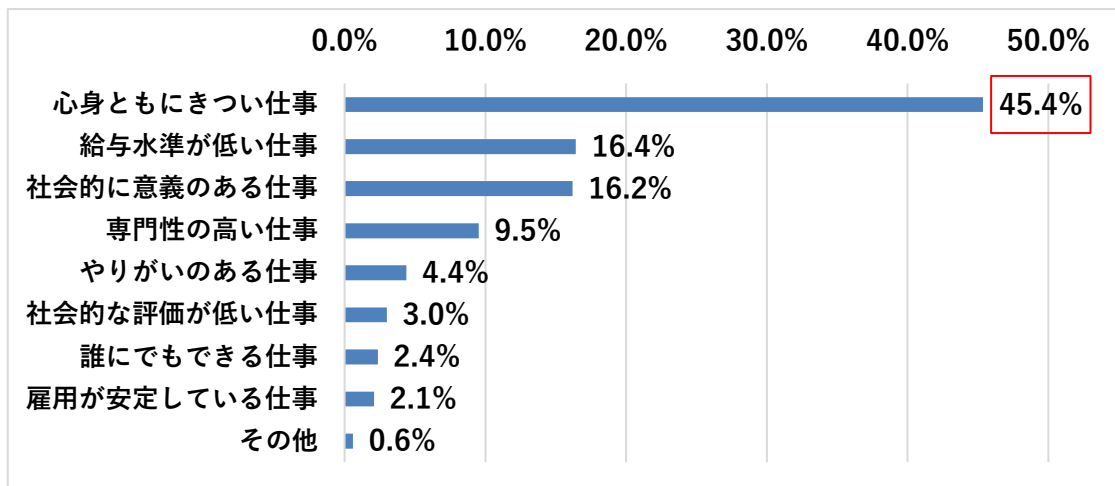
「介護職の仕事」のイメージは以下のとおりであった。〔Q11〕

【「介護職の仕事」のイメージ】（図表1-14）

- ・「心身ともにきつい仕事」が45.4%で最も多く、
「給与水準が低い仕事」（16.4%）、
「社会的に意義のある仕事」（16.2%）、
「専門性の高い仕事」（9.5%）の順に多かった。
- ・また、「心身ともにきつい仕事」「給与水準が低い仕事」などの負のイメージが約7割みられた一方、「社会的に意義のある仕事」「専門性の高い仕事」などの正のイメージが約3割みられた。

図表1-14：Q11「「介護職の仕事」のイメージ」（SA）の分布（N=3,000）

（※表は、p 88を参照）



【年齢別にみた「介護職の仕事」のイメージ】（図表1-15）

- ・順位の違いはあるものの「20～39歳」「40～64歳」とともに上位4つは共通していた。

「20～39歳」	「40～64歳」
1. 「心身ともにきつい仕事」 45.0%	1. 「心身ともにきつい仕事」 45.7%
2. 「給与水準が低い仕事」 16.0%	2. 「社会的に意義のある仕事」 17.8%
3. 「社会的に意義のある仕事」 14.6%	3. 「給与水準が低い仕事」 16.9%
4. 「専門性の高い仕事」 8.6%	4. 「専門性の高い仕事」 10.5%

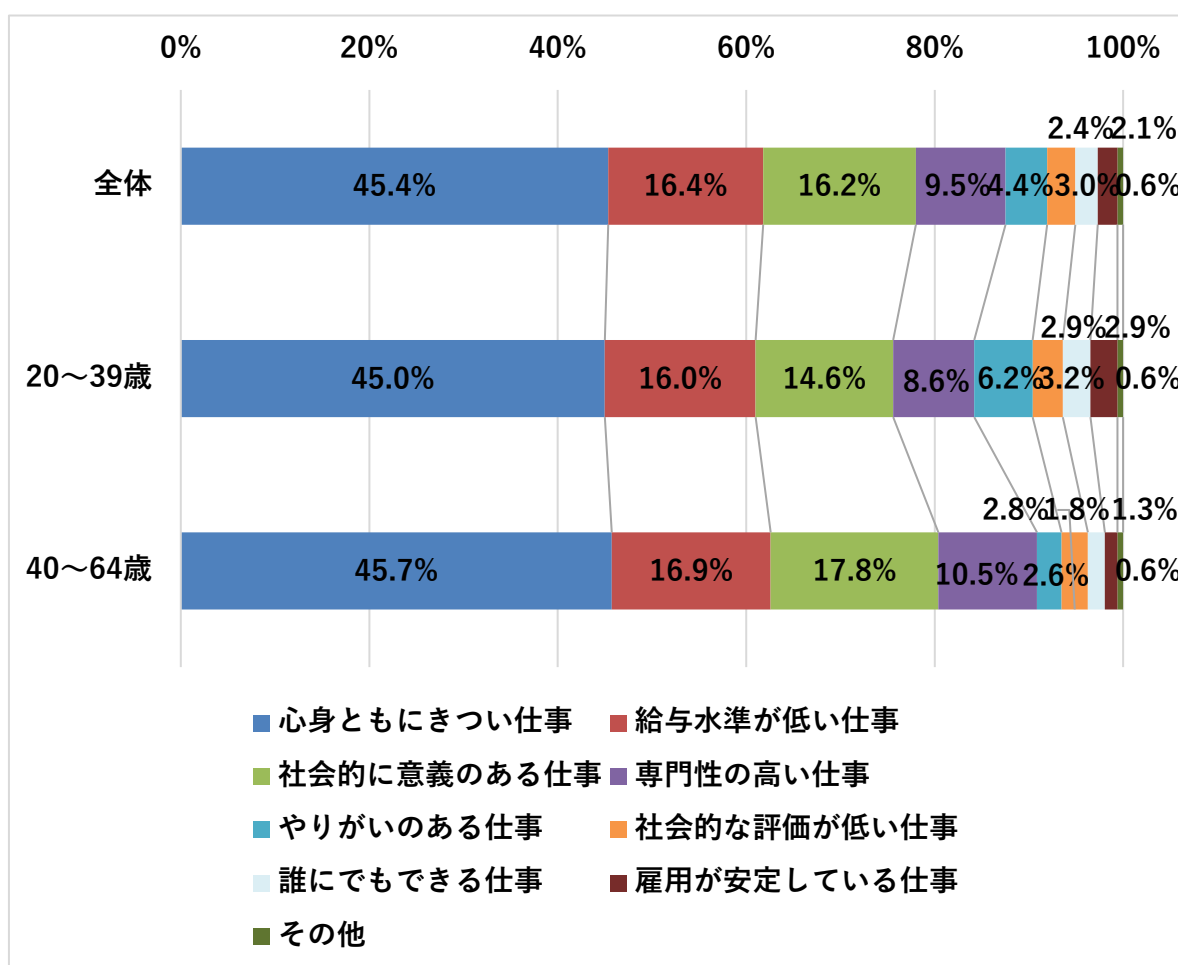
- ・「社会的に意義のある仕事」と回答した割合は、
「40～64歳」（17.8%）が「20～39歳」（14.6%）に比べて3.2ポイント高かった。
- ・「やりがいのある仕事」と回答した割合は、
「20～39歳」（6.2%）が「40～64歳」（2.6%）に比べて3.6ポイント高かった。
- ・なお、「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」（Q11）について、「年齢」（Q1）の違いによって有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-15：Q1「年齢」(SA)と

Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」(SA)のクロス集計(N=3,000)

	全体	心身ともにきつい仕事	給与水準が低い仕事	社会的に意義のある仕事	専門性の高い仕事	やりがいのある仕事	社会的な評価が低い仕事	誰にでもできる仕事	雇用が安定している仕事	その他
全体	3000	1361	493	486	286	132	90	71	63	18
	100.0%	45.4%	16.4%	16.2%	9.5%	4.4%	3.0%	2.4%	2.1%	0.6%
20～39歳	1500	675	240	219	129	93	48	44	43	9
	100.0%	45.0%	16.0%	14.6%	8.6%	6.2%	3.2%	2.9%	2.9%	0.6%
40～64歳	1500	686	253	267	157	39	42	27	20	9
	100.0%	45.7%	16.9%	17.8%	10.5%	2.6%	2.8%	1.8%	1.3%	0.6%

カイ2乗検定： $p < .05$



3_7. 介護保険制度の必要性

介護保険制度の必要性は以下のとおりであった。 [Q12~14]

【介護保険制度の必要性】（図表1-16）

- ・「必要だと思う」「必要ではないと思う」の2類型でみると、「必要だと思う」と回答した割合が85.5%であった。

図表1-16：Q12「介護保険制度の必要性」（SA）の分布

（※図は、p94を参照）

	N	%
非常に必要だと思う	697	23.2%
必要だと思う	1869	62.3%
あまり必要ではないと思う	283	9.4%
まったく必要ではないと思う	151	5.0%
合計	3000	100.0%

85.5%

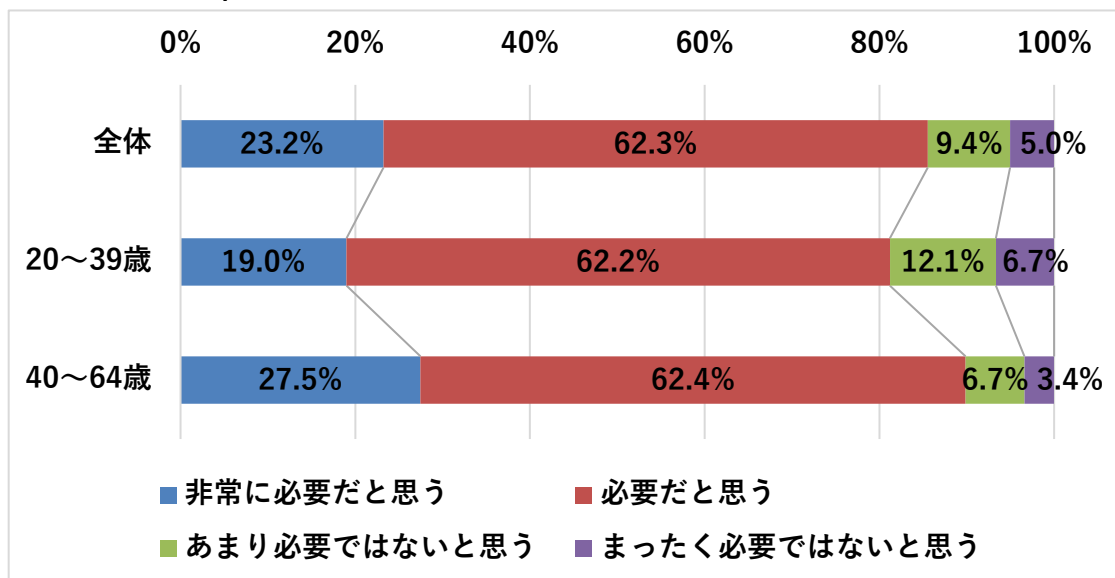
【年齢別にみた介護保険制度の必要性】（図表1-17）

- ・いずれの年齢において「必要だと思う」の回答が多い。
- ・「必要ではない」の回答の計に着目してみると、「20~39歳」は18.8%と、「40~64歳」の10.1%と比較すると高かった。
- ・なお、「介護保険制度の必要性」（Q12）について、「年齢」（Q1）の違いによって有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-17：Q1「年齢」（SA）と

Q12「介護保険制度の必要性」（SA）のクロス集計（N=3,000）

（※表は、p95を参照）

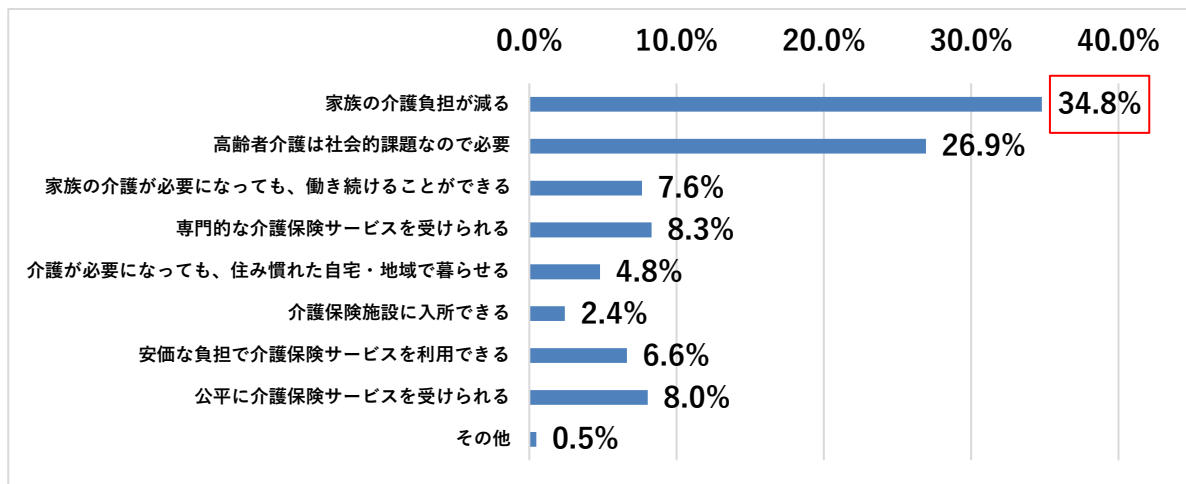


カイ2乗検定： $p < .05$

【「必要だと思う」と回答した理由】（図表1-18）

- ・「家族の介護負担が減る」が34.8%で最も多く、
- 「高齢者介護は社会的課題なので必要」（26.9%）、
- 「専門的な介護保険サービスを受けられる」（8.3%）の順に多かった。

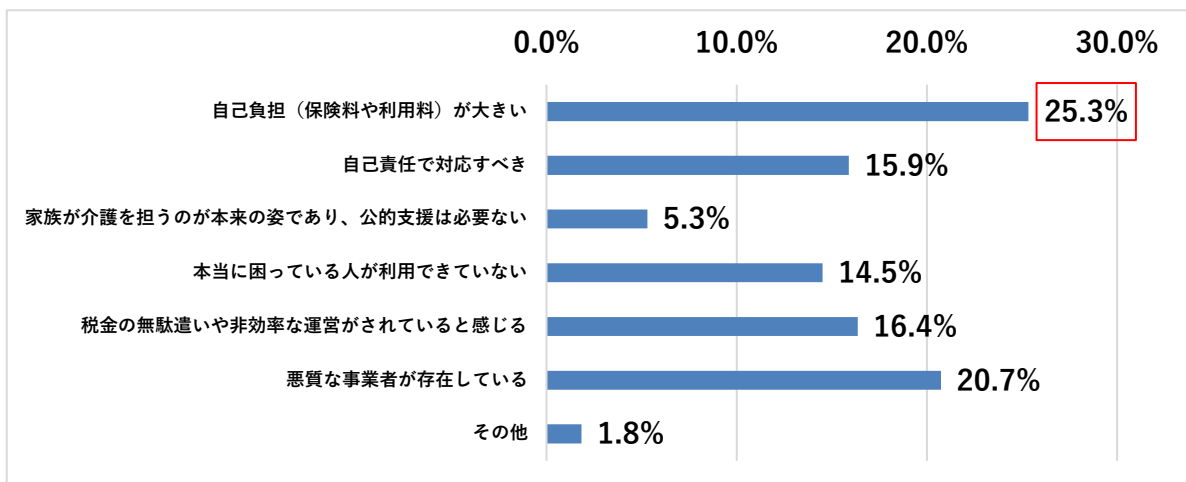
図表1-18：Q13「介護保険制度が「必要だと思う」と回答した理由」（SA）の分布（N=2,566）
（※表は、p97を参照）



【「必要ではないと思う」と回答した理由】（図表1-19）

- ・「自己負担（保険料や利用料）が大きい」が25.3%で最も多く、
- 「悪質な事業者が存在している」（20.7%）、
- 「税金の無駄遣いや非効率な運営がされていると感じる」（16.4%）の順に多かった。

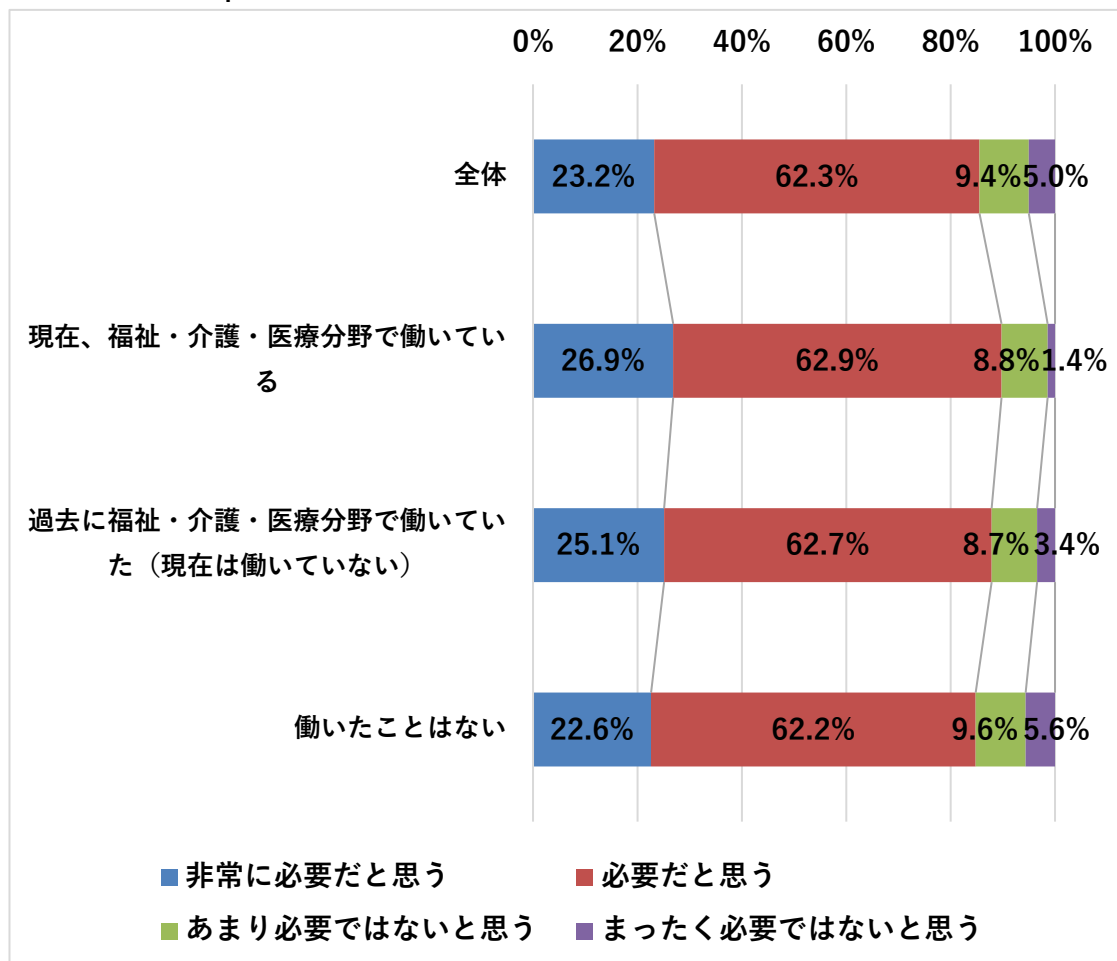
図表1-19：Q14「介護保険制度が「必要ではないと思う」と回答した理由」（SA）の分布（N=434）
（※表は、p98を参照）



【福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別にみた介護保険制度の必要性】（図表1-20）

- ・すべての経験層において「必要だと思う」が半数以上で最も多かった。
- ・「必要ではない」と回答した計の割合に着目してみると、
「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」（10.2%）、
「過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）」（12.1%）、
「働いたことはない」（15.2%）となっており、
福祉・介護・医療分野で働いた経験がない方では制度の必要性を感じていない割合が高い。
- ・なお、「介護保険制度の必要性」（Q12）について、「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（Q3）の間で有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-20：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（SA）と
Q12「介護保険制度の必要性」（SA）のクロス集計（N=3,000）
（※表は、p 96を参照）



カイ2乗検定： $p < .05$

3_8. 将来の介護保険サービスの利用意向

将来の介護保険サービスの利用意向は以下のとおりであった。 [Q15]

【介護保険サービスの利用意向】（図表1-21）

- ・ 「利用したい」「利用したくない」の2類型でみると、
「利用したい」と回答した割合が77.7%で、約8割を占めた。

図表1-21：Q15「将来の介護保険サービスの利用意向」（SA）の分布

（※図は、p 99を参照）

	回答数	%
積極的に利用したい	580	19.3%
必要であれば利用したい	1752	58.4%
できるだけ利用したくない	419	14.0%
利用したくない	249	8.3%
合計	3000	100.0%

77.7%

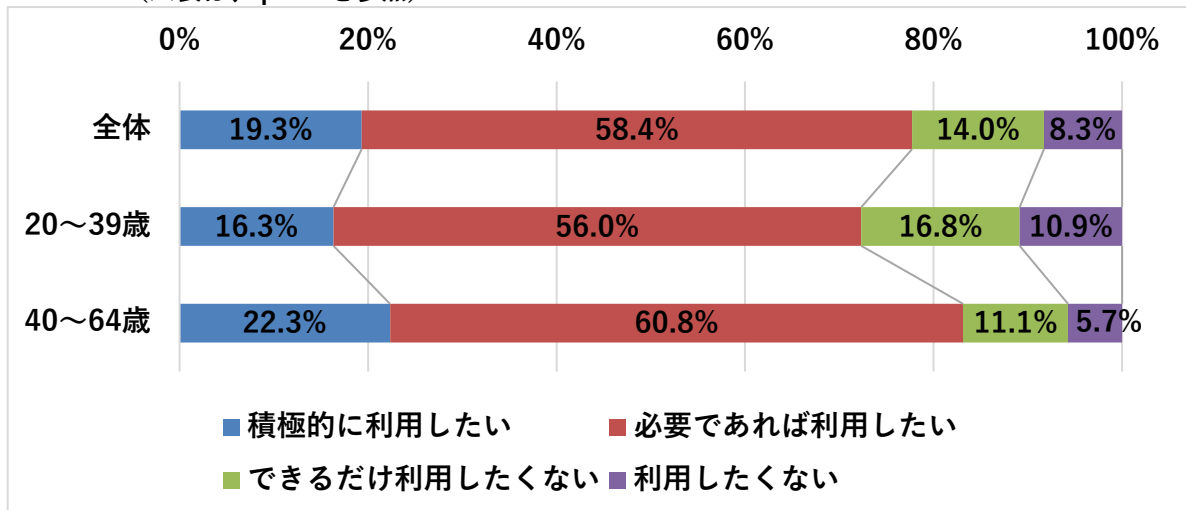
【年齢別にみた介護保険サービスの利用意向】（図表1-22）

- ・ いずれの年齢において、
「必要であれば利用したい」の回答が最も多かった。
- ・ 「利用したくない」の回答の計に着目してみると、
「20～39歳」は27.7%と、「40～64歳」の16.8%と比較すると高かった。
- ・ なお、「将来の介護保険サービスの利用意向」（Q15）について、
「年齢」（Q1）の違いによって有意差が認められた（カイ2乗検定： $p < .05$ ）。

図表1-22：Q1「年齢」（SA）と

Q15「将来の介護保険サービスの利用意向」（SA）のクロス集計
(N = 3,000)

（※表は、p 100を参照）



カイ2乗検定： $p < .05$

3_9. 介護保険制度に対する「期待」と「懸念」

介護保険制度に対する「期待」と「懸念」は以下のとおりであった。 [Q16～17]

【介護保険制度に対する期待】（図表1-23）

- ・ 介護保険制度に対して期待していることは、
「自己負担（保険料・利用料）を抑えてほしい」が44.2%で最も多く、
「利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい」
（12.9%）の順に多かった。

図表1-23：Q16「介護保険制度に対する期待」（SA）の分布

（※図は、p101を参照）

	N	%
自己負担（保険料・利用料）を抑えてほしい	1326	44.2%
独居や認知症に対する介護保険サービスをより充実してほしい	275	9.2%
利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい	388	12.9%
地域格差（量や質）のない介護保険サービスを実現してほしい	192	6.4%
家族介護者等への支援を充実させてほしい	239	8.0%
安心して利用できるよう介護保険サービスの質をさらに向上してほしい	268	8.9%
効率的、効果的な介護保険サービスに絞ってほしい	286	9.5%
その他	26	0.9%
合計	3000	100.0%

【介護保険制度に対する懸念】（図表1-24）

- ・ 介護保険制度に対して懸念していることは、
「自己負担（保険料・利用料）の増加」が45.8%で最も多く、
「人材不足による介護保険サービスの欠如」（25.5%）、
「介護保険サービスの質の低下」（13.4%）の順に多かった。

図表1-24：Q17「介護保険制度に対する懸念」（SA）の分布

（※図は、p104を参照）

	N	%
自己負担（保険料・利用料）の増加	1374	45.8%
介護保険サービスの質の低下	401	13.4%
介護保険サービスの減少	246	8.2%
不要な介護保険サービスの拡大	199	6.6%
人材不足による介護保険サービスの欠如	765	25.5%
その他	15	0.5%
合計	3000	100.0%

(2) 総括

<目的>

本調査は、介護保険サービスをまだ利用していない日本国内に居住する日本国籍の20歳以上65歳未満の方を対象に、介護保険制度および介護保険サービスに対する認知度・理解度・イメージ、ならびに利用意向を明らかにすることを目的に実施した。

1. 回答者の属性・特徴

本調査は、20歳以上65歳未満の日本国籍を有する者を対象とし、20～39歳（以下、「若年層」という）と40～64歳（以下、「中年層」という）がそれぞれ50%となるように割付して実施した。

そのため、年齢層の異なる二つの層から均等に意見を収集した点が特徴である。

回答者の職業は会社員が約半数を占め、就労層が中心であった。

また、介護分野などの就労経験や家族介護経験を持たない方が大多数であり、介護に直接関わる機会が少ない方の視点が結果に反映されている（図表2-1～図表2-2）。

図表2-1：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験」（SA）の分布

	N	%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	9.4%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	263	8.8%
働いたことはない	2454	81.8%
合計	3000	100.0%

図表2-2：Q4「家族等の介護経験の有無（福祉・介護・医療などの分野で「働いたことはない」と回答した方）」（SA）の分布

	N	%
ある	321	13.1%
ない	2133	86.9%
合計	2454	100.0%

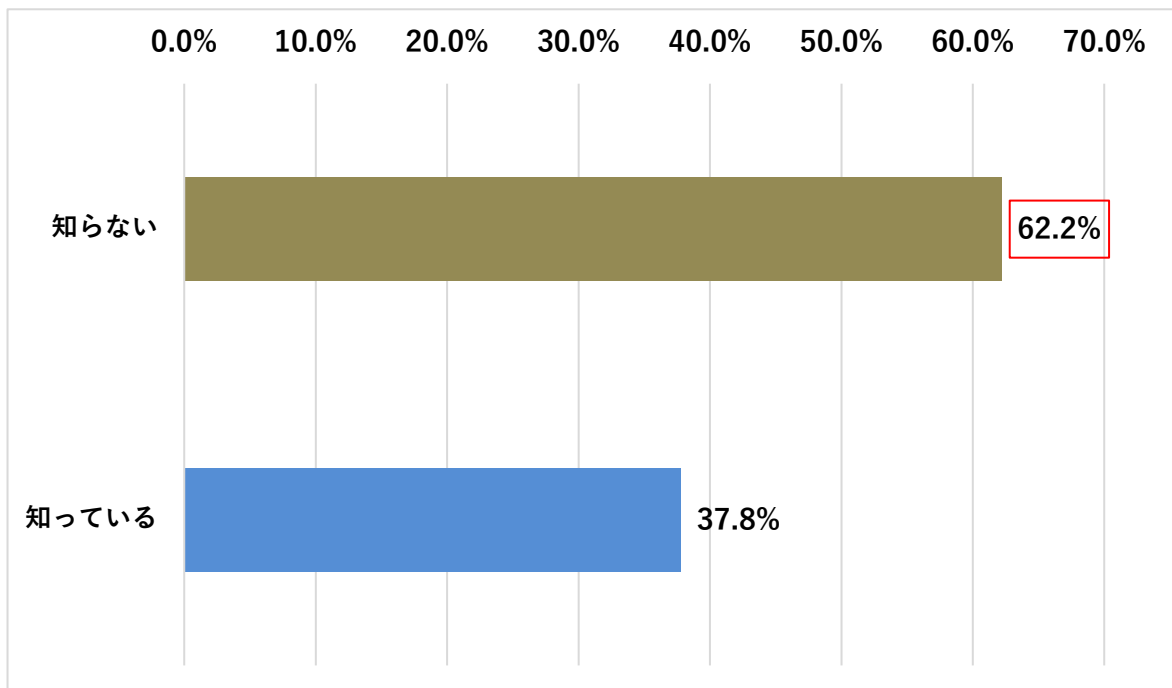
2. 介護保険制度の認知度の現状

介護保険制度の認知度は全体として低く、「知らない」が62.2%に達しており、制度の認知が十分に浸透していない現状が明らかとなった（図表2-3）。

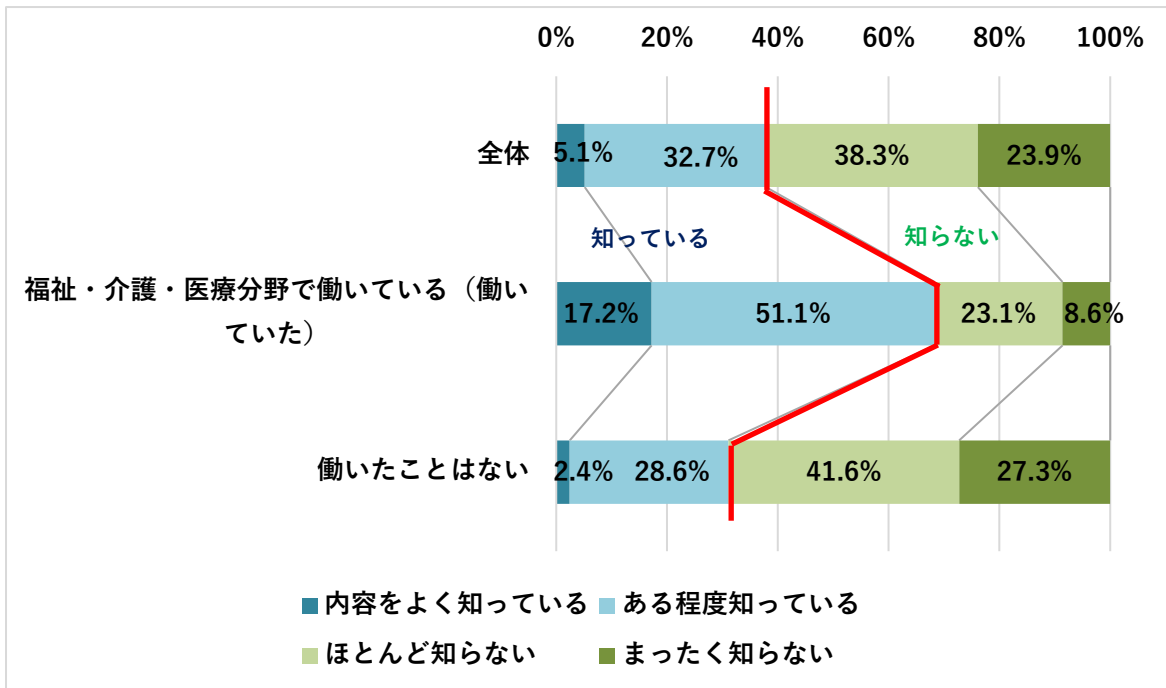
若年層では「ほとんど知らない」が最も多く、認知度が低かった。一方、中年層では「ある程度知っている」と「ほとんど知らない」が同程度であり、年齢が上がるにつれて認知度が高くなることが示唆された。

また、認知度は介護分野などの就労経験や家族介護経験の有無により異なり、経験者では認知度が高い一方、未経験者では認知度が低く、これは、制度やサービスに関わる機会が制度の認知度に直結していることを示唆しており、介護経験の有無に左右されない学習機会の拡充が求められる（図表2-4～図表2-5）。

図表2-3：Q5「介護保険制度の認知度」（SA）の分布（N=3,000）

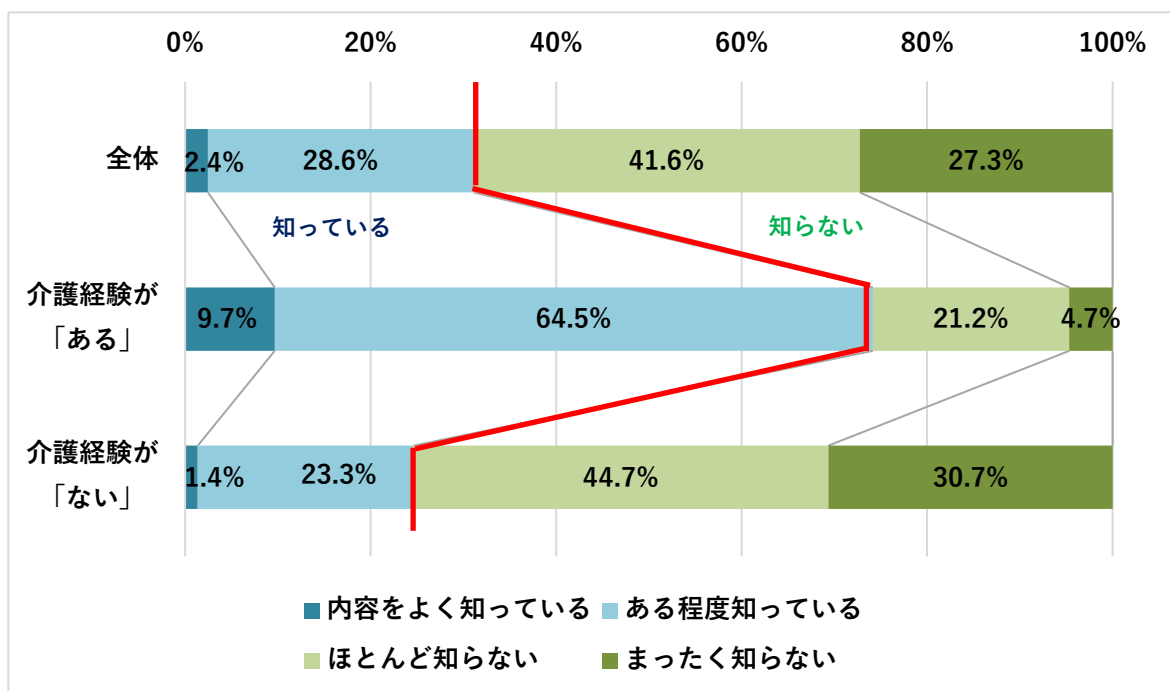


図表2-4：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」(SA)と
Q5「介護保険制度の認知度」(SA)のクロス集計(N=3,000)



カイ2乗検定： $p < .05$

図表2-5：Q4「福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無」(SA)と
Q5「介護保険制度の認知度」(SA)のクロス集計(N=2,454)



カイ2乗検定： $p < .05$

3. 介護保険制度を知ったきっかけ

介護保険制度を知るきっかけとしては、マスメディアや市区町村からの情報、職場、福祉・介護関係者が中心であった。

なお、若年層では介護保険制度を知るきっかけとして「学校」が9.2%みられ、中年層に比べ高かった（図表2-6）。

これは、学校教育の中で介護に関する学習の機会が徐々に広がっていることが考えられる。

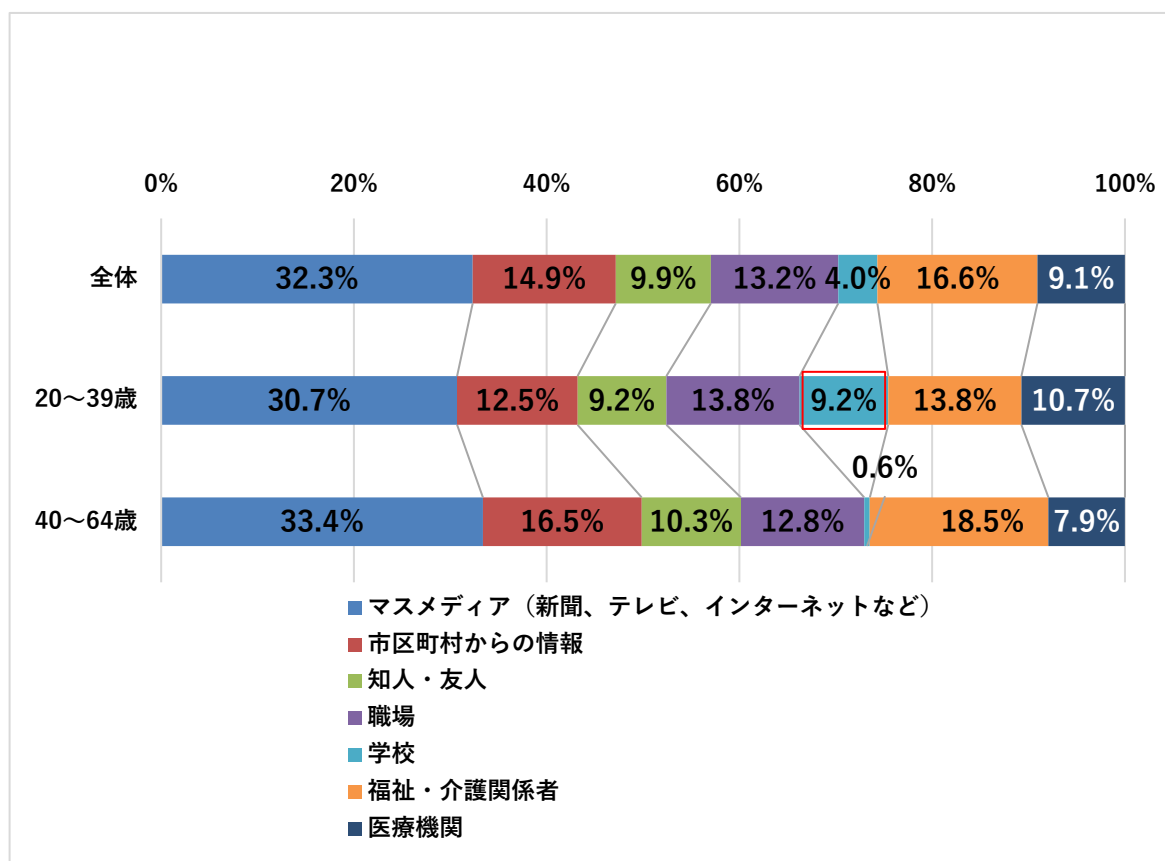
実際に、文部科学省の「中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説（技術・家庭編）平成29年7月」で、「介護など高齢者との関わり方について理解すること」が示されている。

また、「高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説（家庭編）平成30年7月」には、「介護保険制度」「介護予防」「地域包括ケア」など、制度や地域支援体制等に関する内容が含まれている。

しかし、介護保険制度等の学校教育の機会はあるものの、依然として制度の理解は十分とはいえず、現在の教育内容だけでは制度の複雑さや実際の利用場面を十分に理解するには限界があることがうかがわれる。

こうした点を踏まえると、学校教育における学習内容の充実や実践的な学びの機会をさらに強化していく必要がある。

図表2-6：Q1「年齢」（SA）と
Q6「介護保険制度を知ったきっかけ」（SA）のクロス集計（N=1,136）



カイ2乗検定： $p < .05$

4. 介護保険サービス事業所・専門職の認知度と介護職のイメージ

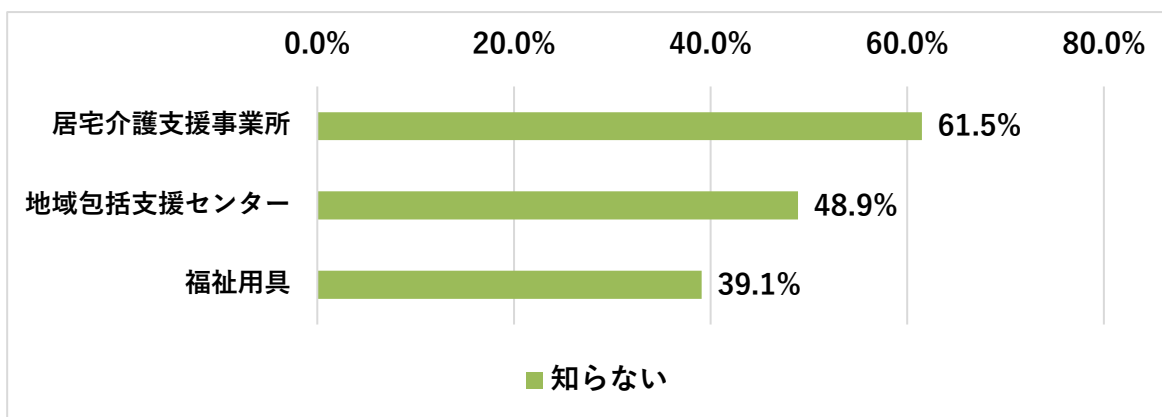
介護保険サービス事業所の認知度は全体として低く、特に介護保険制度の中核機関としての「居宅介護支援事業所」や地域包括ケアシステムの基盤となる「地域包括支援センター」の認知度の低さが目立った（図表2-7）。

一方で、「有料老人ホーム」「通所介護」「訪問看護」など、名称からサービス内容をイメージしやすい事業所は比較的知られており、事業所の役割や名称の分かりやすさが認知度に影響していることがうかがえた（図表2-8）。

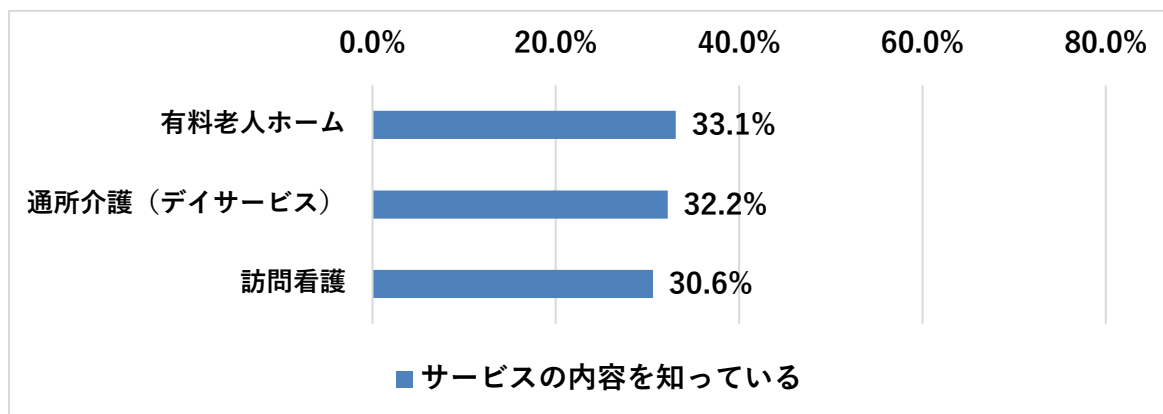
特に「有料老人ホーム」に関しては、最近マスメディアにおいても広告が多いことから、それらも寄与していると思われる。

なお、Q9の事業所の認知度調査において、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターの認知度が低く出た一因として、他のサービスでは補足的な呼称（例：通所介護（デイサービス））を記載していたが、「ケアマネジャー事業所」や「高齢者支援センター」の通称を併記していなかったことが考えられる。

図表2-7：Q9「事業所の認知度「知らない」の上位3つ」（N=3,000）



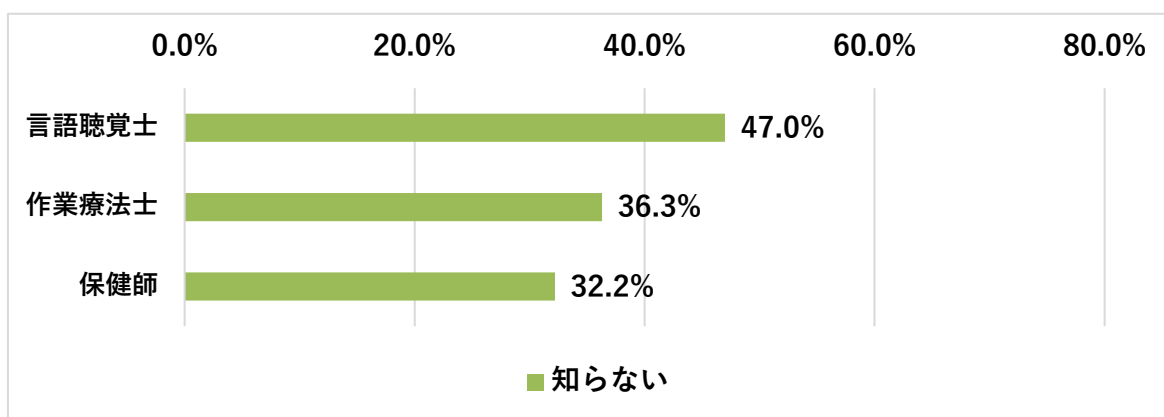
図表2-8：Q9「事業所の認知度「サービスの内容を知っている」の上位3つ」（N=3,000）



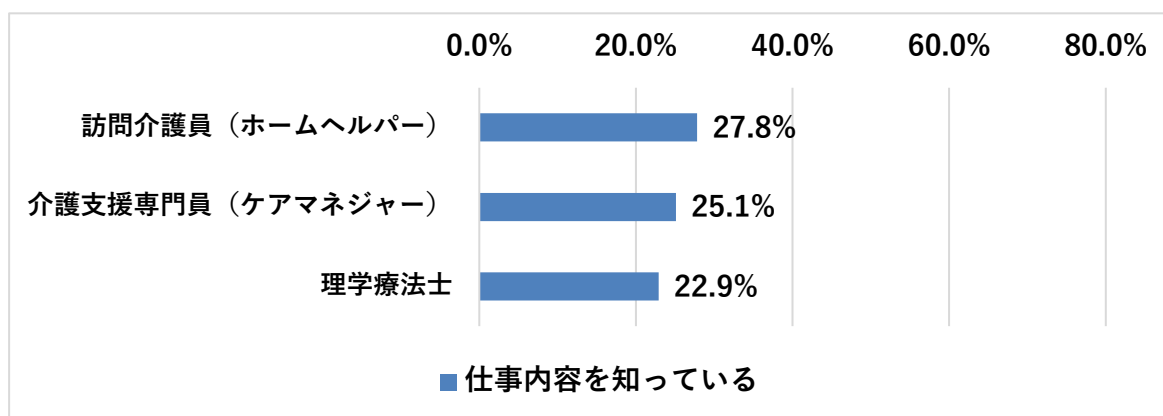
専門職の認知度についても同様にばらつきがみられ、言語聴覚士や作業療法士などの認知度は低い一方、訪問介護員や介護支援専門員は比較的認知度が高かった（図表2-9～図表2-10）。

また、若年層では介護福祉士や社会福祉士の認知度が中年層より高いなど、年齢によって職種に対する認知度の違いが確認された。

図表2-9：Q10「専門職の認知度「知らない」の上位3つ」（N=3,000）



図表2-10：Q10「専門職の認知度「仕事内容を知っている」の上位3つ」（N=3,000）



介護職に対するイメージでは、「心身ともにきつい」「給与水準が低い」などの負のイメージが約7割みられた一方、「社会的に意義のある仕事」「専門性の高い仕事」などの正のイメージが約3割みられたことは着目すべき点である（図表2-11）。

また、中年層では「社会的意義」を重視する回答が多く、若年層では「やりがい」を感じる割合が高いなど、介護職に対するイメージには年齢層による特徴もみられた。

図表2-11：Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ（SA）の分布

	N	%
心身ともにきつい仕事	1361	45.4%
給与水準が低い仕事	493	16.4%
社会的に意義のある仕事	486	16.2%
専門性の高い仕事	286	9.5%
やりがいのある仕事	132	4.4%
社会的な評価が低い仕事	90	3.0%
誰にでもできる仕事	71	2.4%
雇用が安定している仕事	63	2.1%
その他	18	0.6%
合計	3000	100.0%

介護保険サービス事業所や専門職の認知度不足は、制度の認知度不足と同様に、制度やサービスに関わる機会の少なさが背景にあると考えられる。

また、介護職に対する負のイメージが強くもたれていることは、人材確保の観点からも課題であり、事業所や専門職の役割を分かりやすく伝える情報発信や、介護職の魅力適切に伝える取り組みの強化が求められる。

国は、昨今の介護人材不足を背景に、「介護人材確保のための福祉施策と労働施策の連携体制の強化」などを通じて、介護業界の魅力発信や人材確保に力を入れている。

これらの啓発が就労層だけでなく、若年層さらに学校教育を作っている者に対しても周知され、介護保険制度の成り立ちや理解、ひいては高齢者を皆で支え合うという意識の醸成が必要と考える。

5. 介護保険制度の必要性とサービス利用意向

介護保険制度の必要性については、85.5%が「必要」と回答しており、制度の必要性が広く認識されていることが確認された（図表2-12）。

必要とする理由としては、家族の介護負担の軽減や社会的課題への対応が多く挙げられ、制度が生活上のリスクに備える仕組みとして受け止められている様子がうかがえた。

一方で、「必要ではない」と回答した理由として、保険料負担や制度そのものへの不信感が挙げられた。

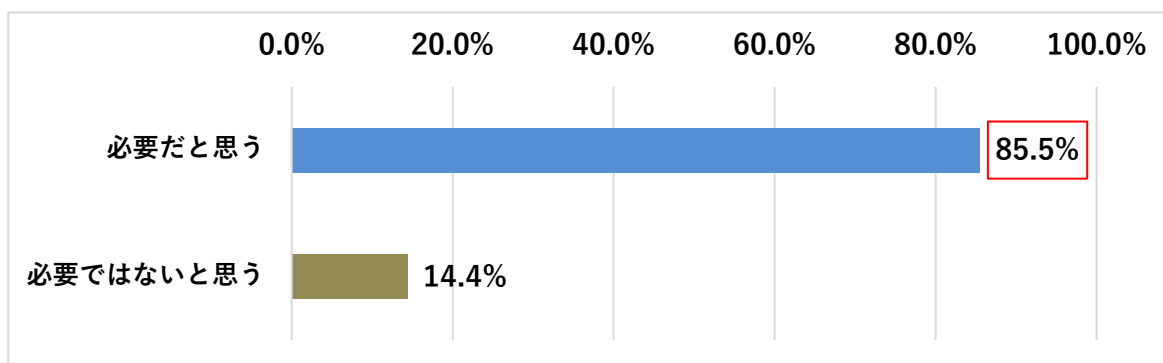
また、福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無に関わらず、制度の必要性はいずれの層でも「必要である」の回答が半数以上を占めていたが、福祉・介護・医療などの分野で働いている（働いていた）層において「必要ではない」と回答した割合も約1割みられ、現場経験層が制度の必要性に疑問を抱いていることがうかがえた。

介護保険サービスの利用意向についても、約8割が「利用したい」と回答しており、制度やサービスに対する認知度不足とは対照的に、利用への心理的ハードルは比較的低いことが示唆された（図表2-13）。

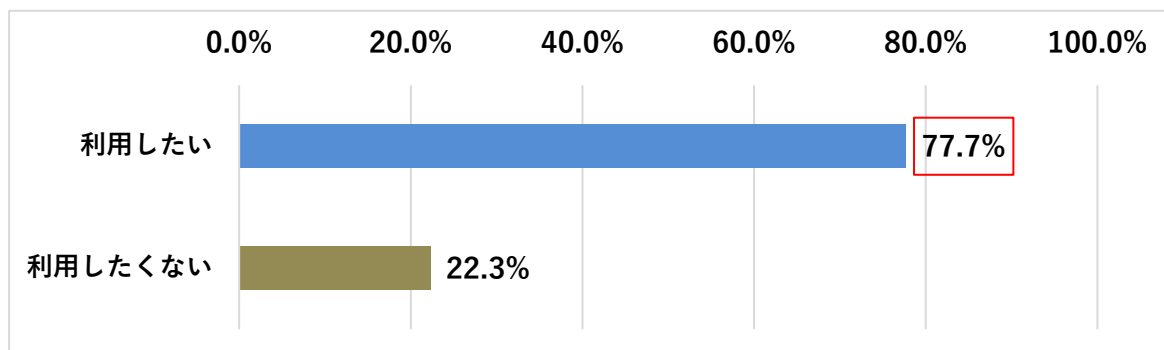
ただし、若年層では利用に消極的な回答がやや多く、将来の介護を自分事として捉えにくいことが影響していると考えられる。

制度の必要性や利用意向は高い一方で、特に若年層において制度理解や将来の介護への意識が十分に形成されていないという課題がみられ、将来の介護を自分事として捉えられるような啓発の強化が求められる。

図表2-12：Q12「介護保険制度の必要性」の分布（N=3,000）



図表2-13：Q15「介護保険サービスの利用意向」の分布（N=3,000）



6. 介護保険制度に対する「期待」と「懸念」

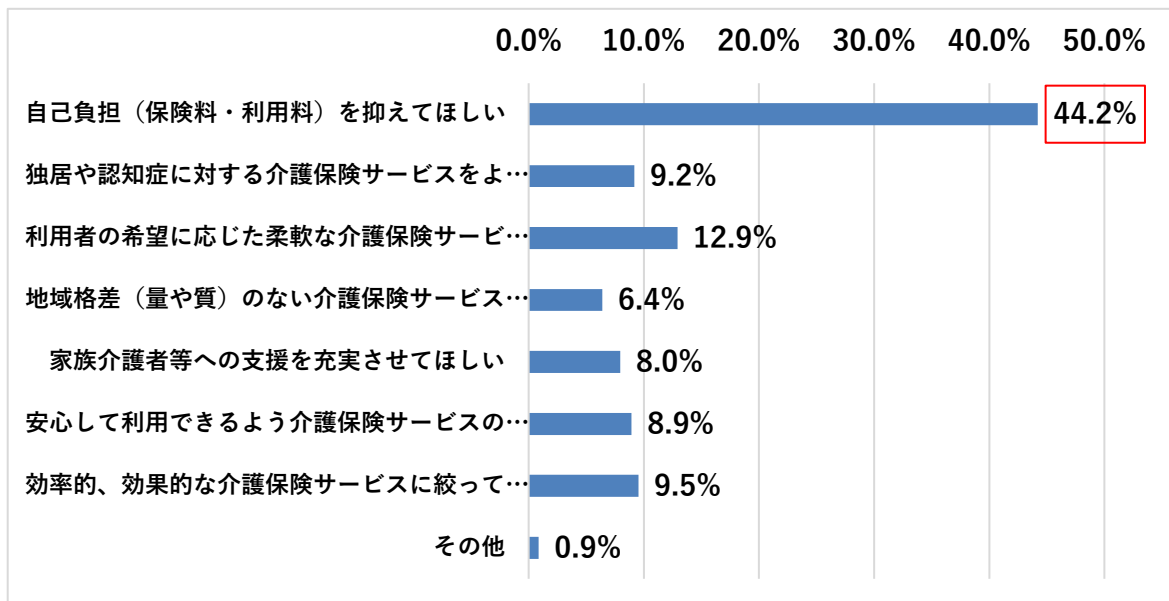
介護保険制度への「期待」では自己負担の軽減が最も多く、「懸念」では自己負担の増加が上位を占めるなど、いずれも自己負担に関する回答が目立った（図表2-14～図表2-15）。

また、「期待」の2番目には「希望に応じた介護保険サービスを提供」が挙がる一方、「懸念」の2番目には「人材不足による介護保険サービスの欠如」がみられた。

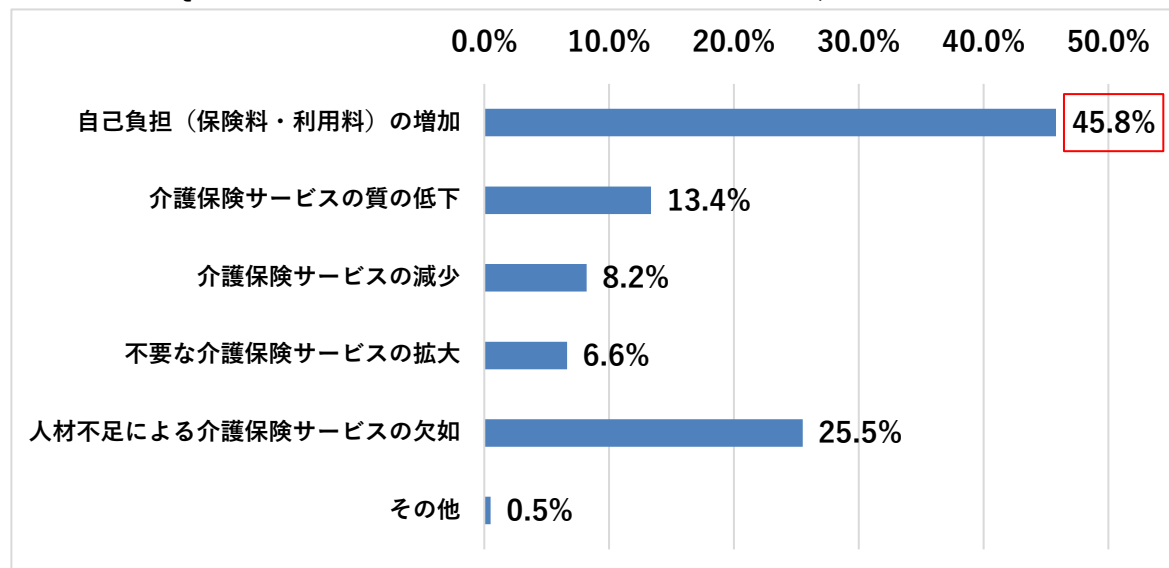
サービス提供への期待がある一方で、その担い手不足に対する危機感も強く示されており、制度の持続性とサービスの質を両立させるための環境整備が求められている。

こうした「期待」と「懸念」の双方を踏まえ、利用者が安心してサービスを受けられるよう、今後の制度設計を進めていく必要がある。

図表2-14：Q16「介護保険サービスに対する期待」の分布（N=3,000）



図表2-15：Q17「介護保険サービスに対する懸念」の分布（N=3,000）



7. 考察

本調査は、20～39歳と40～64歳を均等に割り付け、回答者の多くが就労層であった。

また、介護分野での就労経験や家族介護経験を持たない者が大多数を占めており、介護に直接関わる機会が少ない層の意識が中心となっている。

この属性は、介護保険制度やサービスに対する認識・理解を考察するうえで重要な前提条件である。

1 制度・サービスの認知度の低さとその背景

調査結果から、介護保険制度および関連サービスの認知度・理解度は全体として十分に浸透しておらず、特に若年層や介護未経験者で顕著であった。

制度そのものだけでなく、地域包括支援センターやケアマネジャーといった中核的な役割を担う機関・専門職の認知度も限定的であり、制度の仕組みや支援体制が国民に十分伝わっていない現状が明らかとなった。

若年層における認知度不足は、制度やサービスに触れる機会の少なさが主因と考えられ、将来の介護を自分事として捉えにくい構造的課題が示唆される。

2 介護職に対するイメージと就業意向への影響

介護職に対するイメージは「心身ともにきつい」「給与水準が低い」といった負のイメージが強く、若年層・中年層を問わず共通していた。

一方で「社会的意義がある」という肯定的評価も一定数みられたが、若年層では「専門性の高い仕事」「やりがいのある仕事」と捉える割合が1割未満にとどまり、介護分野への関心や将来的な就業意向に影響を及ぼす可能性がある。

特に福祉・介護・医療などの分野で働く者の1割が制度の必要性に消極的であった点は注視すべきであり、制度理解や職業イメージの形成における課題が、現場の担い手にも及んでいる可能性がある。

3 制度の必要性認識と利用意向の高さ

制度の必要性については85.5%が「必要」と回答し、介護保険制度が社会に不可欠な仕組みとして広く認識されていることが確認された。

また、制度やサービスの認知度不足とは対照的に、介護保険サービスの利用意向は高く、国民が将来の介護に備える姿勢が一定程度存在することが示された。

ただし若年層では利用に消極的な回答が一定数みられ、将来の介護を自分事として捉えきれていない状況が浮き彫りとなった。

4 制度の持続可能性に向けた課題

介護保険制度に対する「期待」と「懸念」をみると、自己負担（保険料・利用料）の抑制は共通の関心事項であった。

一方で、サービスの充実を求める声と同時に、担い手不足への危機感も強い。

財政状況や人材確保が厳しさを増す中、制度の持続性とサービスの質を両立させる政策的対応が不可欠である。

国においても、介護人材確保や制度理解促進の取り組みが進められ、2008年には国民への啓発を目的とした「介護の日」（11月11日）が制定されている。

しかし、制度理解の浸透や介護職の魅力発信は依然として課題が残る。

5 今後求められる取り組み

少子高齢化が進み、2040年に向けて85歳以上人口が増加することを踏まえると、介護保険制度に関する理解を社会全体で高める必要性は一層高まっている。

今後は以下の取り組みが重要となる。

- 制度やサービスの役割をわかりやすく伝える広報の充実
- 介護職の専門性・魅力を適切に発信する取り組みの強化
- 学校教育を含む若年層への早期の介護リテラシー教育
- 誰もが身近に介護に触れられる機会の創出
- 情報アクセス格差やデジタルリテラシーに配慮した多様な媒体での情報提供
- 企業・地域包括支援センターなど地域の多様な主体との連携強化

これらの取り組みを進めることで、制度への理解が深まり、将来の介護を「自分事」として捉える意識の醸成につながる。

ひいては、介護保険制度の持続的な運営に寄与することが期待される。

さらに、国が施策を講じることは不可欠であるが、急激な人口減少社会を踏まえると、国や自治体のみで介護課題に対応することには限界がある。

したがって、住民自らが地域において何ができるのかを主体的に考え、行政と協働して取り組むことが重要である。

(3) 調査結果

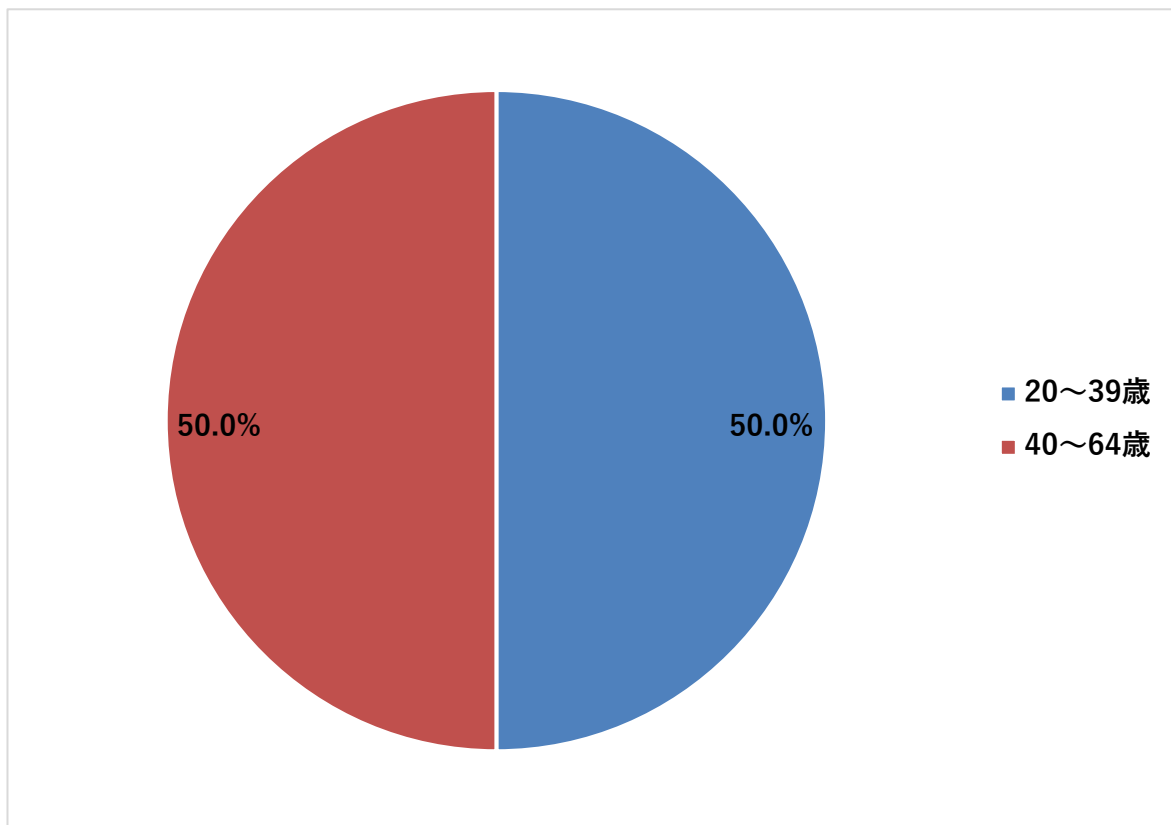
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

Q1.あなたの「年齢」をお答えください。[SA] (N=3,000)

- ・回答者の年齢は、「20～39歳」、「40～64歳」が同数であった。
※本調査では、回答者の年齢を「20～39歳」「40～64歳」の2区分に分け、それぞれ全体の50%ずつとなるように割付を行った。

図表3-1：Q1「年齢」(SA)の分布

	N	%
20～39歳	1500	50.0%
40～64歳	1500	50.0%
合計	3000	100.0%

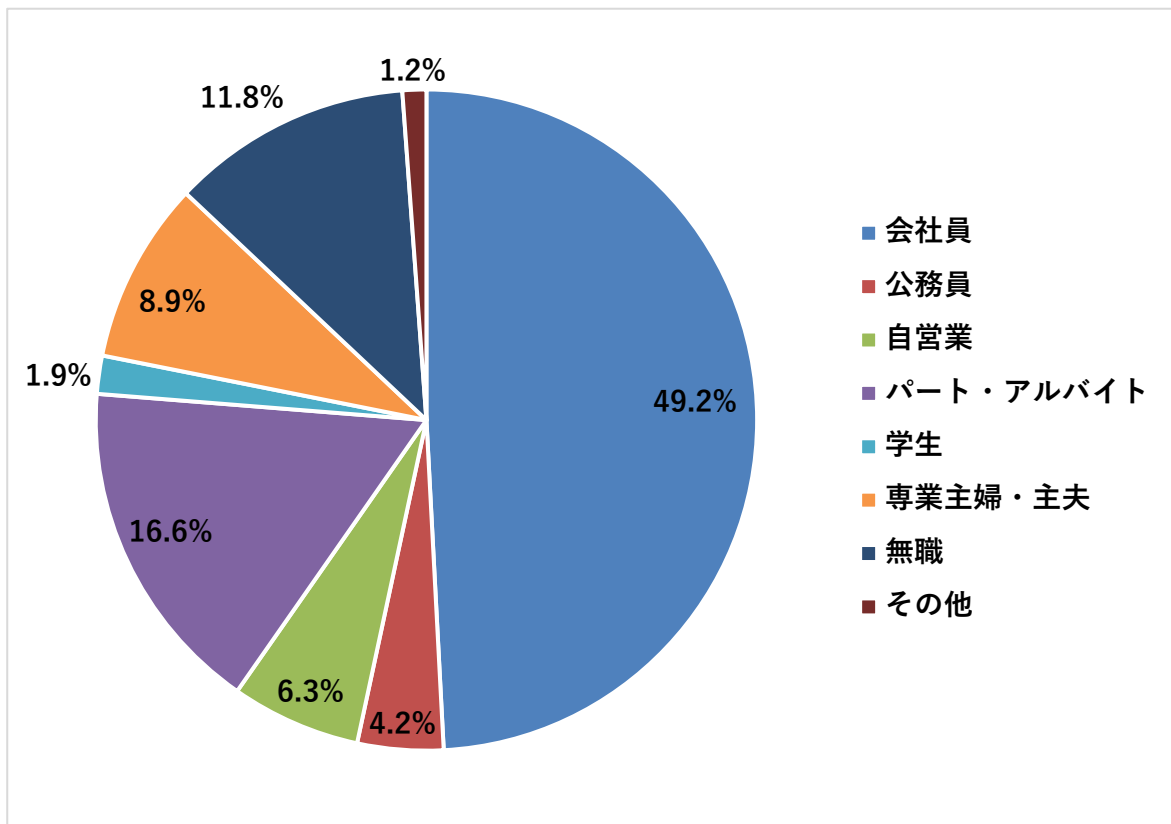


Q2.あなたの現在の「職業」をお答えください。[SA] (N=3,000)

- ・回答者の職業は、「会社員」が最も多く、49.2%であった。次いで、「パート・アルバイト」16.6%、「無職」11.8%が多い。

図表3-2：Q2「職業」(SA)の分布

	N	%
会社員	1475	49.2%
公務員	126	4.2%
自営業	190	6.3%
パート・アルバイト	497	16.6%
学生	56	1.9%
専業主婦・主夫	267	8.9%
無職	354	11.8%
その他	35	1.2%
合計	3000	100.0%



【クロス集計】

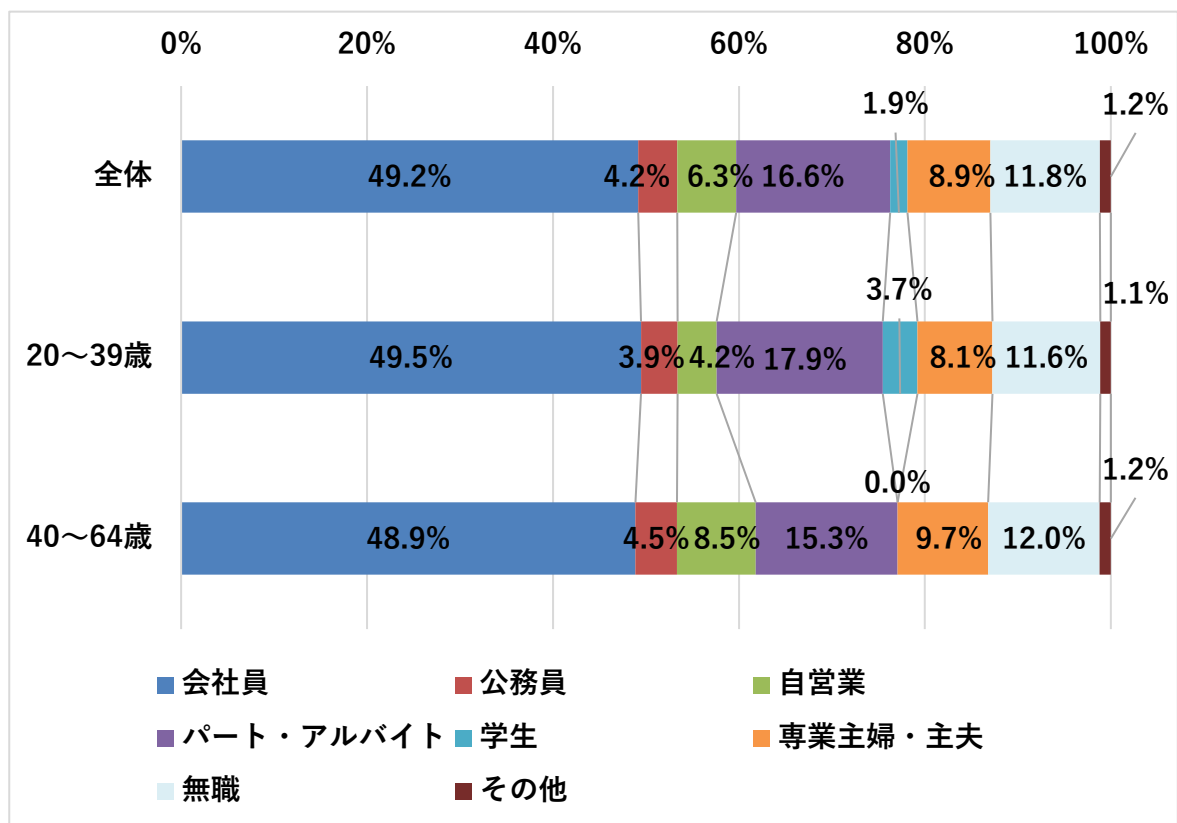
Q1「年齢」×Q2「職業」 (N=3,000)

- ・年齢別に現在の職業をみると、
いずれの年齢において「会社員」の回答が最も多い。

図表3-3：Q1「年齢」(SA)とQ2「職業」(SA)のクロス集計

	全体	会社員	公務員	自営業	パート・アルバイト	学生	専業主婦・主夫	無職	その他
全体	3000	1475	126	190	497	56	267	354	35
	100.0%	49.2%	4.2%	6.3%	16.6%	1.9%	8.9%	11.8%	1.2%
20～39歳	1500	742	59	63	268	56	121	174	17
	100.0%	49.5%	3.9%	4.2%	17.9%	3.7%	8.1%	11.6%	1.1%
40～64歳	1500	733	67	127	229	0	146	180	18
	100.0%	48.9%	4.5%	8.5%	15.3%	0.0%	9.7%	12.0%	1.2%

カイ2乗検定： $p < .05$



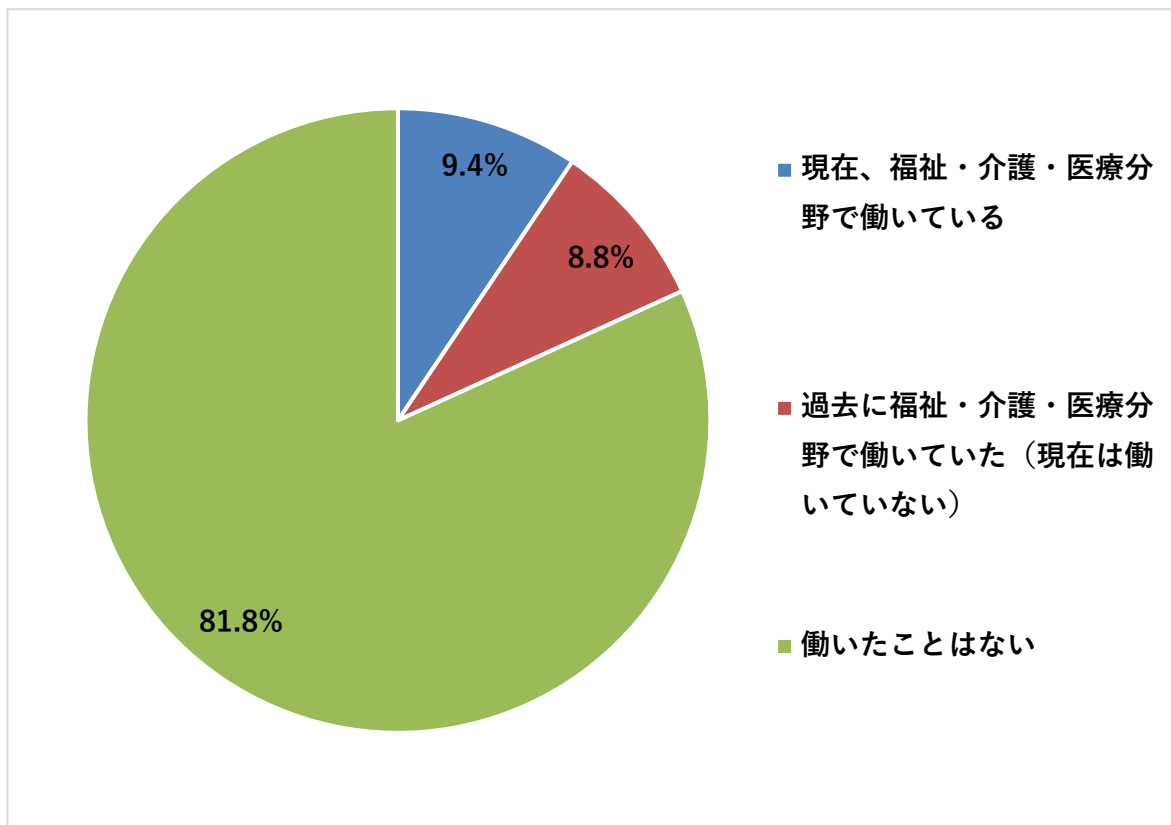
Q3.あなたは、これまでに福祉・介護・医療などの分野で働いた経験がありますか。[SA] (N=3,000)

※パート・アルバイトを含む。

- ・回答者の福祉・介護・医療などの分野で働いた経験は、「働いたことがない」の回答が最も多く、81.8%であった。

図表3-4：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験」(SA)の分布

	N	%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	9.4%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	263	8.8%
働いたことはない	2454	81.8%
合計	3000	100.0%



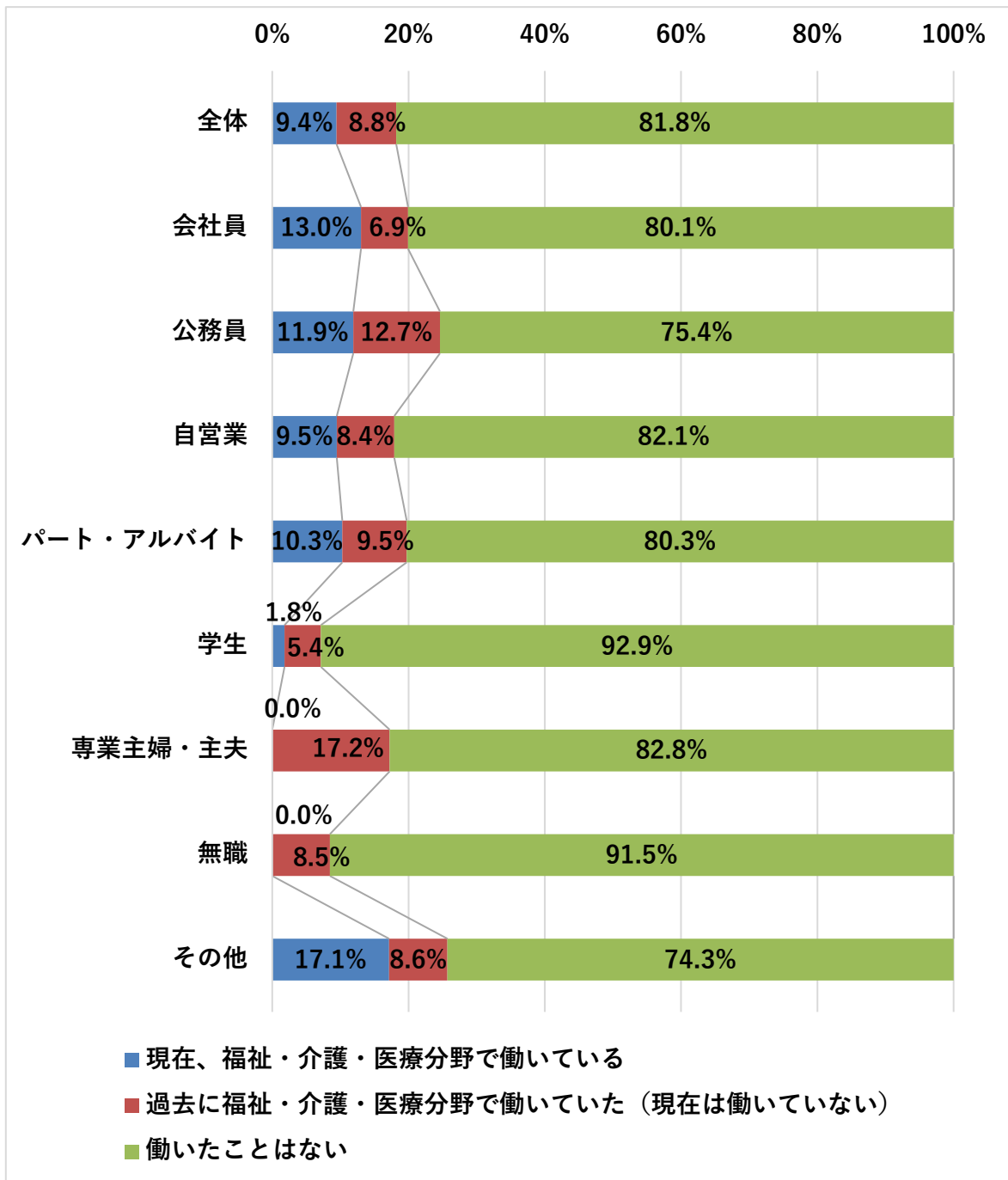
【クロス集計】

Q2「職業」×Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験」（N=3,000）

・職業別に福祉・介護・医療などの分野で働いた経験をみると、すべての職業において「働いたことはない」の回答が最も多い。

図表3-5：Q2「職業」（SA）とQ3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験」（SA）のクロス集計

	全体	現在、福祉・介護・医療分野で働いている	過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	働いたことはない
全体	3000	283	263	2454
	100.0%	9.4%	8.8%	81.8%
会社員	1475	192	102	1181
	100.0%	13.0%	6.9%	80.1%
公務員	126	15	16	95
	100.0%	11.9%	12.7%	75.4%
自営業	190	18	16	156
	100.0%	9.5%	8.4%	82.1%
パート・アルバイト	497	51	47	399
	100.0%	10.3%	9.5%	80.3%
学生	56	1	3	52
	100.0%	1.8%	5.4%	92.9%
専業主婦・主夫	267	0	46	221
	100.0%	0.0%	17.2%	82.8%
無職	354	0	30	324
	100.0%	0.0%	8.5%	91.5%
その他	35	6	3	26
	100.0%	17.1%	8.6%	74.3%



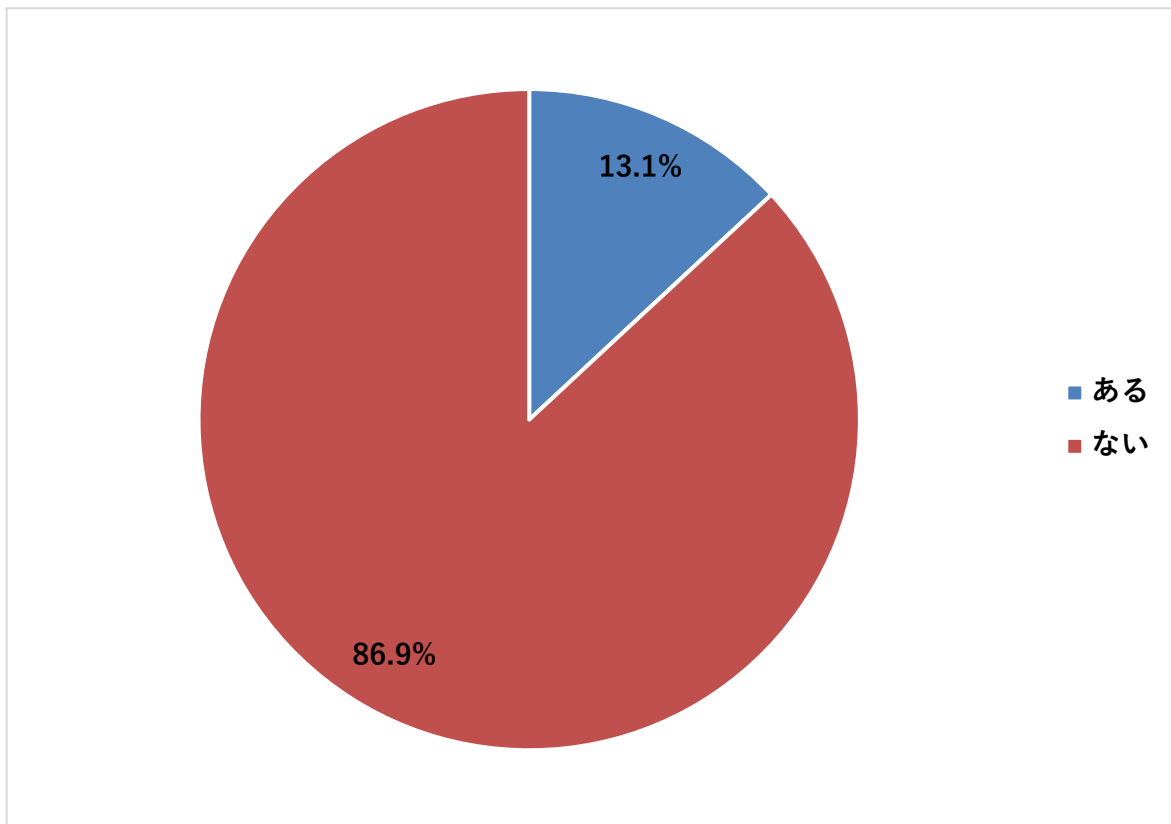
Q4.Q3で「働いたことはない」と回答した方に伺います。あなたは、これまでに、「介護の経験」はありますか。[SA] (N=2,454)

※ここでいう「介護の経験」とは、例えば、親の食事や排泄の世話、障害のある兄弟の通院や日常生活の支援などを指します。

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験がないと回答した方 (N=2,454) のうち、「介護の経験 (親の食事や排泄の世話、障害のある兄弟の通院や日常生活の支援など)」は、「ない」が86.9%であった。

図表3-6：Q4「福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無」(SA) の分布

	N	%
ある	321	13.1%
ない	2133	86.9%
合計	2454	100.0%



Q5.あなたは、「介護保険制度」について知っていますか。[SA] (N=3,000)

※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。

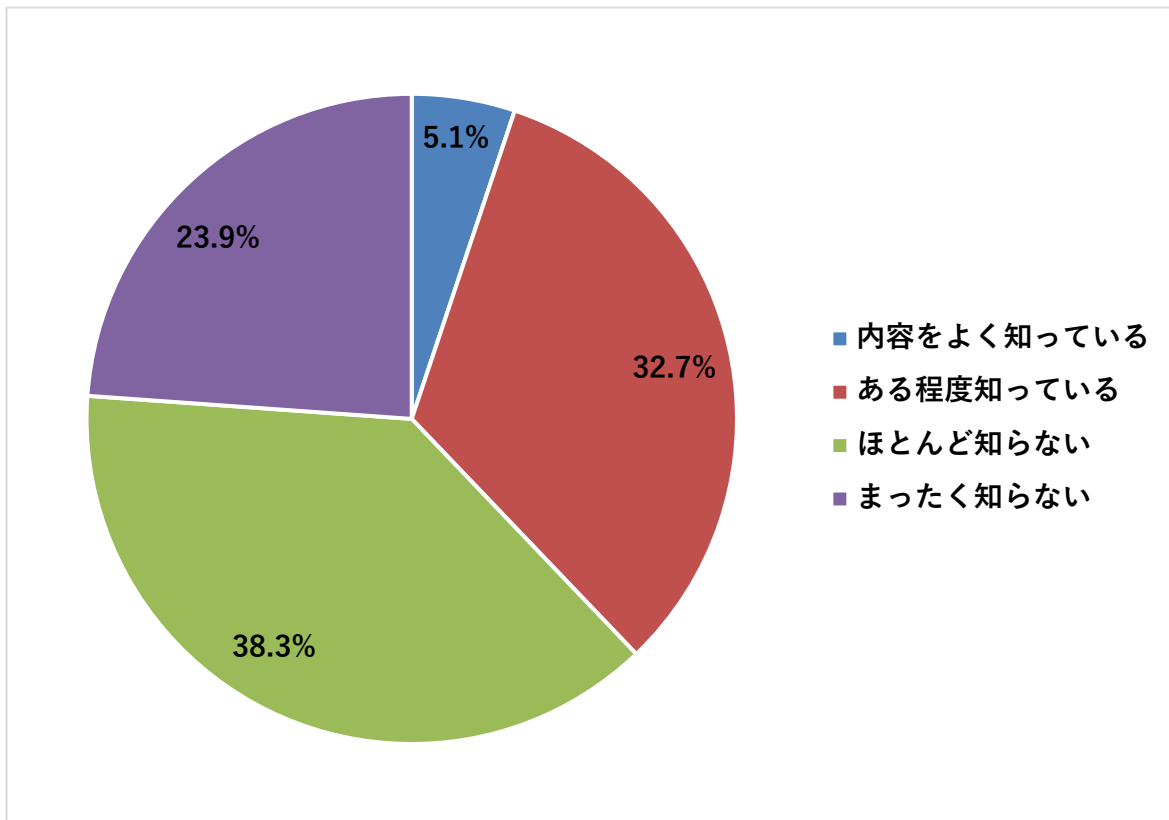
※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。

- ・介護保険制度に対する認知度は、「ほとんど知らない」の回答が最も多く、38.3%であった。次いで、「ある程度知っている」32.7%、「まったく知らない」23.9%が多い。
- ・「知っている」「知らない」の2類型でみると、「知らない」と回答した割合が62.2%で、約6割を占める。

図表3-7：Q5「介護保険制度の認知度」(SA)の分布

	N	%
内容をよく知っている	154	5.1%
ある程度知っている	982	32.7%
ほとんど知らない	1148	38.3%
まったく知らない	716	23.9%
合計	3000	100.0%

62.2%



【クロス集計】

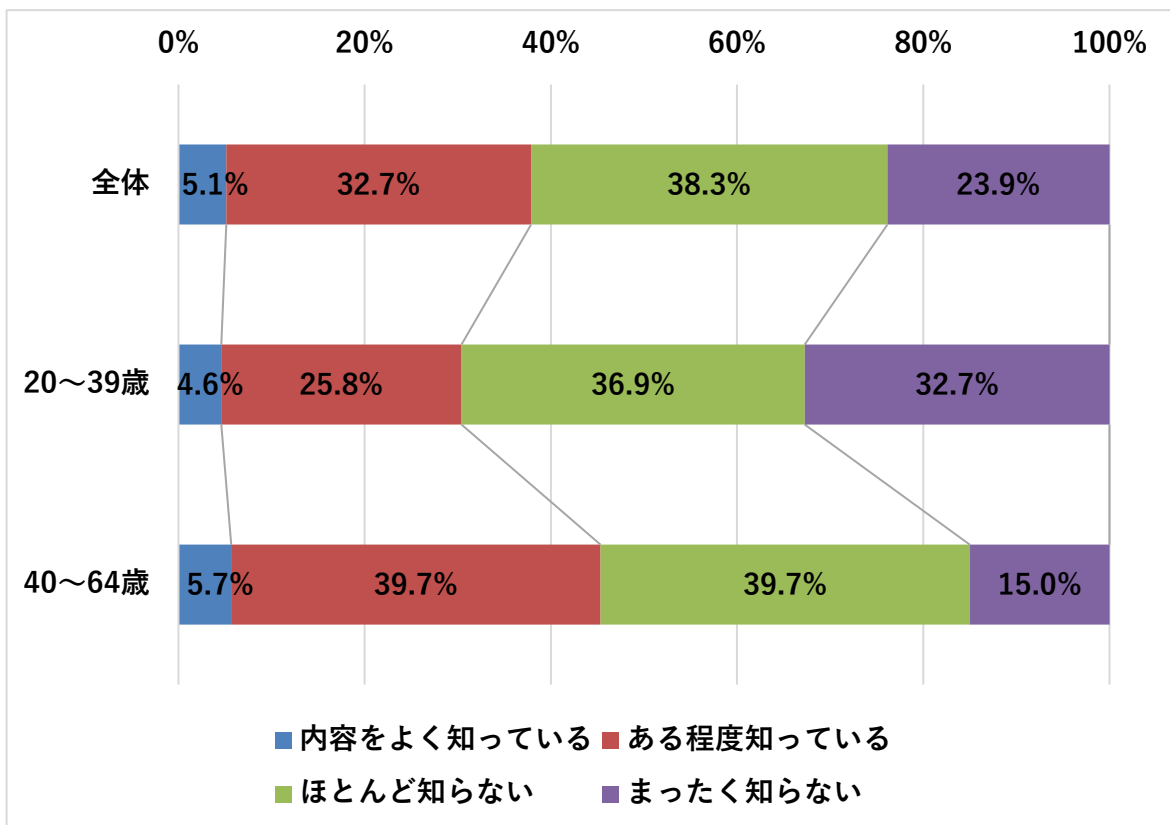
Q1「年齢」×Q5「介護保険制度の認知度」(N=3,000)

- ・年齢別に介護保険制度の認知度をみると、
「20～39歳」では、「ほとんど知らない」の回答が最も多く、「40～64歳」では、「ある程度知っている」、「ほとんど知らない」の回答が同数で最も多い。
- ・また、第2号被保険者の介護保険料を支払っている「40～64歳」では、「知っている」と回答した計が45.4%と、「20～39歳」の30.4%と比較して15ポイント高い。

図表3-8：Q1「年齢」(SA)とQ5「介護保険制度の認知度」(SA)のクロス集計

	全体	内容をよく知っている	ある程度知っている	ほとんど知らない	まったく知らない
全体	3000	154	982	1148	716
	100.0%	5.1%	32.7%	38.3%	23.9%
20～39歳	1500	69	387	553	491
	100.0%	4.6%	25.8%	36.9%	32.7%
40～64歳	1500	85	595	595	225
	100.0%	5.7%	39.7%	39.7%	15.0%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

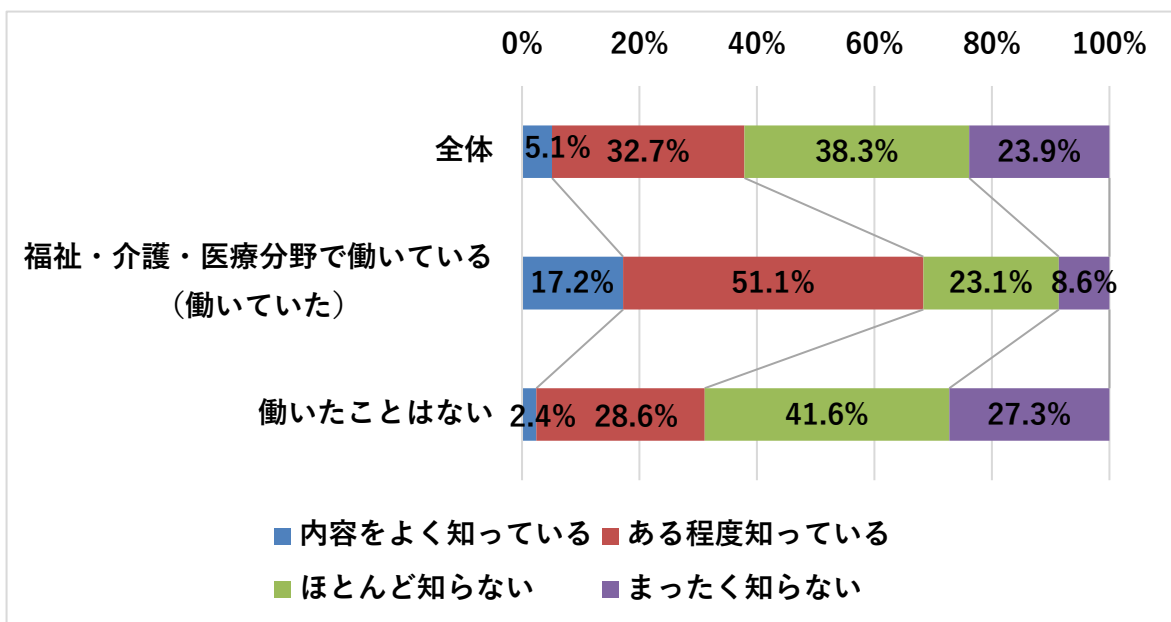
Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」×Q5「介護保険制度の認知度」（N=3,000）

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別に介護保険制度の認知度をみると、「福祉・介護・医療分野で働いている（働いていた）」では、「ある程度知っている」の回答が最も多く、「働いたことはない」では、「ほとんど知らない」の回答が最も多い。
- ・なお、「福祉・介護・医療分野で働いている（働いていた）」では、「ほとんど知らない」「まったく知らない」の回答の計が31.7%であった。

図表3-9：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（SA）とQ5「介護保険制度の認知度」（SA）のクロス集計

	全体	内容をよく知っている	ある程度知っている	ほとんど知らない	まったく知らない
全体	3000	154	982	1148	716
	100.0%	5.1%	32.7%	38.3%	23.9%
福祉・介護・医療分野で働いている（働いていた）	546	94	279	126	47
	100.0%	17.2%	51.1%	23.1%	8.6%
働いたことはない	2454	60	703	1022	669
	100.0%	2.4%	28.6%	41.6%	27.3%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

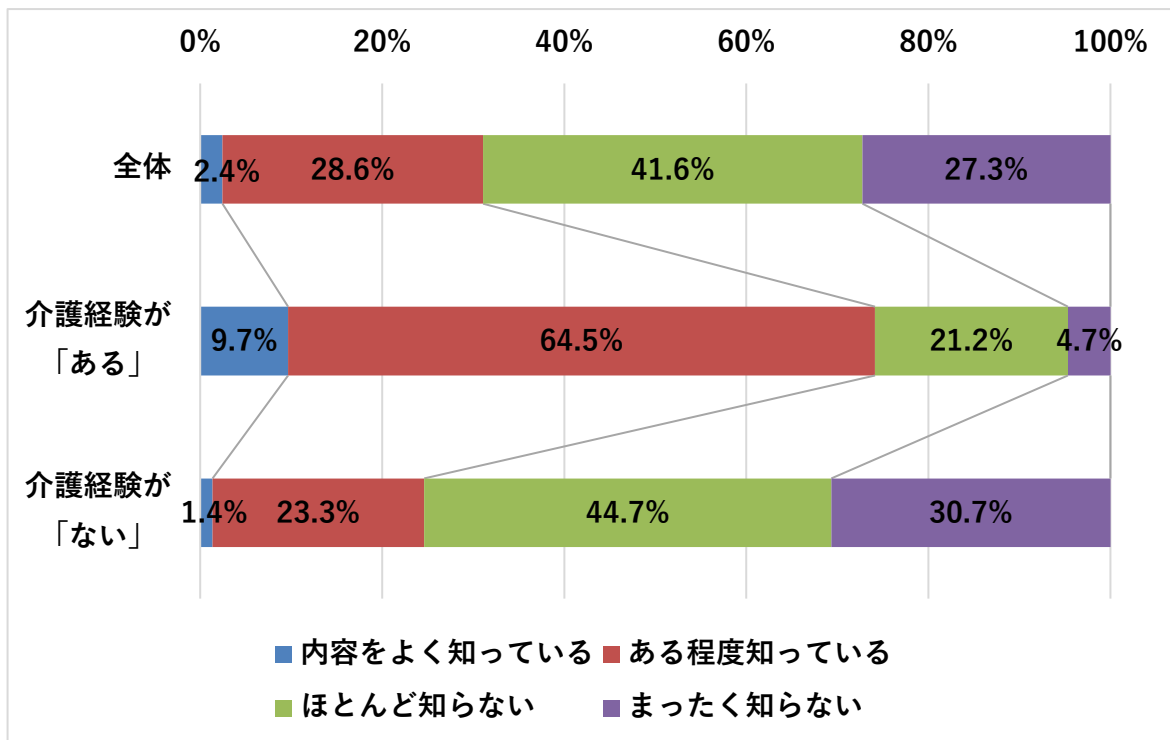
Q4「福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無」×Q5「介護保険制度の認知度」 (N=2,454)

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無別に介護保険制度の認知度をみてみると、
介護経験が「ある」方では、「ある程度知っている」の回答が最も多く、介護経験が「ない」方では、「ほとんど知らない」の回答が最も多い。
- ・「内容をよく知っている」「ある程度知っている」の回答の計に着目してみると、介護経験が「ある」方では74.2%と、介護経験が「ない」方の24.7%と比較すると高い。

図表3-10：Q4「福祉・介護・医療などの分野で働いたことがない方の介護経験の有無」(SA)とQ5「介護保険制度の認知度」(SA)のクロス集計

	全体	内容をよく知っている	ある程度知っている	ほとんど知らない	まったく知らない
全体	2454	60	703	1022	669
	100.0%	2.4%	28.6%	41.6%	27.3%
介護経験が「ある」	321	31	207	68	15
	100.0%	9.7%	64.5%	21.2%	4.7%
介護経験が「ない」	2133	29	496	954	654
	100.0%	1.4%	23.3%	44.7%	30.7%

カイ2乗検定： $p < .05$

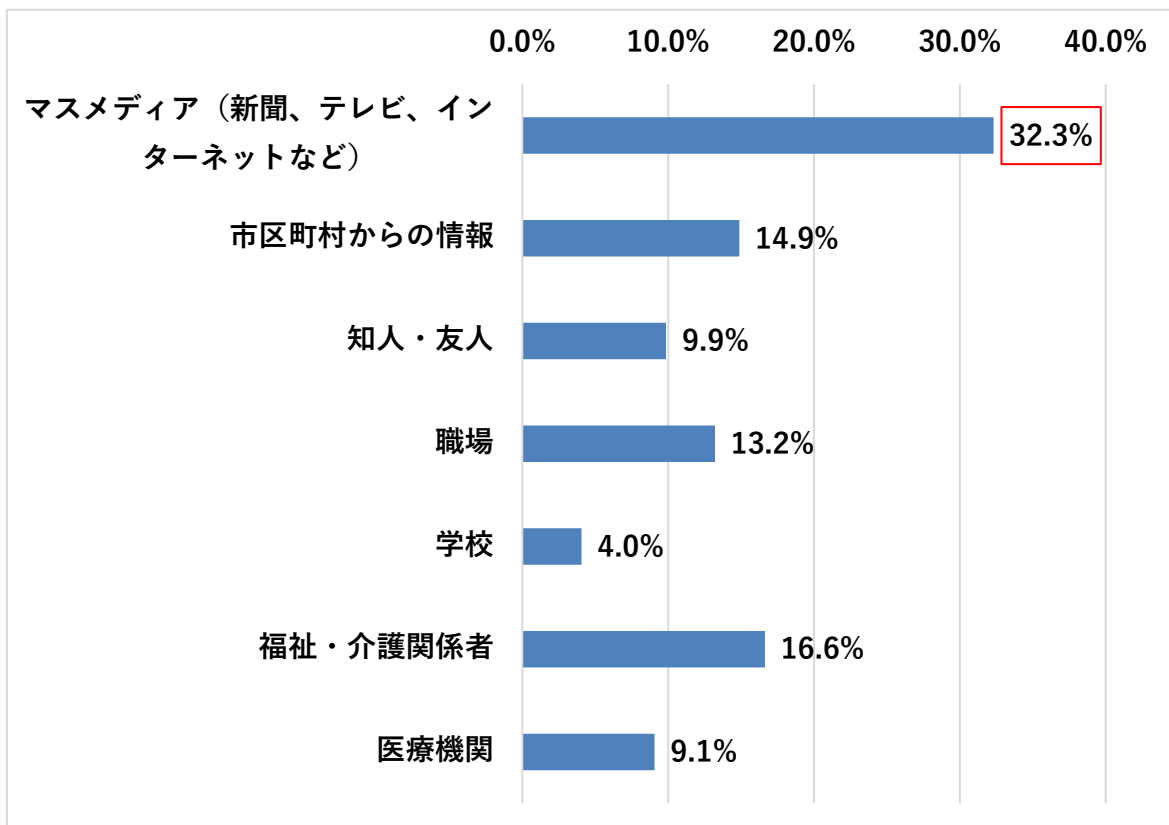


Q6.Q5で、「知っている」と回答した方に伺います。介護保険制度について、どのようなきっかけで知りましたか。[SA] (N=1,136)

- ・介護保険制度について「知っている」と回答した人 (N=1,136) のうち、制度を知ったきっかけは、「マスメディア (新聞、テレビ、インターネットなど)」の回答が最も多く、32.3%であった。次いで、「福祉・介護関係者」16.6%、「市区町村からの情報」14.9%、「職場」13.2%が多い。

図表3-11：Q6「介護保険制度を知ったきっかけ」(SA)の分布

	N	%
マスメディア (新聞、テレビ、インターネットなど)	367	32.3%
市区町村からの情報	169	14.9%
知人・友人	112	9.9%
職場	150	13.2%
学校	46	4.0%
福祉・介護関係者	189	16.6%
医療機関	103	9.1%
合計	1136	100.0%



【単純集計（条件抽出）】

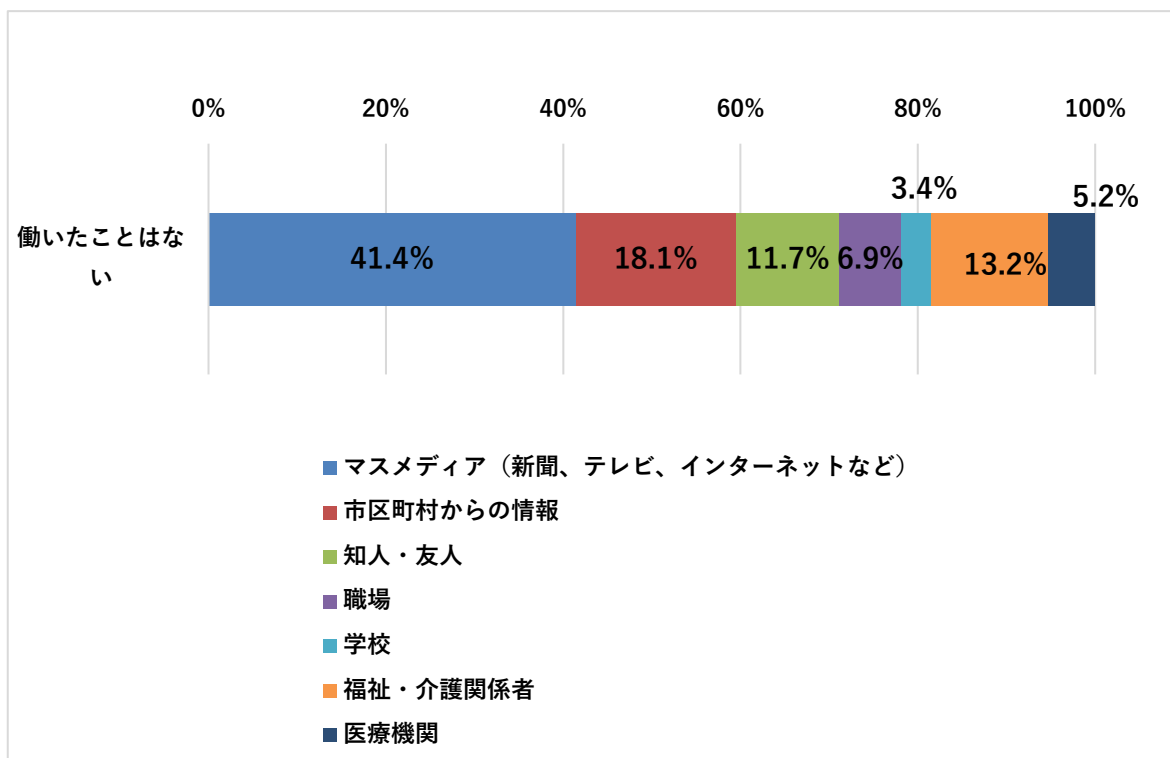
Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」で働いたことはないと回答した方におけるQ6「介護保険制度を知ったきっかけ」（N=763）

・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験がない方における、介護保険制度を知ったきっかけをみると、

「マスメディア（新聞、テレビ、インターネットなど）」の回答が最も多く、41.4%であった。次いで、「市区町村からの情報」18.1%、「福祉・介護関係者」13.2%が多い。

図表3-12：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」で働いたことはないと回答した方におけるQ6「介護保険制度を知ったきっかけ」（SA）の分布

	全体	マスメディア（新聞、テレビ、インターネットなど）	市区町村からの情報	知人・友人	職場	学校	福祉・介護関係者	医療機関
働いたことはない	763	316	138	89	53	26	101	40
	100.0%	41.4%	18.1%	11.7%	6.9%	3.4%	13.2%	5.2%



【クロス集計】

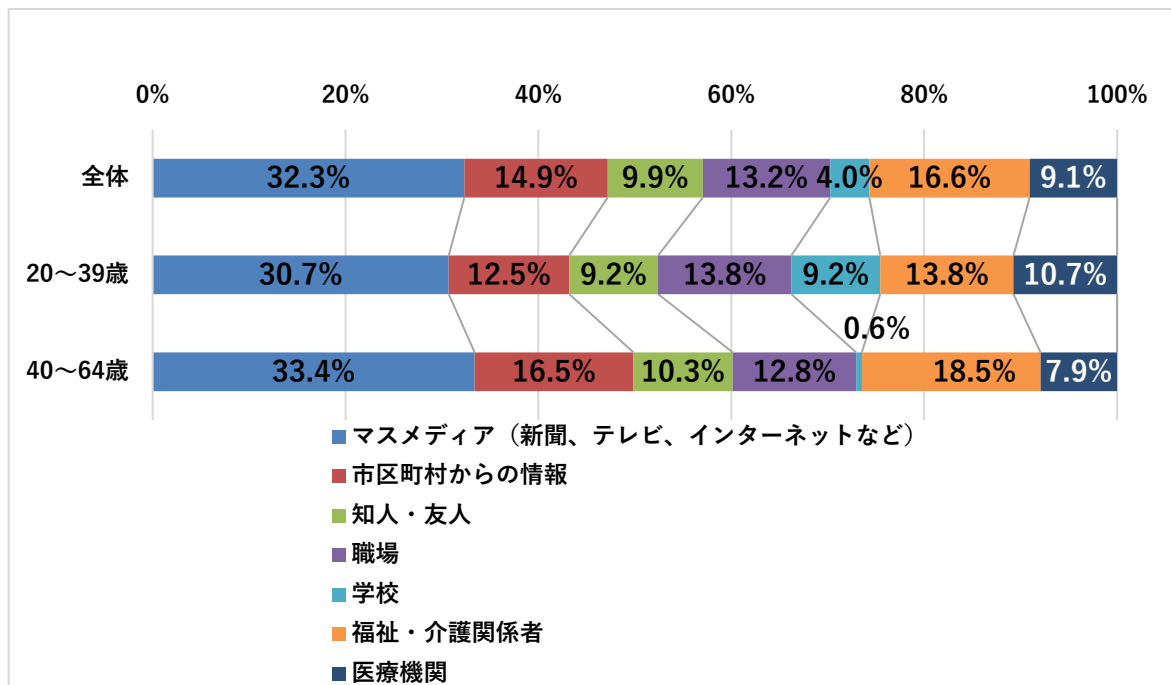
Q1「年齢」×Q6「介護保険制度を知ったきっかけ」(N=1,136)

- ・年齢別に介護保険制度を知ったきっかけをみると、
いずれの年齢において、順位の違いはあるものの上位4つは共通しており、
「マスメディア（新聞、テレビ、インターネットなど）」「市区町村からの情報」
「職場」「福祉・介護関係者」であった。
- ・「学校」と回答した割合は、「20～29歳」が「40～64歳」に比べて8.6ポイント高い。

図表3-13：Q1「年齢」(SA)とQ6「介護保険制度を知ったきっかけ」(SA)のクロス集計

	全体	マスメディア (新聞、テレビ、 インターネット など)	市区町村から の情報	知人・ 友人	職場	学校	福祉・ 介護関 係者	医療機 関
全体	1136	367	169	112	150	46	189	103
	100.0%	32.3%	14.9%	9.9%	13.2%	4.0%	16.6%	9.1%
20～39歳	456	140	57	42	63	42	63	49
	100.0%	30.7%	12.5%	9.2%	13.8%	9.2%	13.8%	10.7%
40～64歳	680	227	112	70	87	4	126	54
	100.0%	33.4%	16.5%	10.3%	12.8%	0.6%	18.5%	7.9%

カイ2乗検定：p<.05



【クロス集計】

Q5「介護保険制度の認知度（「知っている」と回答した方）」×Q6「介護保険制度を知ったきっかけ」（N=1,136）

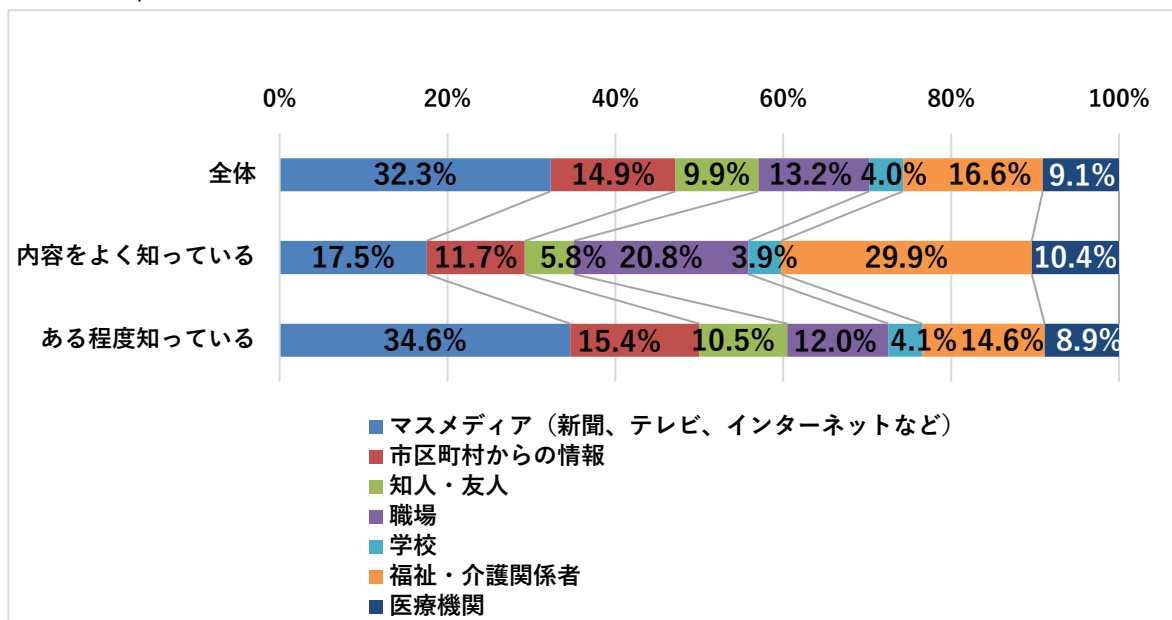
・介護保険制度の認知度（「知っている」と回答した方）別に介護保険制度を知ったきっかけをみると、

「内容をよく知っている」と回答した方では、「福祉・介護関係者」や「職場」の回答が、「ある程度知っている」と回答した方では、「マスメディア（新聞、テレビ、インターネットなど）」や「市区町村からの情報」の回答が多く、認知度の程度によって、介護保険制度を知ったきっかけに違いがみられた。

図表3-14：Q5「介護保険制度の認知度（「知っている」と回答した方）」（SA）とQ6「介護保険制度を知ったきっかけ」（SA）のクロス集計

	全体	マスメディア（新聞、テレビ、インターネットなど）	市区町村からの情報	知人・友人	職場	学校	福祉・介護関係者	医療機関
全体	1136	367	169	112	150	46	189	103
	100.0%	32.3%	14.9%	9.9%	13.2%	4.0%	16.6%	9.1%
内容をよく知っている	154	27	18	9	32	6	46	16
	100.0%	17.5%	11.7%	5.8%	20.8%	3.9%	29.9%	10.4%
ある程度知っている	982	340	151	103	118	40	143	87
	100.0%	34.6%	15.4%	10.5%	12.0%	4.1%	14.6%	8.9%

カイ2乗検定： $p < .05$

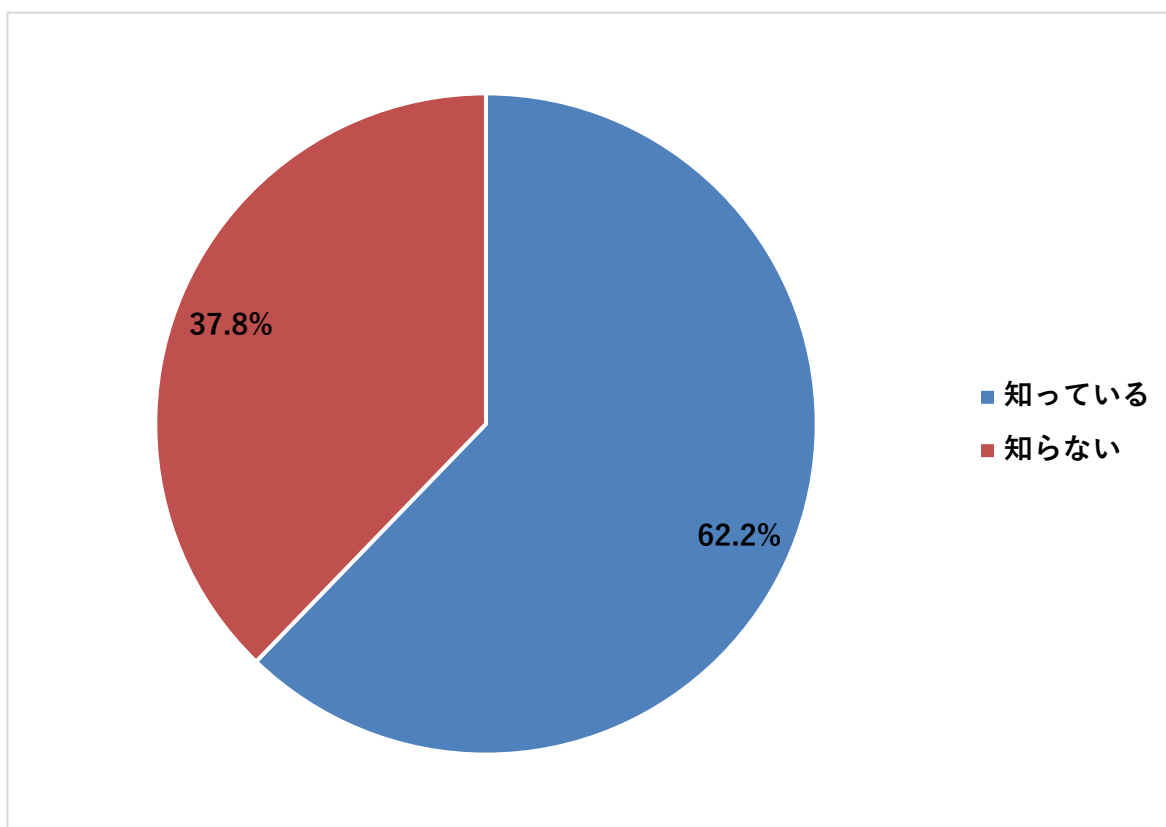


Q7.あなたは、40歳になると介護保険料が徴収されることを知っていますか。[SA] (N=3,000)

- ・第2号被保険者の介護保険料が徴収されることについては、「知っている」と回答した割合が62.2%で、約6割を占める。

図表3-15：Q7「40歳になると介護保険料が徴収されることを知っているか」(SA)の分布

	N	%
知っている	1867	62.2%
知らない	1133	37.8%
合計	3000	100.0%



【クロス集計】

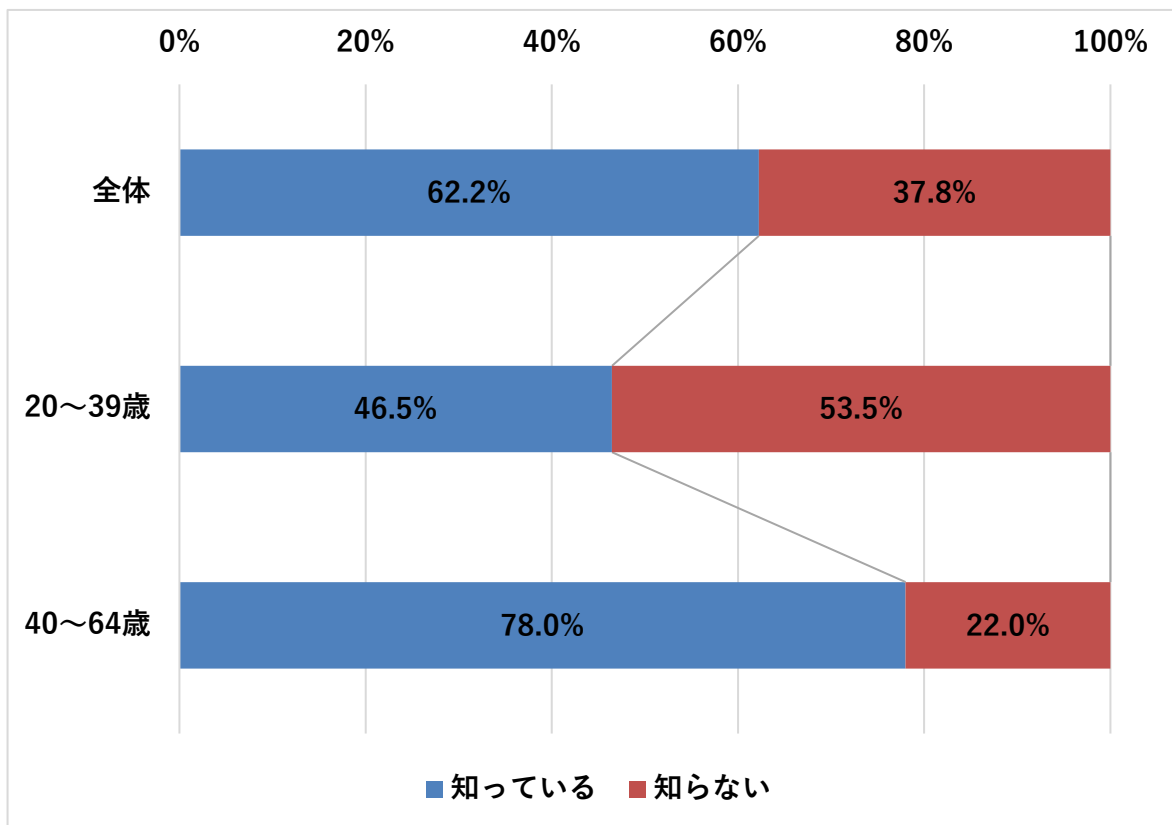
Q1「年齢」×Q7「40歳になると介護保険料が徴収されることを知っているか」(N=3,000)

・年齢別に40歳になると介護保険料が徴収されることを知っているかをみると、「20～39歳」では、「知らない」が、「40～64歳」では、「知っている」の回答が多い。

図表3-16：Q1「年齢」(SA)と
Q7「40歳になると介護保険料が徴収されることを知っているか」
(SA)のクロス集計

	全体	知っている	知らない
全体	3000	1867	1133
	100.0%	62.2%	37.8%
20～39歳	1500	697	803
	100.0%	46.5%	53.5%
40～64歳	1500	1170	330
	100.0%	78.0%	22.0%

カイ2乗検定： $p < .05$

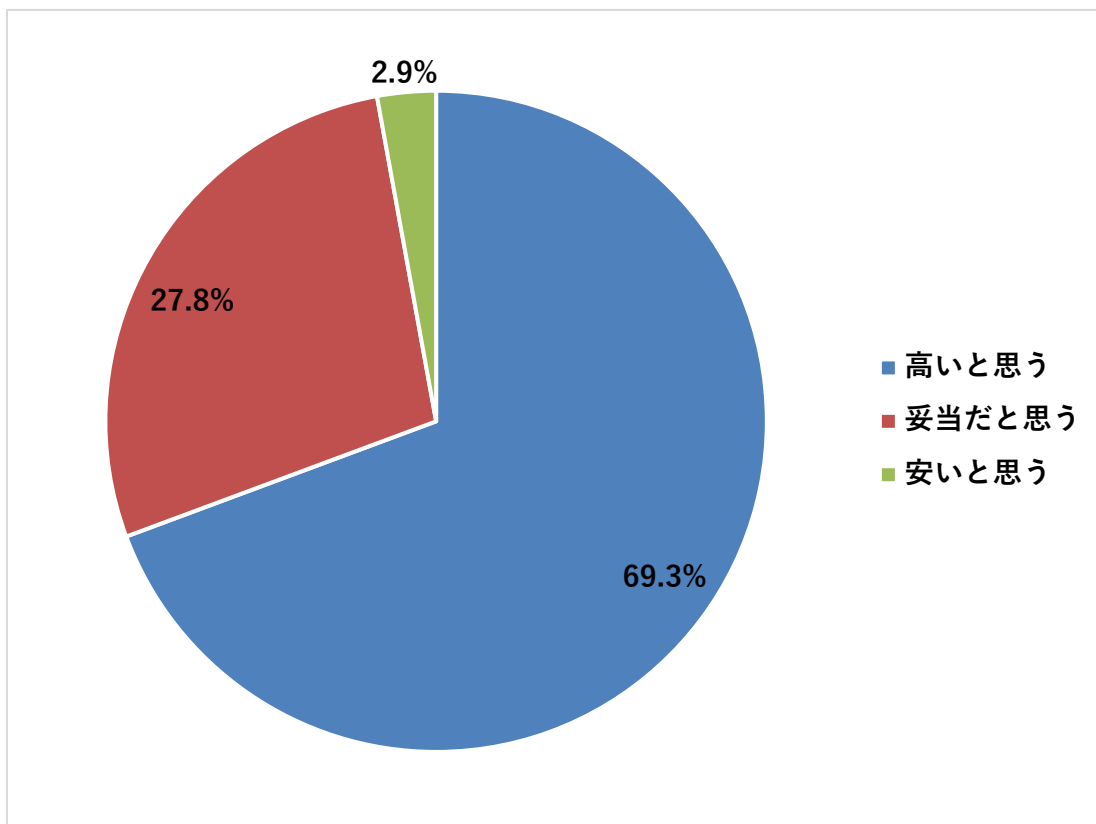


Q8.令和7年度（2025年度）の第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料は、1人当たりの月額（事業主負担分、公費分を含む）が6,202円となる見込みです（全国平均）。あなたは、この「金額」について、どう思いますか。[SA]（N=3,000）

- ・第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の「金額」（月額）については、「高いと思う」の回答が最も多く、69.3%であった。次いで、「妥当だと思う」が27.8%、「安いと思う」が2.9%であった。

図表3-17：Q8「第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価」（SA）の分布

	N	%
高いと思う	2080	69.3%
妥当だと思う	834	27.8%
安いと思う	86	2.9%
合計	3000	100.0%



【クロス集計】

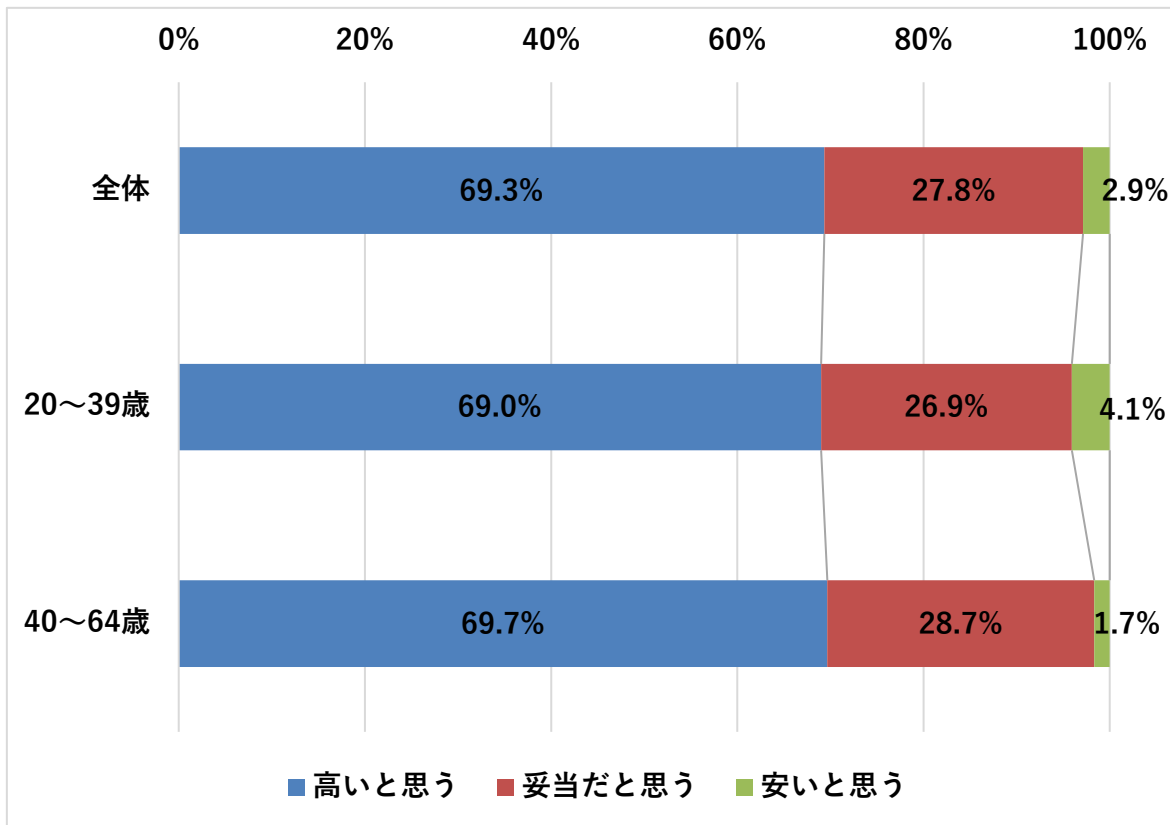
Q1「年齢」×Q8「第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価」（N=3,000）

- ・年齢別に第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価をみてみると、いずれの年齢においても「高いと思う」の回答が最も多い。

図表3-18：Q1「年齢」（SA）と
Q8「第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価」（SA）のクロス集計

	全体	高いと思う	妥当だと思う	安いと思う
全体	3000	2080	834	86
	100.0%	69.3%	27.8%	2.9%
20～39歳	1500	1035	404	61
	100.0%	69.0%	26.9%	4.1%
40～64歳	1500	1045	430	25
	100.0%	69.7%	28.7%	1.7%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

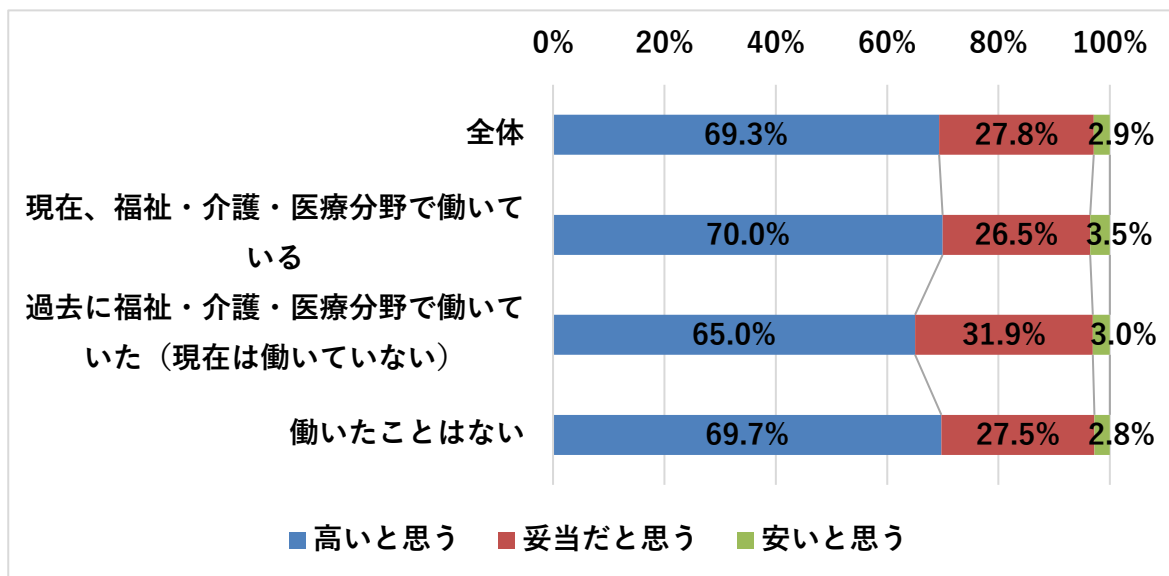
Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」×Q8「第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価」（N=3,000）

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別に第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価をみると、すべての経験層において「高いと思う」の回答が多い。
- ・なお、「安いと思う」と回答した割合に着目してみると、「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」が3.5%、「過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）」が3.0%、「働いたことはない」が2.8%となっており、福祉・介護・医療分野で働いた経験がある方ほど、介護保険料の金額を安いと感じている方が多かった。

図表3-19：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（SA）とQ8「第2号被保険者（40歳以上65歳未満）の介護保険料の金額に対する評価」（SA）のクロス集計

	全体	高いと思う	妥当だと思う	安いと思う
全体	3000	2080	834	86
	100.0%	69.3%	27.8%	2.9%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	198	75	10
	100.0%	70.0%	26.5%	3.5%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	263	171	84	8
	100.0%	65.0%	31.9%	3.0%
働いたことはない	2454	1711	675	68
	100.0%	69.7%	27.5%	2.8%

カイ2乗検定： $p > .05$

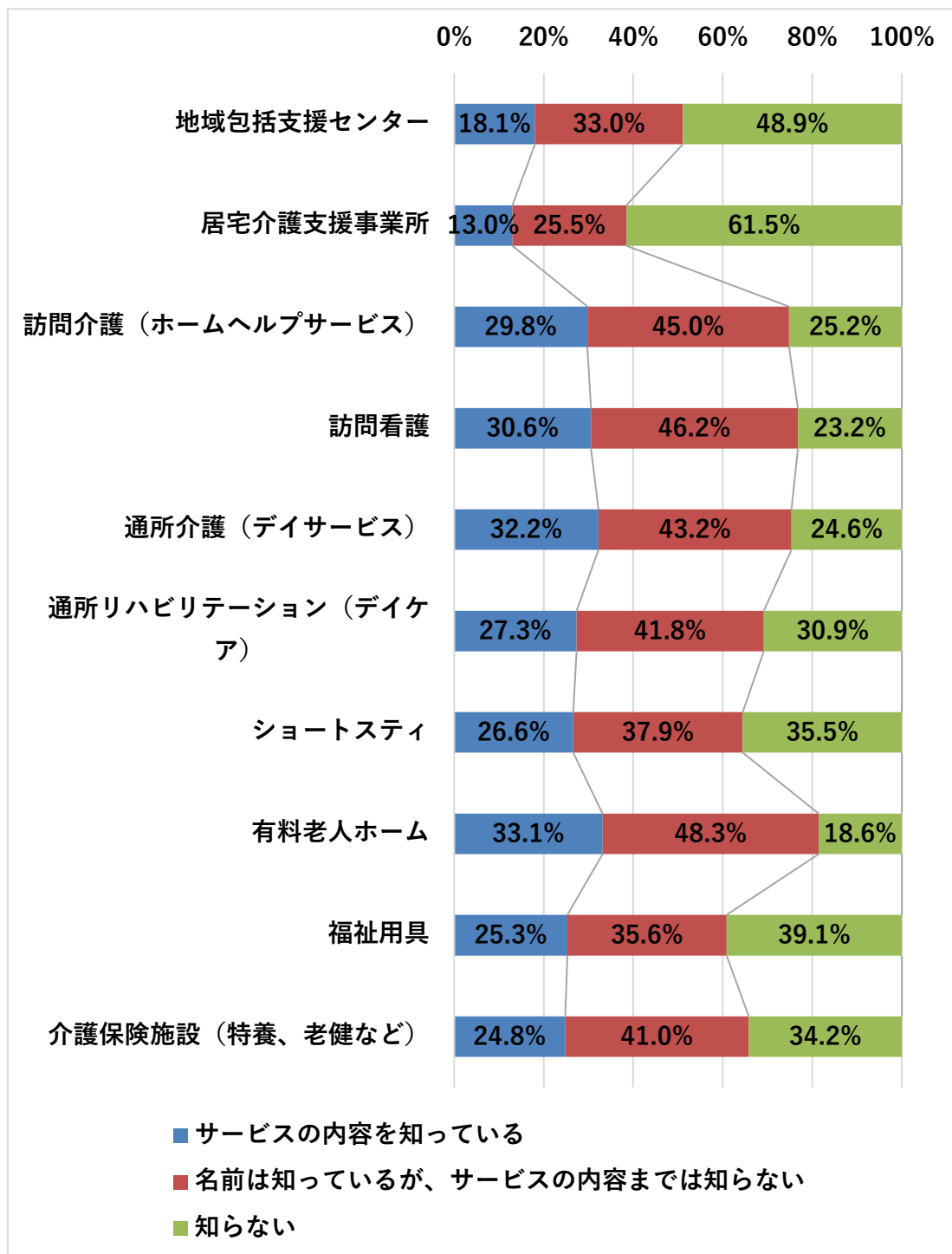


Q9.介護保険サービスを提供する「事業所」について伺います。以下の①～⑩それぞれの事業所について最も近いものをひとつお答えください。[SA] (N=3,000)

- ・介護保険サービスを提供する「事業所」の認知度は、
「地域包括包括支援センター」「居宅介護支援事業所」「福祉用具」においては、「知らない」の回答が最も多く、それ以外では、「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が最も多い。
- ・なお、「知らない」の回答に着目してみると、「居宅介護支援事業所」が61.5%で最も多く、次いで、「地域包括支援センター」48.9%、「福祉用具」39.1%が多い。
※「居宅介護支援事業所」「地域包括支援センター」の認知度が他サービスに比べて低く示されたが、調査票において他サービスには（ ）書きで補足呼称が記載されていたのに対し、「ケアマネジャー事業所」「高齢者支援センター」等の補足がなかったことが要因の一つと考えられる。そのため、認知度の数値をそのまま解釈することには一定の限界がある。

図表3-20：Q9「事業所の認知度」(SA)の分布

No.	事業所名	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない	合計
①	地域包括支援センター	542	990	<u>1468</u>	3000
		18.1%	33.0%	<u>48.9%</u>	100.0%
②	居宅介護支援事業所	390	764	<u>1846</u>	3000
		13.0%	25.5%	<u>61.5%</u>	100.0%
③	訪問介護（ホームヘルプサービス）	893	<u>1351</u>	756	3000
		29.8%	<u>45.0%</u>	25.2%	100.0%
④	訪問看護	917	<u>1386</u>	697	3000
		30.6%	<u>46.2%</u>	23.2%	100.0%
⑤	通所介護（デイサービス）	966	<u>1295</u>	739	3000
		32.2%	<u>43.2%</u>	24.6%	100.0%
⑥	通所リハビリテーション（デイケア）	820	<u>1254</u>	926	3000
		27.3%	<u>41.8%</u>	30.9%	100.0%
⑦	ショートステイ	797	<u>1137</u>	1066	3000
		26.6%	<u>37.9%</u>	35.5%	100.0%
⑧	有料老人ホーム	994	<u>1448</u>	558	3000
		33.1%	<u>48.3%</u>	18.6%	100.0%
⑨	福祉用具	758	1068	<u>1174</u>	3000
		25.3%	35.6%	<u>39.1%</u>	100.0%
⑩	介護保険施設（特養、老健など）	744	<u>1230</u>	1026	3000
		24.8%	<u>41.0%</u>	34.2%	100.0%



【介護保険サービスを提供する「事業所」別にみた年齢層ごとの認知度の比較】

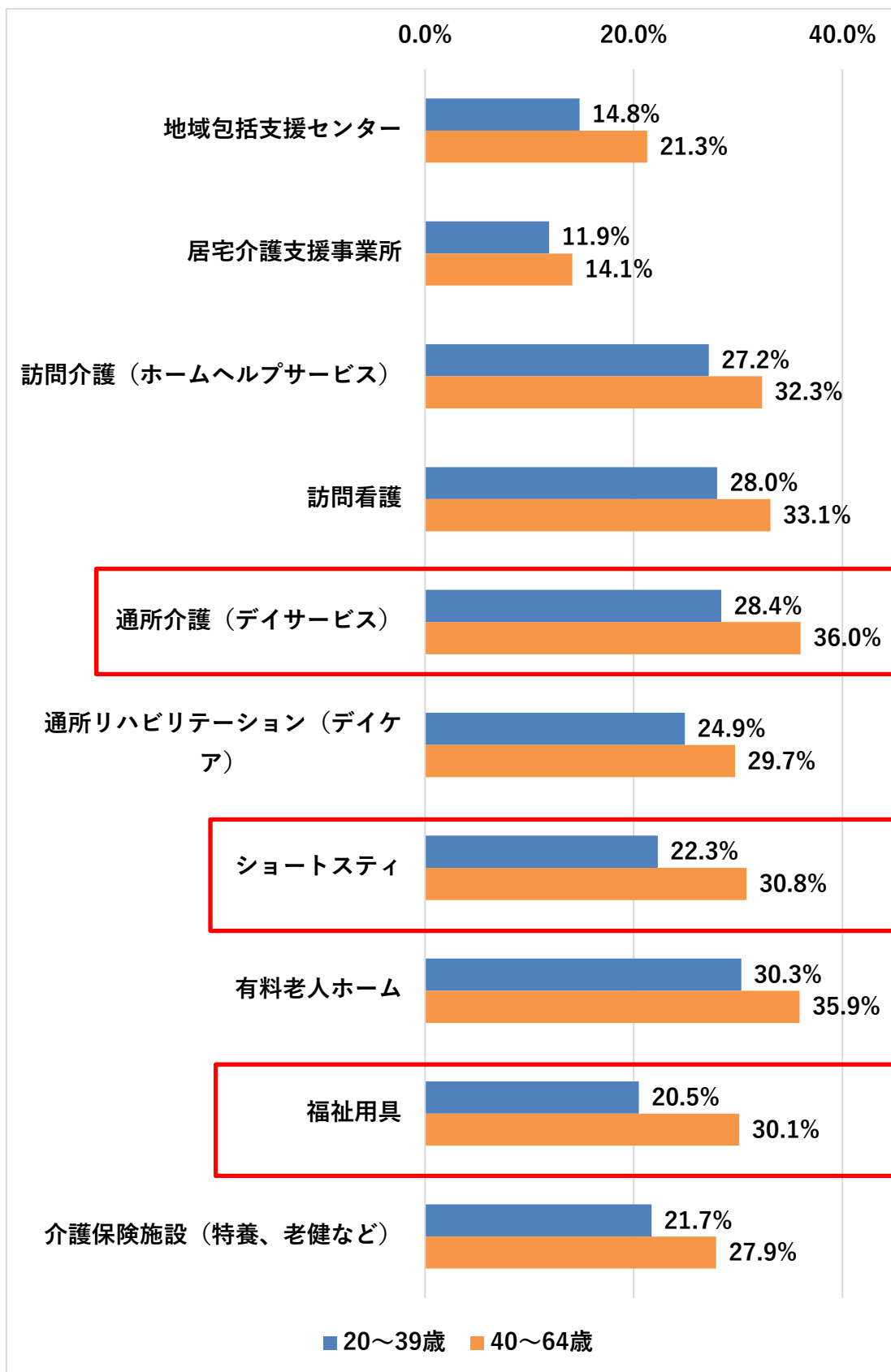
- ・介護保険サービスを提供する事業所の認知度を、事業所別および年齢層別に比較すると、「サービスの内容を知っている」と回答した割合では、順位の違いはあるものの「20～39歳」「40～64歳」ともに上位3つの事業所が共通しており、「訪問看護」「通所介護（デイサービス）」「有料老人ホーム」であった。
なお、各年齢層の最も多い回答は、「20～39歳」で「有料老人ホーム」が、「40～64歳」は「通所介護（デイサービス）」であり、年齢層による違いがみられた。
- ・「知らない」と回答した割合については、「20～39歳」「40～64歳」ともに上位3つの事業所が共通しており、「居宅介護支援事業所」「地域包括支援センター」「福祉用具」の順に多かった。
- ・さらに、事業所別に、「20～39歳」と「40～64歳」の回答の差をみると、「サービスの内容を知っている」では「福祉用具」「ショートステイ」「通所介護（デイサービス）」の順で差が大きく、「知らない」では「福祉用具」「介護保険施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設など）」「ショートステイ」の順で差が大きかった。
- ・また、「20～39歳」の認知度をみると、多くの事業所で「知らない」と回答する割合が高い一方、「有料老人ホーム」だけは「サービスの内容を知っている」と回答する割合が高かった。

図表3-21：【介護保険サービスを提供する「事業所」別にみた年齢層ごとの認知度の比較】の分布

No.	事業所名	サービスの内容を知っている			知らない		
		20～39歳	40～64歳	差	20～39歳	40～64歳	差
①	地域包括支援センター	14.8%	21.3%	6.5%	55.4%	42.5%	12.9%
②	居宅介護支援事業所	11.9%	14.1%	2.2%	65.9%	57.2%	8.7%
③	訪問介護（ホームヘルプサービス）	27.2%	32.3%	5.1%	32.2%	18.2%	14.0%
④	訪問看護	28.0%	33.1%	5.1%	30.8%	15.7%	15.1%
⑤	通所介護（デイサービス）	28.4%	36.0%	7.6%	32.3%	17.0%	15.3%
⑥	通所リハビリテーション（デイケア）	24.9%	29.7%	4.8%	36.5%	25.2%	11.3%
⑦	ショートステイ	22.3%	30.8%	8.5%	44.3%	26.7%	17.6%
⑧	有料老人ホーム	30.3%	35.9%	5.6%	26.2%	11.0%	15.2%
⑨	福祉用具	20.5%	30.1%	9.6%	48.9%	29.4%	19.5%
⑩	介護保険施設（特養、老健など）	21.7%	27.9%	6.2%	43.9%	24.5%	19.4%

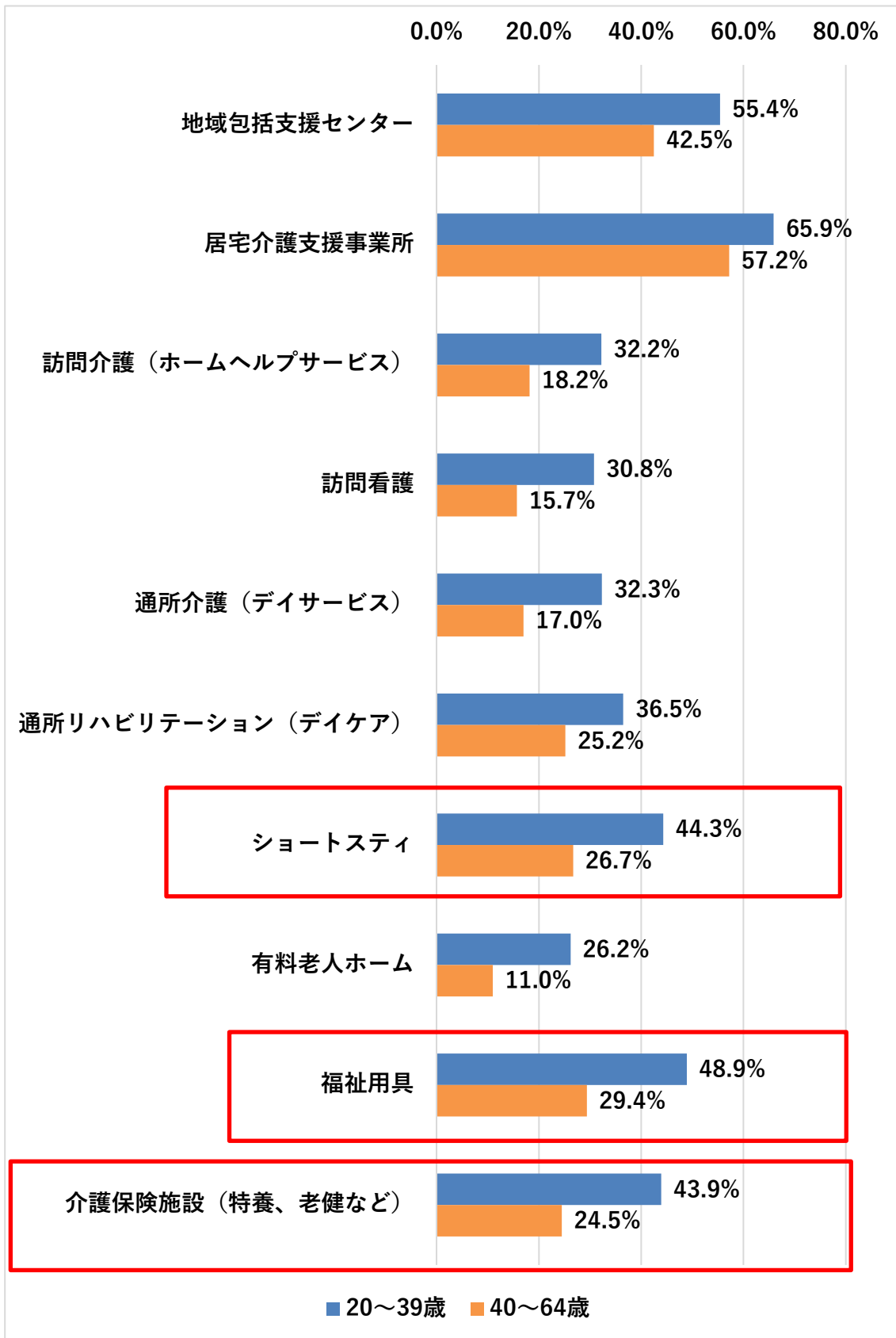
【介護保険サービスを提供する「事業所」別にみた年齢層ごとの認知度の比較】

(サービスの内容を知っている)



※赤枠は、「20～39歳」「40～64歳」の年齢層別で差が大きくみられた上位3つを示す。

【介護保険サービスを提供する「事業所」別にみた年齢層ごとの認知度の比較】
 (知らない)



※赤枠は、「20～39歳」「40～64歳」の年齢層別で差が大きくみられた上位3つを示す。

【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(①地域包括支援センター)

- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(①地域包括支援センター)の認知度をみてみると、
いずれの年齢において「知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は55.4%と、「40～64歳」の42.5%と比較すると高い。

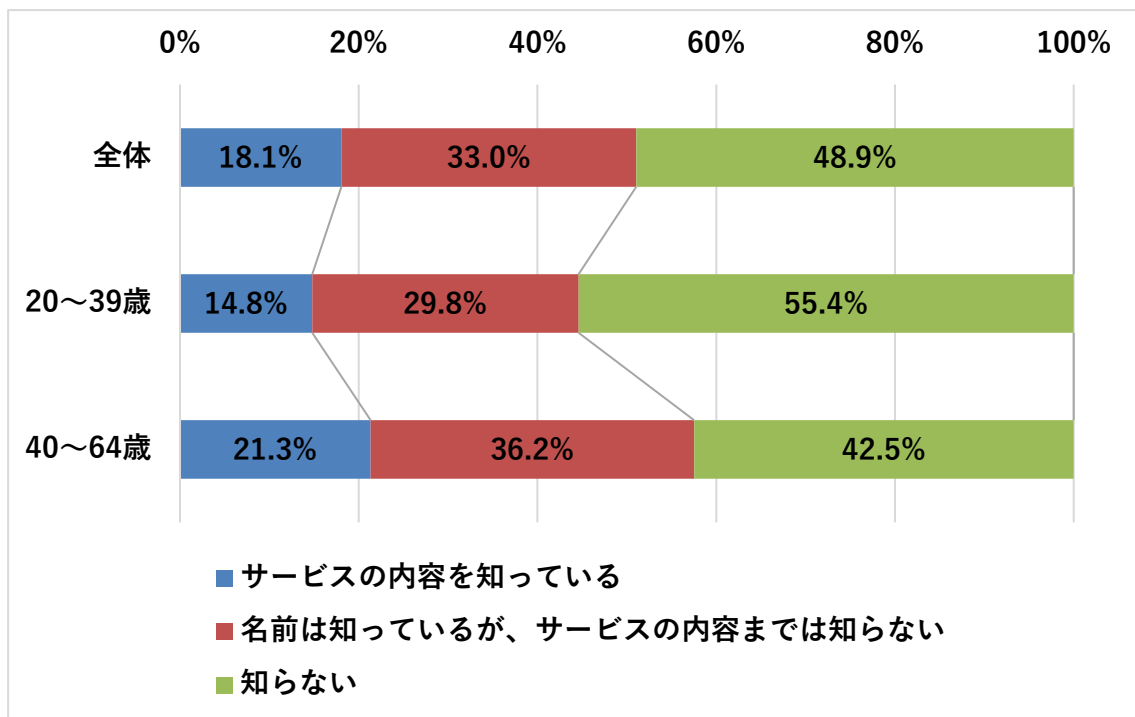
図表3-22：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計

(①地域包括支援センター)

	全体	サービスの内容を 知っている	名前は知っている が、サービスの内 容までは知らない	知らない
全体	3000	542	990	1468
	100.0%	18.1%	33.0%	48.9%
20～39歳	1500	222	447	831
	100.0%	14.8%	29.8%	55.4%
40～64歳	1500	320	543	637
	100.0%	21.3%	36.2%	42.5%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(②居宅介護支援事業所)

- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(②居宅介護支援事業所)の認知度をみてみると、
いずれの年齢において「知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は65.9%と、「40～64歳」の57.2%と比較すると高い。

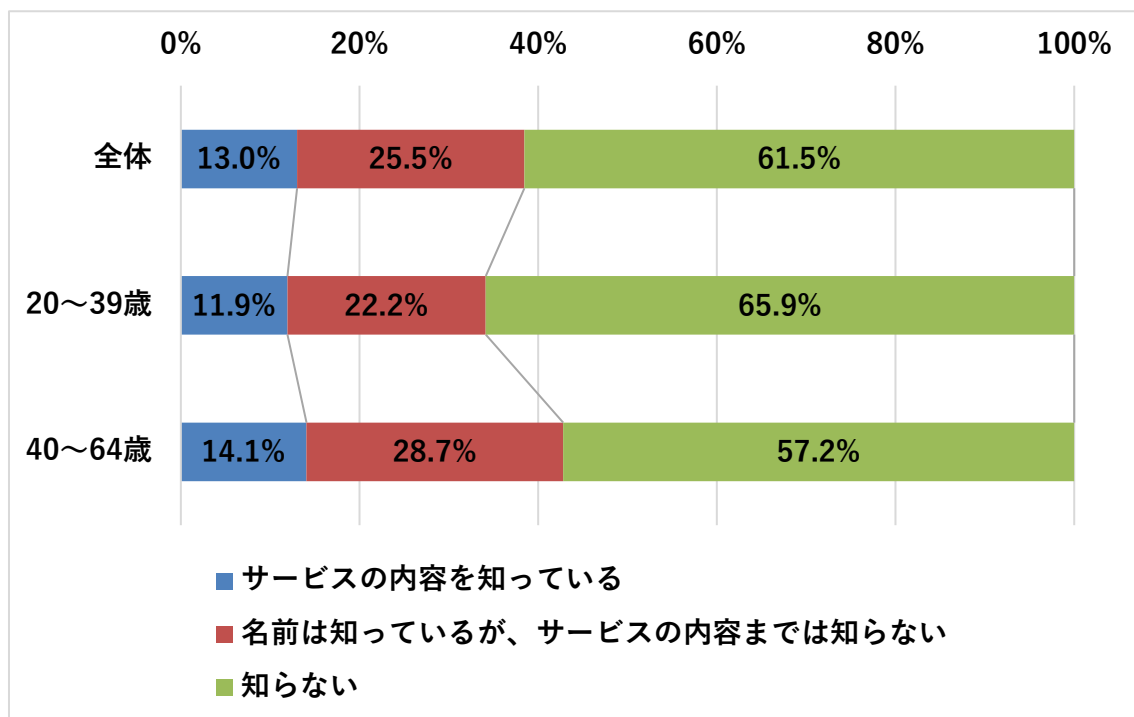
図表3-23：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計

(②居宅介護支援事業所)

	全体	サービスの内容を 知っている	名前は知っている が、サービスの内 容までは知らない	知らない
全体	3000	390	764	1846
	100.0%	13.0%	25.5%	61.5%
20～39歳	1500	179	333	988
	100.0%	11.9%	22.2%	65.9%
40～64歳	1500	211	431	858
	100.0%	14.1%	28.7%	57.2%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(③訪問介護(ホームヘルプサービス))

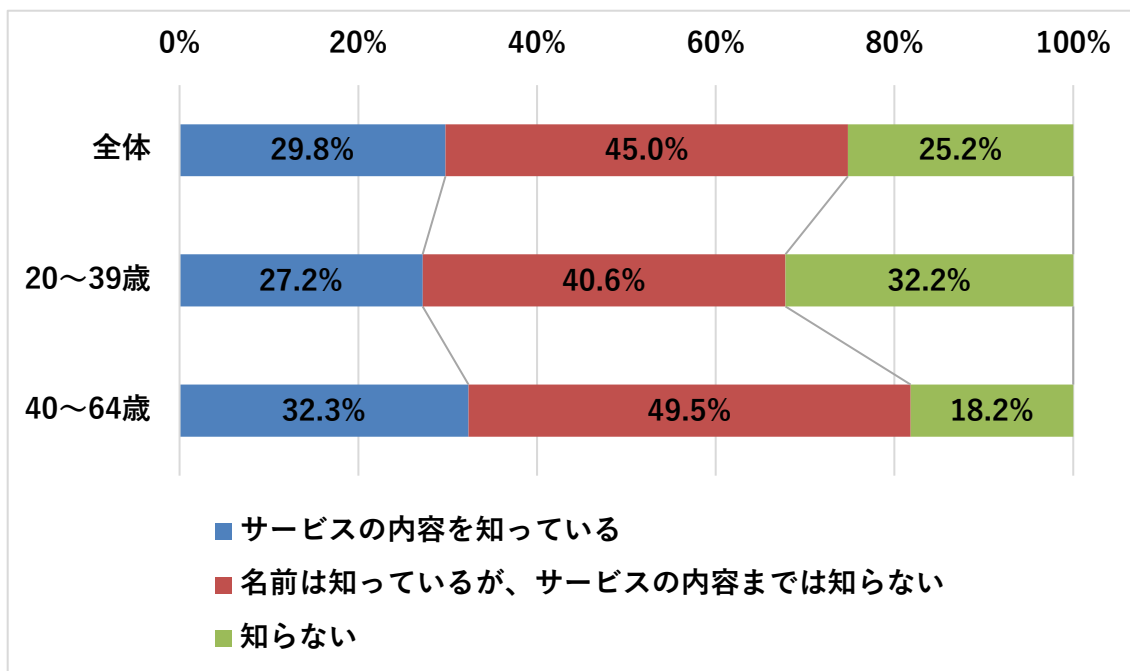
- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(③訪問介護(ホームヘルプサービス))の認知度をみると、
いずれの年齢において「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は32.2%と、「40～64歳」の18.2%と比較すると高い。

図表3-24：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計
(③訪問介護(ホームヘルプサービス))

	全体	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない
全体	3000	893	1351	756
	100.0%	29.8%	45.0%	25.2%
20～39歳	1500	408	609	483
	100.0%	27.2%	40.6%	32.2%
40～64歳	1500	485	742	273
	100.0%	32.3%	49.5%	18.2%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(④訪問看護)

- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(④訪問看護)の認知度をみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20~39歳」は30.8%と、「40~64歳」の15.7%と比較すると高い。

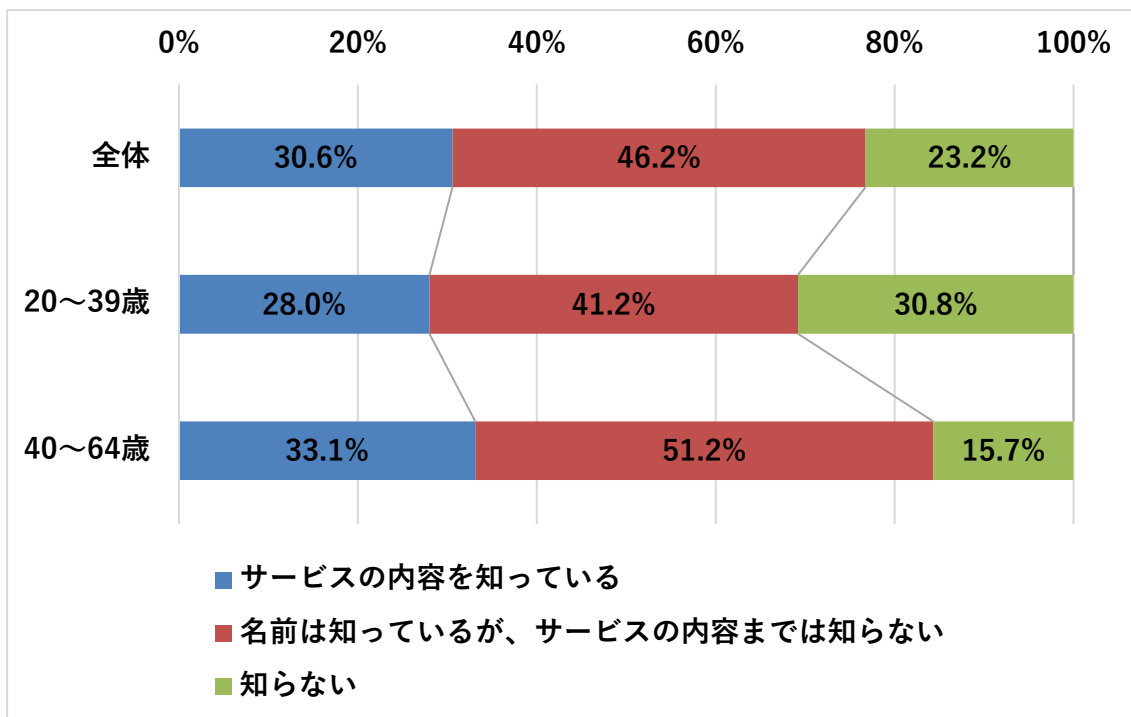
図表3-25：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計

(④訪問看護)

	全体	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない
全体	3000	917	1386	697
	100.0%	30.6%	46.2%	23.2%
20~39歳	1500	420	618	462
	100.0%	28.0%	41.2%	30.8%
40~64歳	1500	497	768	235
	100.0%	33.1%	51.2%	15.7%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(⑤通所介護(デイサービス))

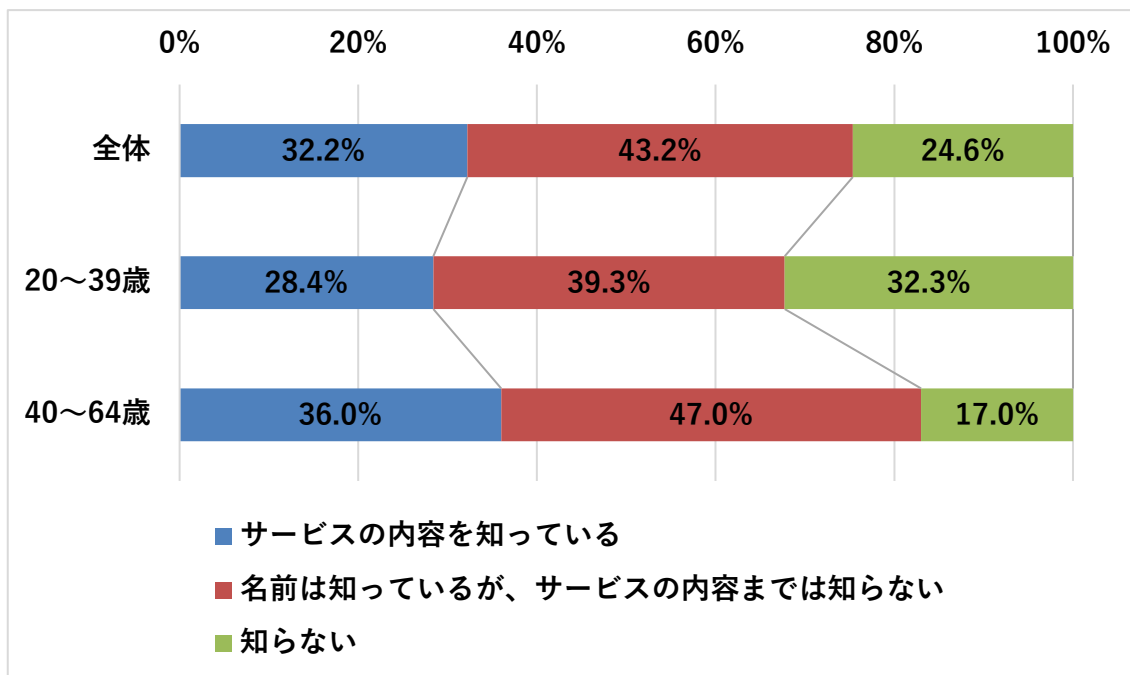
- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(⑤通所介護(デイサービス))の認知度をみると、
いずれの年齢において「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は32.3%と、「40～64歳」の17.0%と比較すると高い。

図表3-26：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計
(⑤通所介護(デイサービス))

	全体	サービスの内容を 知っている	名前は知っている が、サービスの内 容までは知らない	知らない
全体	3000	966	1295	739
	100.0%	32.2%	43.2%	24.6%
20～39歳	1500	426	590	484
	100.0%	28.4%	39.3%	32.3%
40～64歳	1500	540	705	255
	100.0%	36.0%	47.0%	17.0%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(⑥通所リハビリテーション(デイケア))

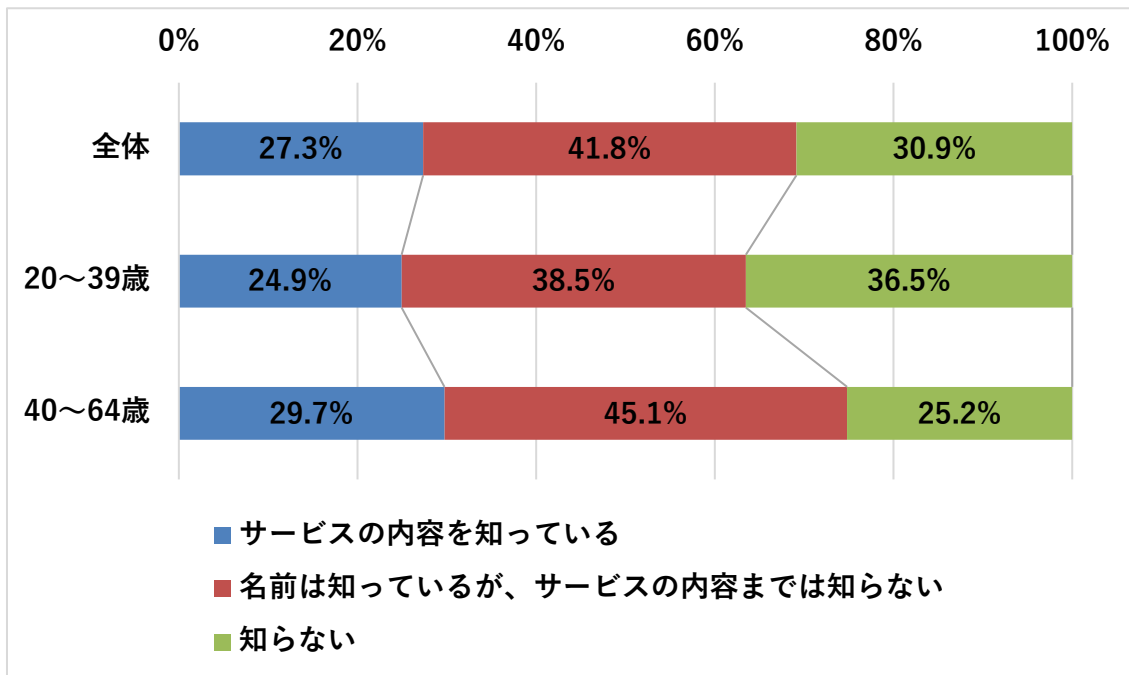
- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(⑥通所リハビリテーション(デイケア))の認知度をみると、
いずれの年齢において「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は36.5%と、「40～64歳」の25.2%と比較すると高い。

図表3-27：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計
(⑥通所リハビリテーション(デイケア))

	全体	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない
全体	3000	820	1254	926
	100.0%	27.3%	41.8%	30.9%
20～39歳	1500	374	578	548
	100.0%	24.9%	38.5%	36.5%
40～64歳	1500	446	676	378
	100.0%	29.7%	45.1%	25.2%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(⑦ショートステイ)

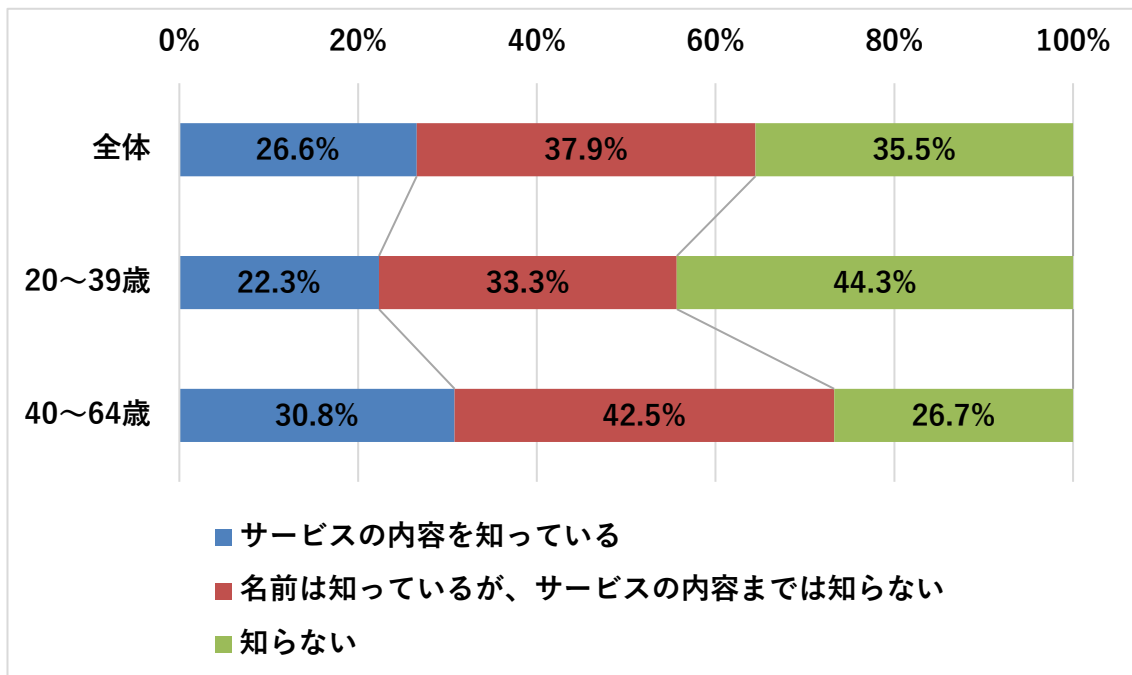
- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(⑦ショートステイ)の認知度をみると、「20～39歳」では、「知らない」が、「40～64歳」では、「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は44.3%と、「40～64歳」の26.7%と比較すると高い。

図表3-28：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計
(⑦ショートステイ)

	全体	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない
全体	3000	797	1137	1066
	100.0%	26.6%	37.9%	35.5%
20～39歳	1500	335	500	665
	100.0%	22.3%	33.3%	44.3%
40～64歳	1500	462	637	401
	100.0%	30.8%	42.5%	26.7%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」 (N=3,000)

(⑧有料老人ホーム)

- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所（⑧有料老人ホーム）の認知度をみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は26.2%と、「40～64歳」の11.0%と比較すると高い。

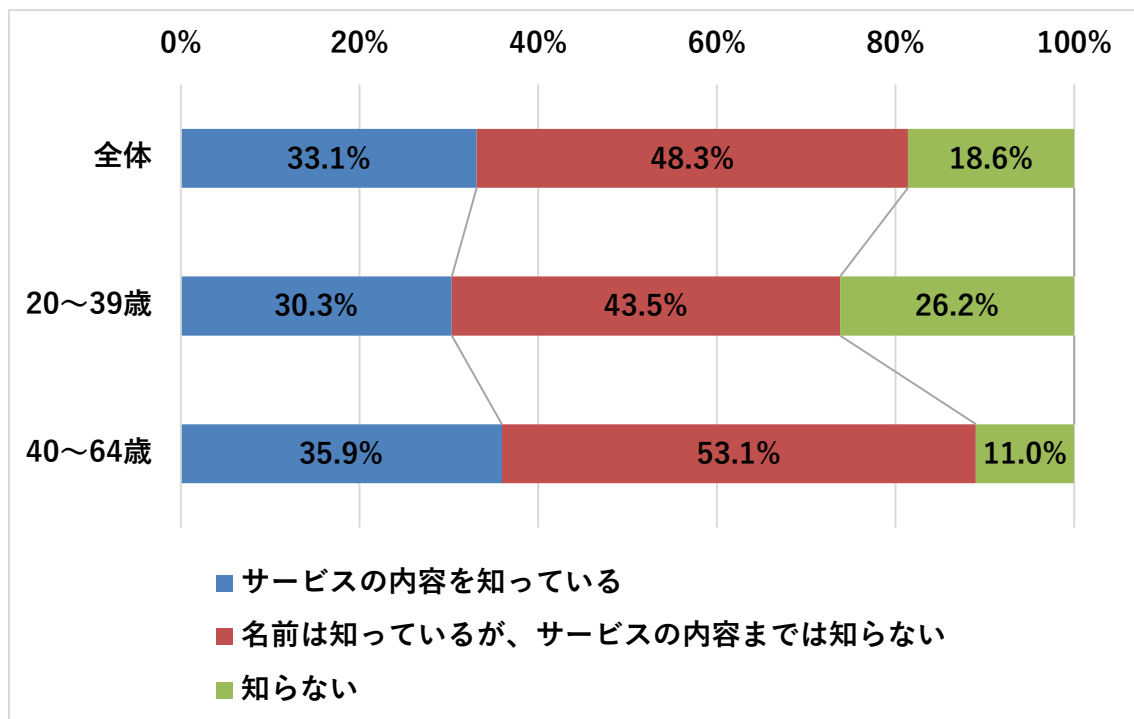
図表3-29：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計

(⑧有料老人ホーム)

	全体	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない
全体	3000	994	1448	558
	100.0%	33.1%	48.3%	18.6%
20～39歳	1500	455	652	393
	100.0%	30.3%	43.5%	26.2%
40～64歳	1500	539	796	165
	100.0%	35.9%	53.1%	11.0%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」 (N=3,000)

(◎福祉用具)

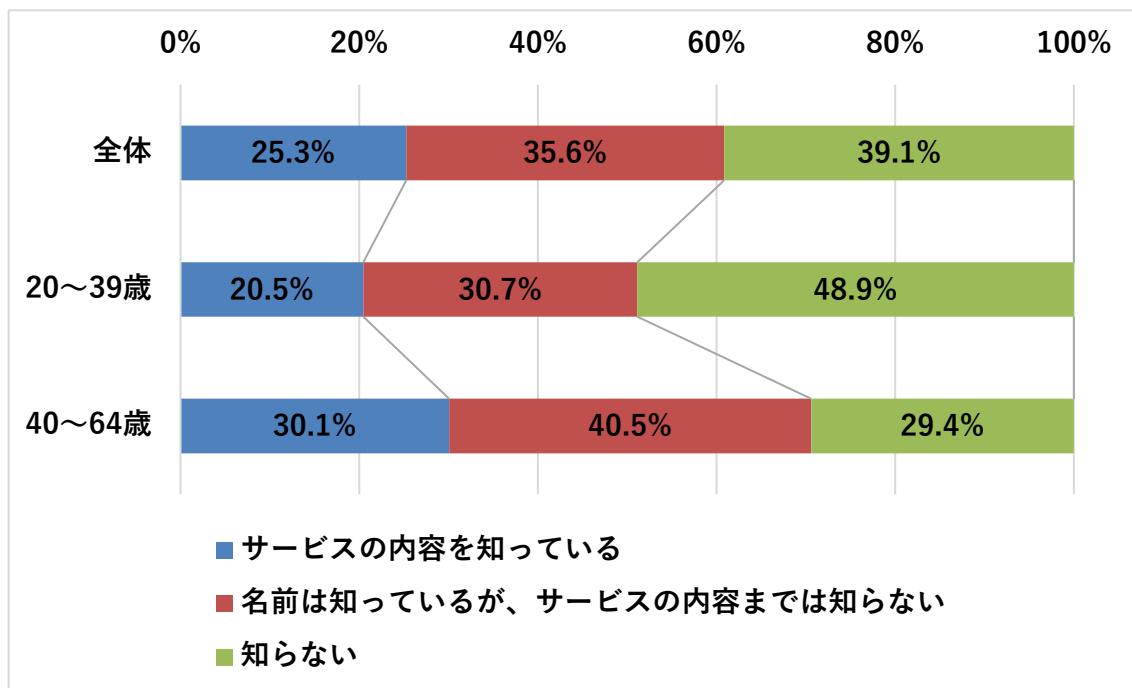
- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(◎福祉用具)の認知度をみると、「20～39歳」では、「知らない」が、「40～64歳」では、「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は48.9%と、「40～64歳」の29.4%と比較すると高い。

図表3-30：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計
(◎福祉用具)

	全体	サービスの内容を知っている	名前は知っているが、サービスの内容までは知らない	知らない
全体	3000	758	1068	1174
	100.0%	25.3%	35.6%	39.1%
20～39歳	1500	307	460	733
	100.0%	20.5%	30.7%	48.9%
40～64歳	1500	451	608	441
	100.0%	30.1%	40.5%	29.4%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(N=3,000)

(⑩介護保険施設(特養、老健など))

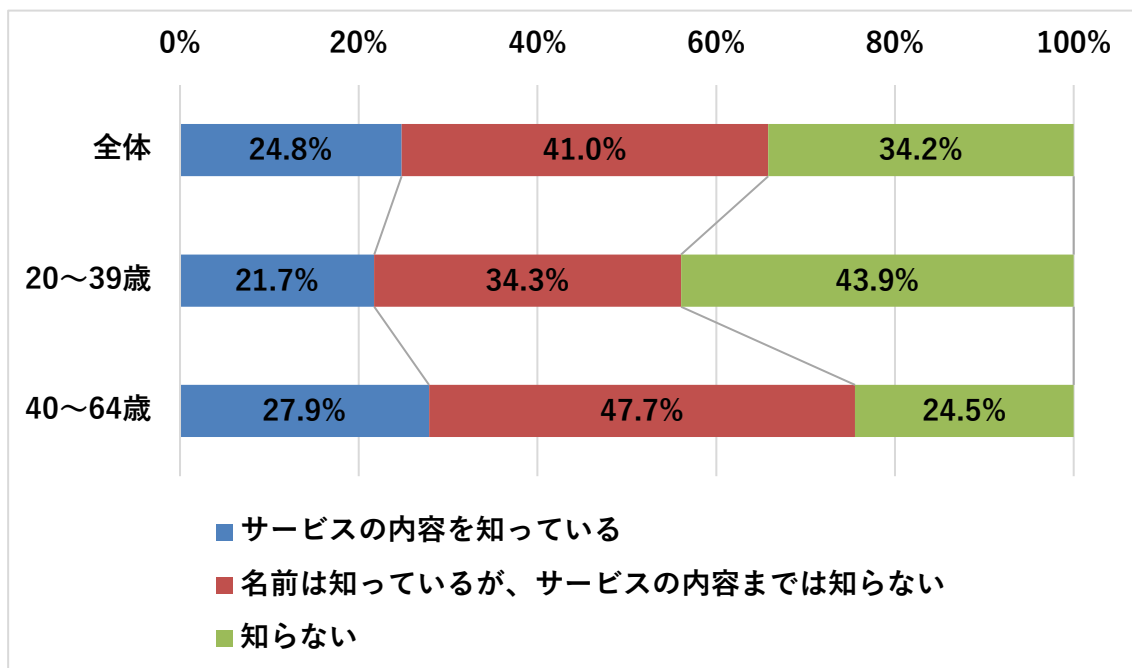
- ・年齢別に介護保険サービスを提供する事業所(⑩介護保険施設(特養、老健など))の認知度をみると、
「20~39歳」では、「知らない」が、「40~64歳」では、「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20~39歳」は43.9%と、「40~64歳」の24.5%と比較すると高い。

図表3-31：Q1「年齢」(SA)と

Q9「介護保険サービスを提供する事業所の認知度」(SA)のクロス集計
(⑩介護保険施設(特養、老健など))

	全体	サービスの内容を 知っている	名前は知っている が、サービスの内 容までは知らない	知らない
全体	3000	744	1230	1026
	100.0%	24.8%	41.0%	34.2%
20~39歳	1500	326	515	659
	100.0%	21.7%	34.3%	43.9%
40~64歳	1500	418	715	367
	100.0%	27.9%	47.7%	24.5%

カイ2乗検定： $p < .05$

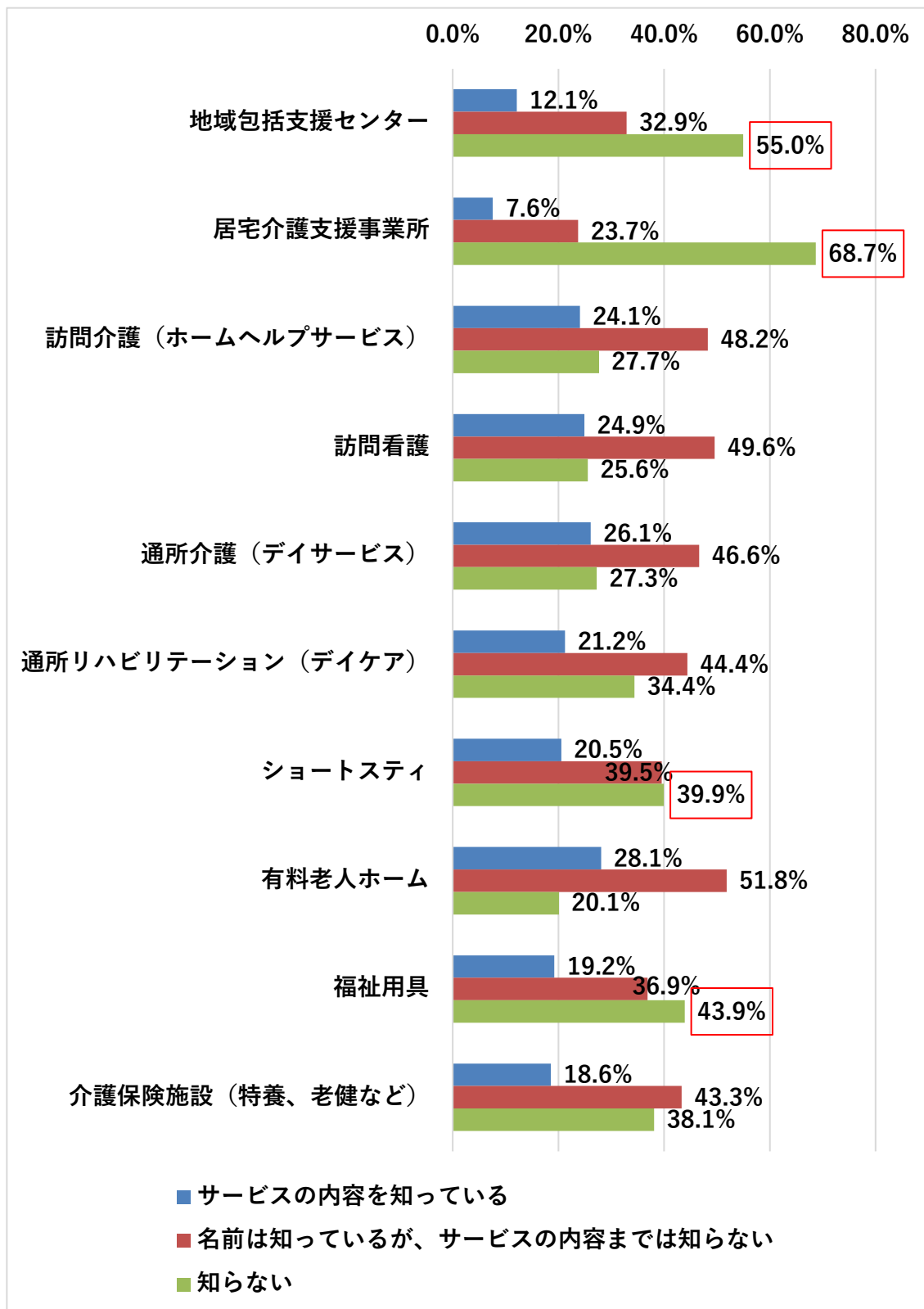


【介護保険サービスを提供する事業所の認知度（Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無（働いたことはない）」）】（N=2,454）

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験がない方における、介護保険サービスを提供する「事業所」の認知度は、
「地域包括包括支援センター」「居宅介護支援事業所」「ショートステイ」「福祉用具」においては、「知らない」の回答が最も多く、それ以外では、「名前は知っているが、サービスの内容までは知らない」の回答が最も多い。
- ・なお、「知らない」の回答に着目してみると、「居宅介護支援事業所」が68.7%で最も多く、次いで、「地域包括支援センター」55.0%、「福祉用具」43.9%、「ショートステイ」39.9%が多い。

図表3-32：【介護保険サービスを提供する事業所の認知度（Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無（働いたことはない）」）】の分布

No.	事業所名	サービスの内容を 知っている	名前は知っている が、サービスの内 容までは知らない	知らない	合計
①	地域包括支援センター	298	807	1349	2454
		12.1%	32.9%	55.0%	100.0%
②	居宅介護支援事業所	186	582	1686	2454
		7.6%	23.7%	68.7%	100.0%
③	訪問介護（ホームヘルプサービス）	591	1184	679	2454
		24.1%	48.2%	27.7%	100.0%
④	訪問看護	611	1216	627	2454
		24.9%	49.6%	25.6%	100.0%
⑤	通所介護（デイサービス）	641	1144	669	2454
		26.1%	46.6%	27.3%	100.0%
⑥	通所リハビリテーション（デイケア）	521	1089	844	2454
		21.2%	44.4%	34.4%	100.0%
⑦	ショートステイ	504	970	980	2454
		20.5%	39.5%	39.9%	100.0%
⑧	有料老人ホーム	689	1272	493	2454
		28.1%	51.8%	20.1%	100.0%
⑨	福祉用具	472	905	1077	2454
		19.2%	36.9%	43.9%	100.0%
⑩	介護保険施設（特養、老健など）	456	1063	935	2454
		18.6%	43.3%	38.1%	100.0%

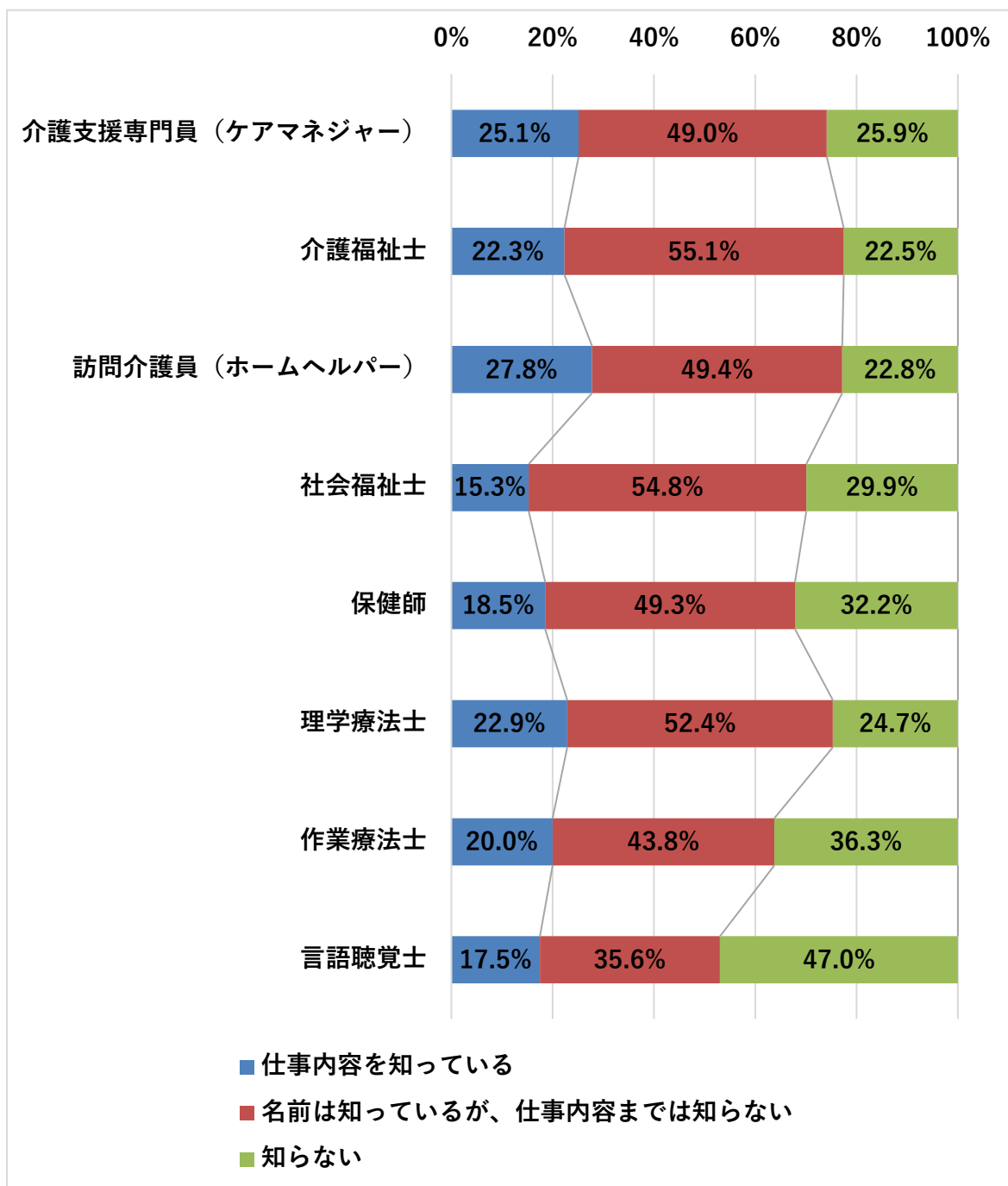


Q10.介護保険サービスを担う「専門職」について伺います。以下の①～⑧それぞれの専門職について最も近いものをひとつお答えください。[SA] (N=3,000)

- ・介護保険サービスを担う「専門職」の認知度は、「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が最も多いが、「言語聴覚士」においてのみ、「知らない」の回答が最も多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「言語聴覚士」の回答が47.0%で最も多く、次いで、「作業療法士」36.3%、「保健師」32.2%が多い。
- ・一方、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」と「訪問介護員（ホームヘルパー）」では、「仕事内容を知っている」と回答した割合がそれぞれ25.1%と27.8%で、他の専門職と比較して高い割合となっている。
- ・なお、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」は、居宅介護支援事業所としての認知度は低かったものの、専門職としての認知度は全体で2番目に高く、約4人に1人が「仕事内容を知っている」と回答している。

図表3-33：Q10「専門職の認知度」（SA）の分布

No.	専門職名	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない	合計
①	介護支援専門員 (ケアマネジャー)	753	<u>1471</u>	776	3000
		25.1%	<u>49.0%</u>	25.9%	100.0%
②	介護福祉士	670	<u>1654</u>	676	3000
		22.3%	<u>55.1%</u>	22.5%	100.0%
③	訪問介護員（ホームヘルパー）	833	<u>1482</u>	685	3000
		27.8%	<u>49.4%</u>	22.8%	100.0%
④	社会福祉士	458	<u>1645</u>	897	3000
		15.3%	<u>54.8%</u>	29.9%	100.0%
⑤	保健師	556	<u>1479</u>	965	3000
		18.5%	<u>49.3%</u>	32.2%	100.0%
⑥	理学療法士	687	<u>1573</u>	740	3000
		22.9%	<u>52.4%</u>	24.7%	100.0%
⑦	作業療法士	599	<u>1313</u>	1088	3000
		20.0%	<u>43.8%</u>	36.3%	100.0%
⑧	言語聴覚士	524	1067	<u>1409</u>	3000
		17.5%	35.6%	<u>47.0%</u>	100.0%



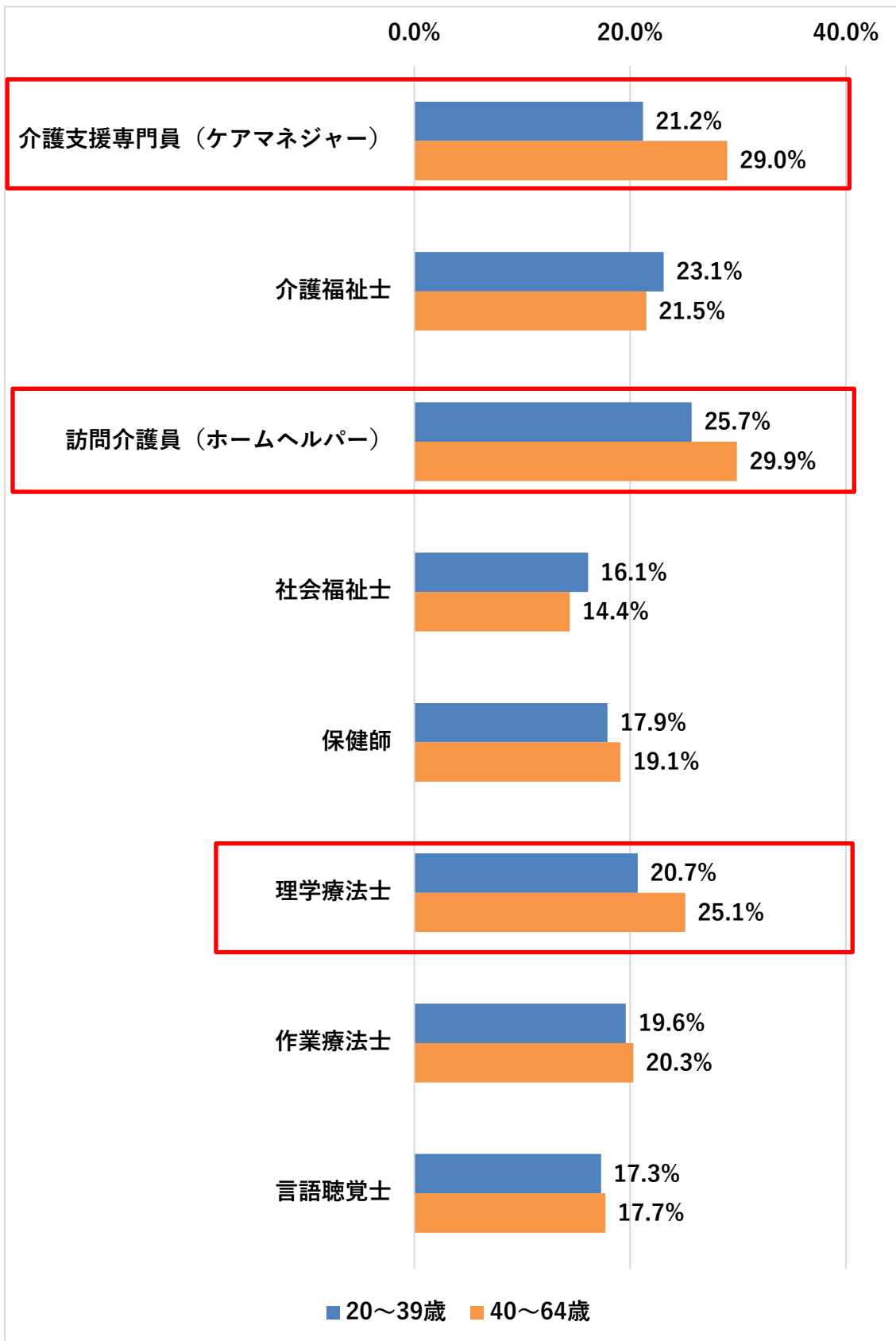
【介護保険サービスを担う「専門職」別にみた年齢層ごとの認知度の違い】

- ・介護保険サービスを担う専門職の認知度を、専門職別および年齢層別に比較すると、「仕事内容を知っている」と回答した割合では、「20～39歳」「40～64歳」とともに「訪問介護員（ホームヘルパー）」が最も多かった。
上位2つ目については、「20～39歳」で「介護福祉士」が、「40～64歳」は「介護支援専門員（ケアマネジャー）」であった。
上位3つ目については、「20～39歳」で「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が、「40～64歳」は「理学療法士」であり、年齢層による順位の違いがみられた。
- ・「知らない」と回答した割合については、「20～39歳」「40～64歳」とともに上位3つの専門職が共通しており、「言語聴覚士」「作業療法士」「保健師」の順に多かった。
- ・さらに、専門職別に、「20～39歳」と「40～64歳」の回答の差をみると、「仕事内容を知っている」では「介護支援専門員（ケアマネジャー）」「理学療法士」「訪問介護員（ホームヘルパー）」の順で差が大きく、「知らない」では「介護支援専門員（ケアマネジャー）」「訪問介護員（ホームヘルパー）」「保健師」の順で差が大きかった。
- ・なお、「介護福祉士」「社会福祉士」については、「20～39歳」の方が「40～64歳」よりも「仕事内容を知っている」と回答した割合が高かった。

図表3-34：【介護保険サービスを担う「専門職」別にみた年齢層ごとの認知度の違い】の分布

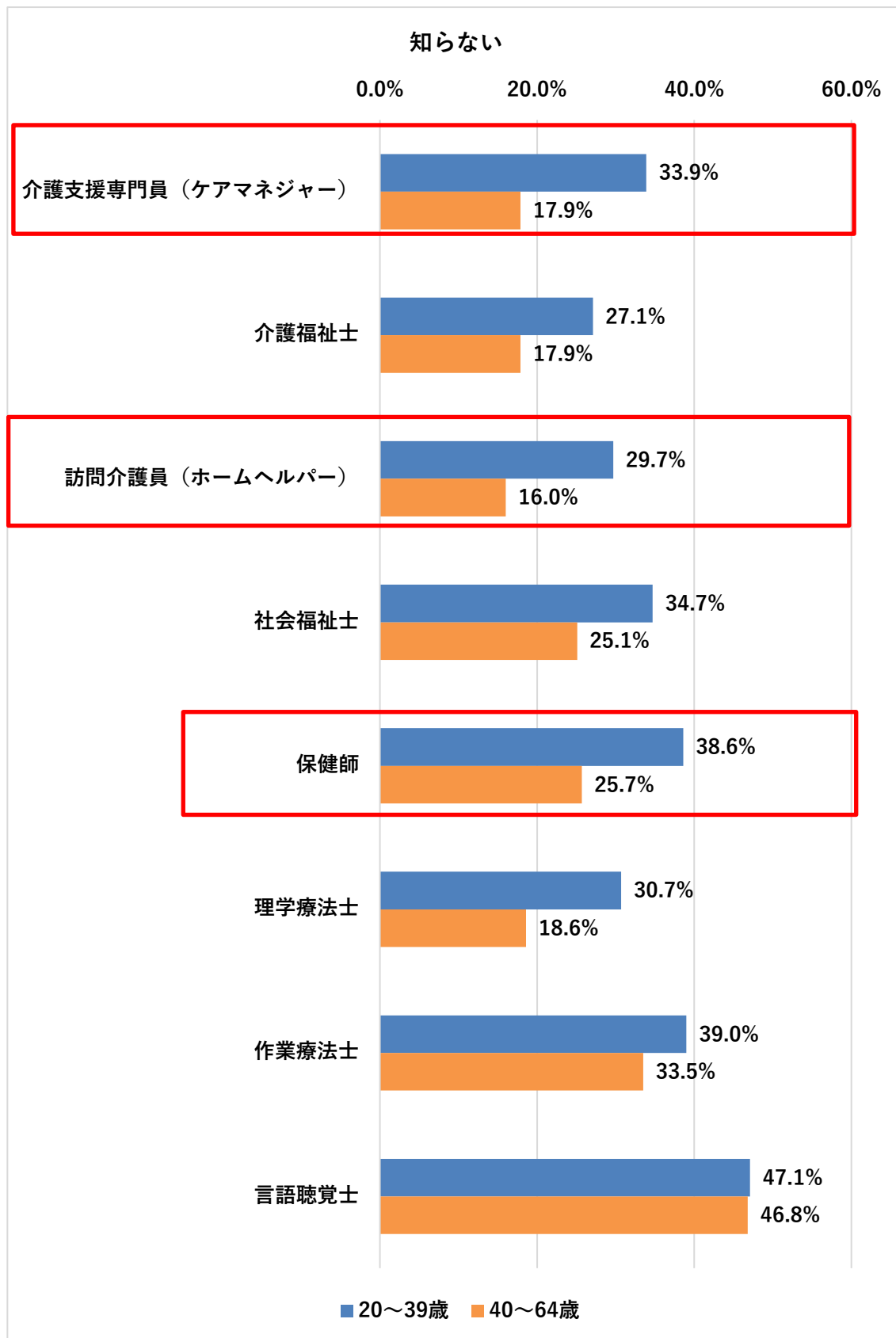
No.	専門職名	仕事内容を知っている			知らない		
		20～39歳	40～64歳	差	20～39歳	40～64歳	差
①	介護支援専門員（ケアマネジャー）	21.2%	29.0%	7.8%	33.9%	17.9%	16.0%
②	介護福祉士	23.1%	21.5%	1.6%	27.1%	17.9%	9.2%
③	訪問介護員（ホームヘルパー）	25.7%	29.9%	4.2%	29.7%	16.0%	13.7%
④	社会福祉士	16.1%	14.4%	1.7%	34.7%	25.1%	9.6%
⑤	保健師	17.9%	19.1%	1.2%	38.6%	25.7%	12.9%
⑥	理学療法士	20.7%	25.1%	4.4%	30.7%	18.6%	12.1%
⑦	作業療法士	19.6%	20.3%	0.7%	39.0%	33.5%	5.5%
⑧	言語聴覚士	17.3%	17.7%	0.4%	47.1%	46.8%	0.3%

【介護保険サービスを担う「専門職」別にみた年齢層ごとの認知度の違い】
 (仕事内容を知っている)



※赤枠は、「20～39歳」「40～64歳」の年齢層別で差が大きくみられた上位3つを示す。

【介護保険サービスを担う「専門職」別にみた年齢層ごとの認知度の違い】
 (知らない)



※赤枠は、「20～39歳」「40～64歳」の年齢層別で差が大きくみられた上位3つを示す。

【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (N=3,000)

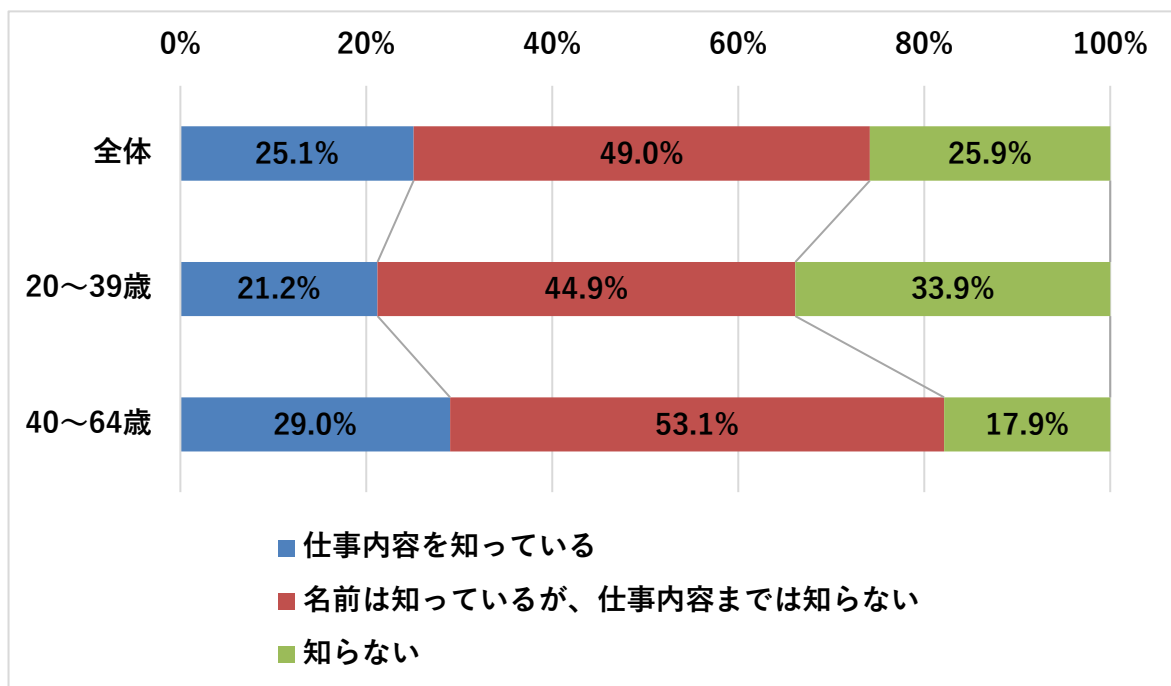
(①介護支援専門員 (ケアマネジャー))

- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職 (①介護支援専門員 (ケアマネジャー)) の認知度をみると、
いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は33.9%と、「40～64歳」の17.9%と比較すると高い。

図表3-35：Q1「年齢」 (SA) と
Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (SA) のクロス集計
(①介護支援専門員 (ケアマネジャー))

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000	753	1471	776
	100.0%	25.1%	49.0%	25.9%
20～39歳	1500	318	674	508
	100.0%	21.2%	44.9%	33.9%
40～64歳	1500	435	797	268
	100.0%	29.0%	53.1%	17.9%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (N=3,000)

(②介護福祉士)

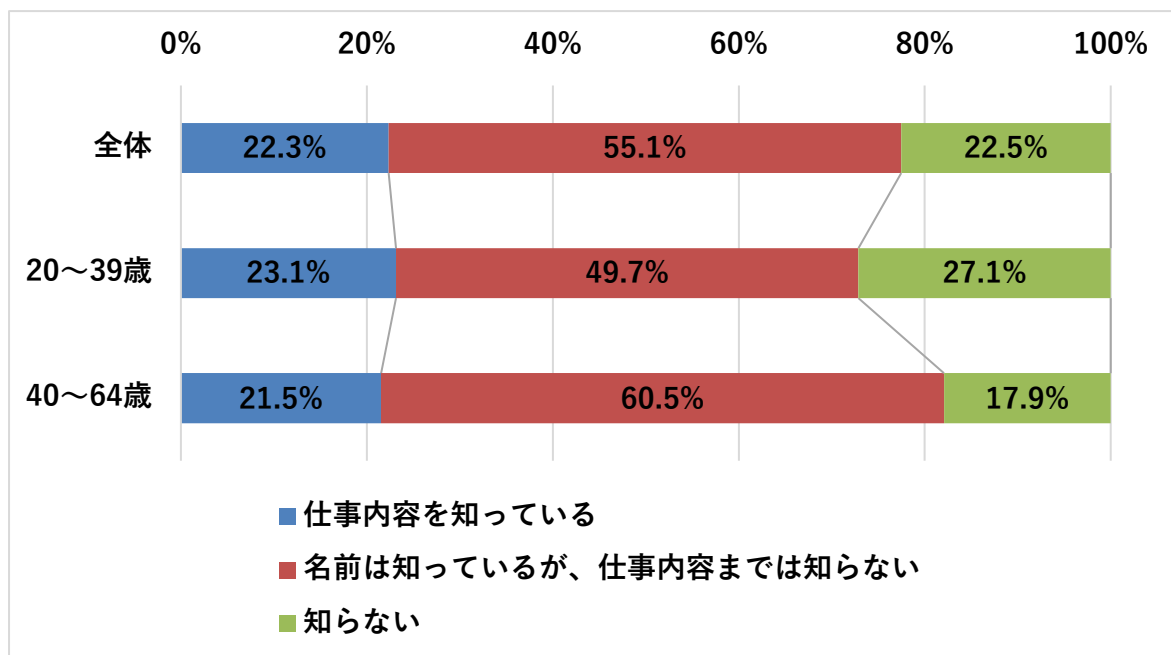
- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職（②介護福祉士）の認知度をみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は27.1%と、「40～64歳」の17.9%と比較すると高い。
- ・「仕事内容を知っている」の回答に着目してみると、「20～39歳」は23.1%と、「40～64歳」の21.5%と比較すると高い。

図表3-36：Q1「年齢」(SA)と

Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(②介護福祉士)

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000 100.0%	670 22.3%	1654 55.1%	676 22.5%
20～39歳	1500 100.0%	347 23.1%	746 49.7%	407 27.1%
40～64歳	1500 100.0%	323 21.5%	908 60.5%	269 17.9%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(N=3,000)

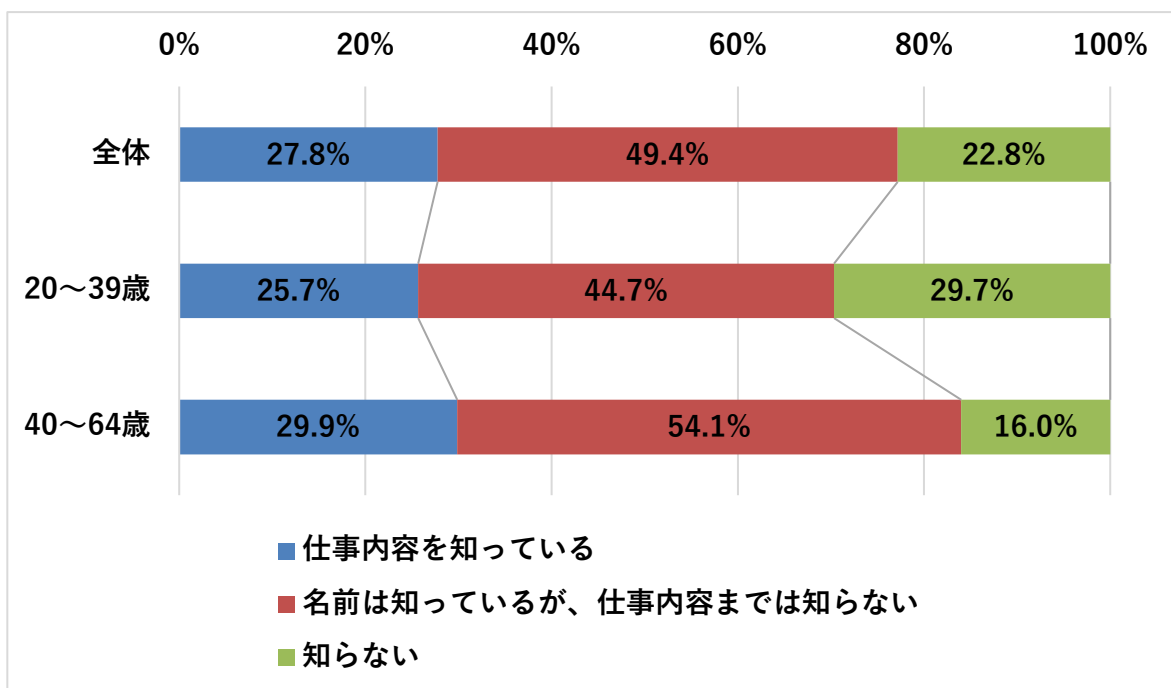
(③訪問介護員(ホームヘルパー))

- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職(③訪問介護員(ホームヘルパー))の認知度をみると、
いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は29.7%と、「40～64歳」の16.0%と比較すると高い。

図表3-37：Q1「年齢」(SA)と
Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(③訪問介護員(ホームヘルパー))

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000	833	1482	685
	100.0%	27.8%	49.4%	22.8%
20～39歳	1500	385	670	445
	100.0%	25.7%	44.7%	29.7%
40～64歳	1500	448	812	240
	100.0%	29.9%	54.1%	16.0%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (N=3,000)

(④社会福祉士)

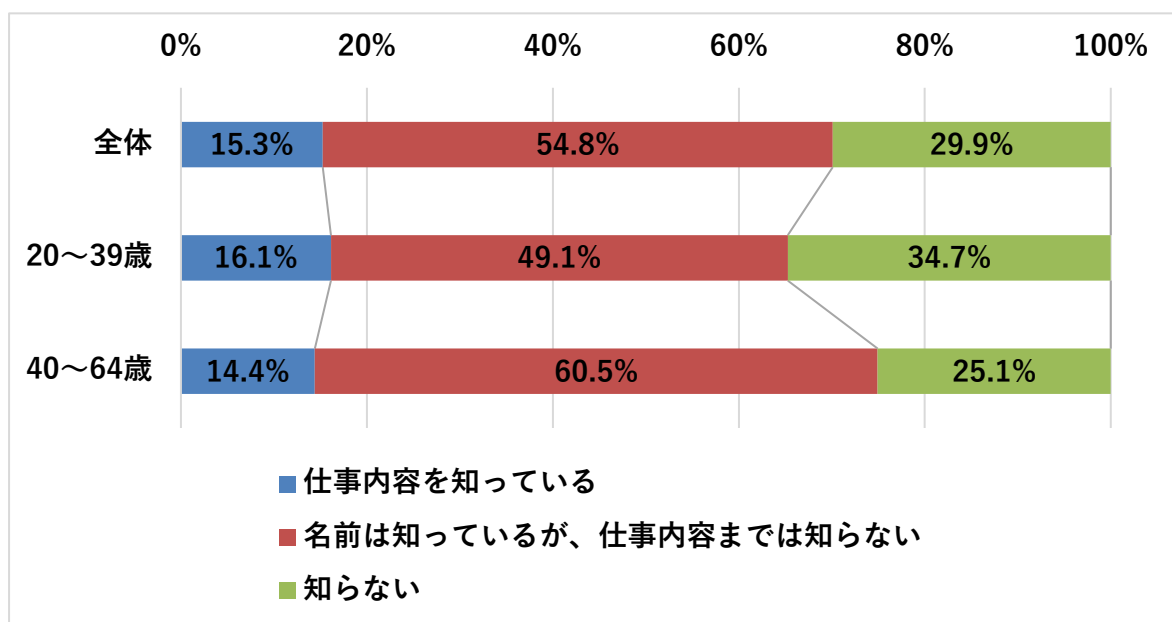
- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職（④社会福祉士）の認知度をみてみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は34.7%と、「40～64歳」の25.1%と比較すると高い。
- ・「仕事内容を知っている」の回答に着目してみると、「20～39歳」は16.1%と、「40～64歳」の14.4%と比較すると高い。

図表3-38：Q1「年齢」(SA)と

Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(④社会福祉士)

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000	458	1645	897
	100.0%	15.3%	54.8%	29.9%
20～39歳	1500	242	737	521
	100.0%	16.1%	49.1%	34.7%
40～64歳	1500	216	908	376
	100.0%	14.4%	60.5%	25.1%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (N=3,000)

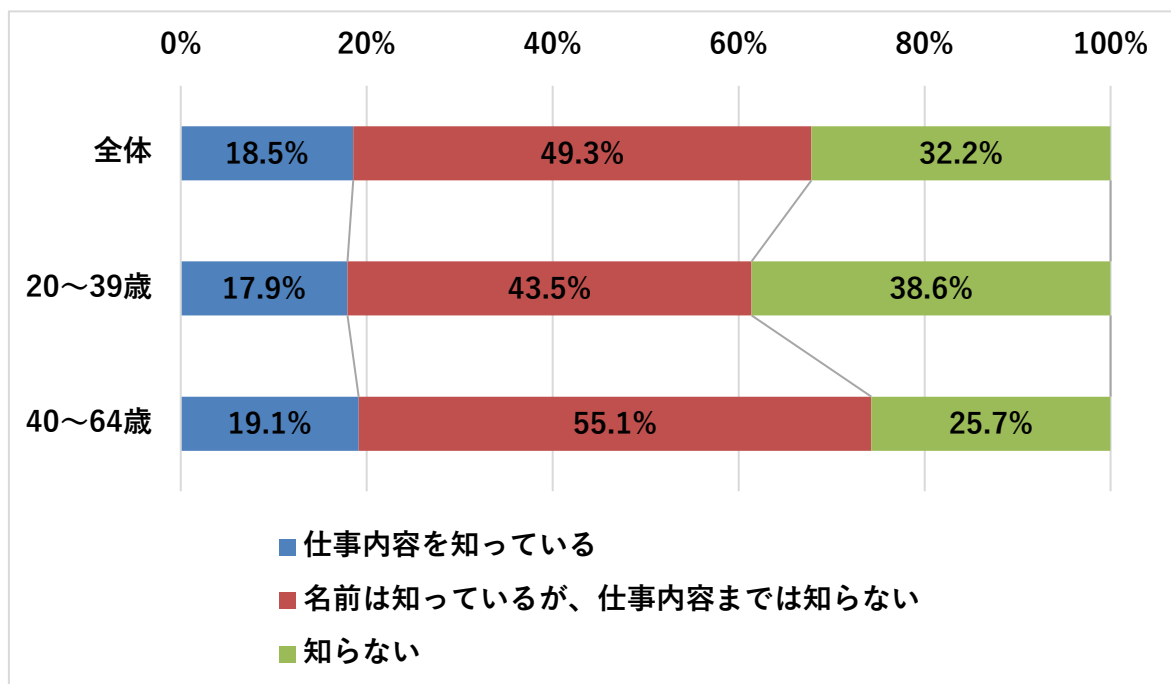
(⑤保健師)

- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職（⑤保健師）の認知度をみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は38.6%と、「40～64歳」の25.7%と比較すると高い。

図表3-39：Q1「年齢」(SA)と
Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(⑤保健師)

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000	556	1479	965
	100.0%	18.5%	49.3%	32.2%
20～39歳	1500	269	652	579
	100.0%	17.9%	43.5%	38.6%
40～64歳	1500	287	827	386
	100.0%	19.1%	55.1%	25.7%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (N=3,000)

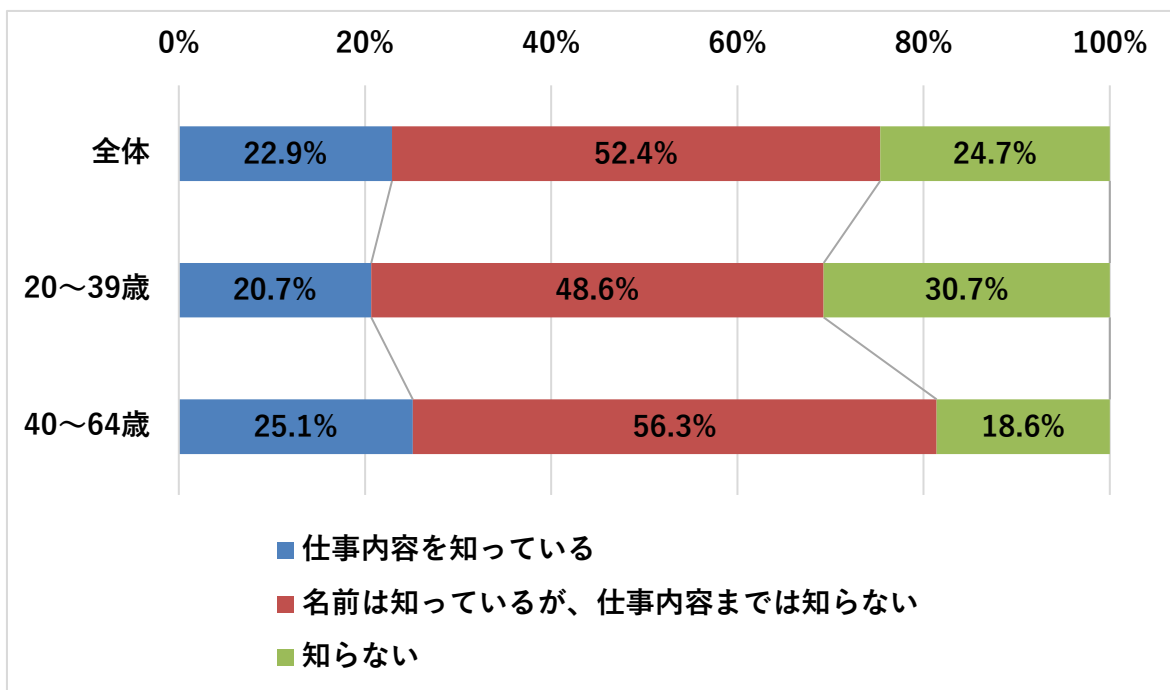
(⑥理学療法士)

- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職（⑥理学療法士）の認知度をみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は30.7%と、「40～64歳」の18.6%と比較すると高い。

図表3-40：Q1「年齢」(SA)と
Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(⑥理学療法士)

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000	687	1573	740
	100.0%	22.9%	52.4%	24.7%
20～39歳	1500	310	729	461
	100.0%	20.7%	48.6%	30.7%
40～64歳	1500	377	844	279
	100.0%	25.1%	56.3%	18.6%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(N=3,000)

(⑦作業療法士)

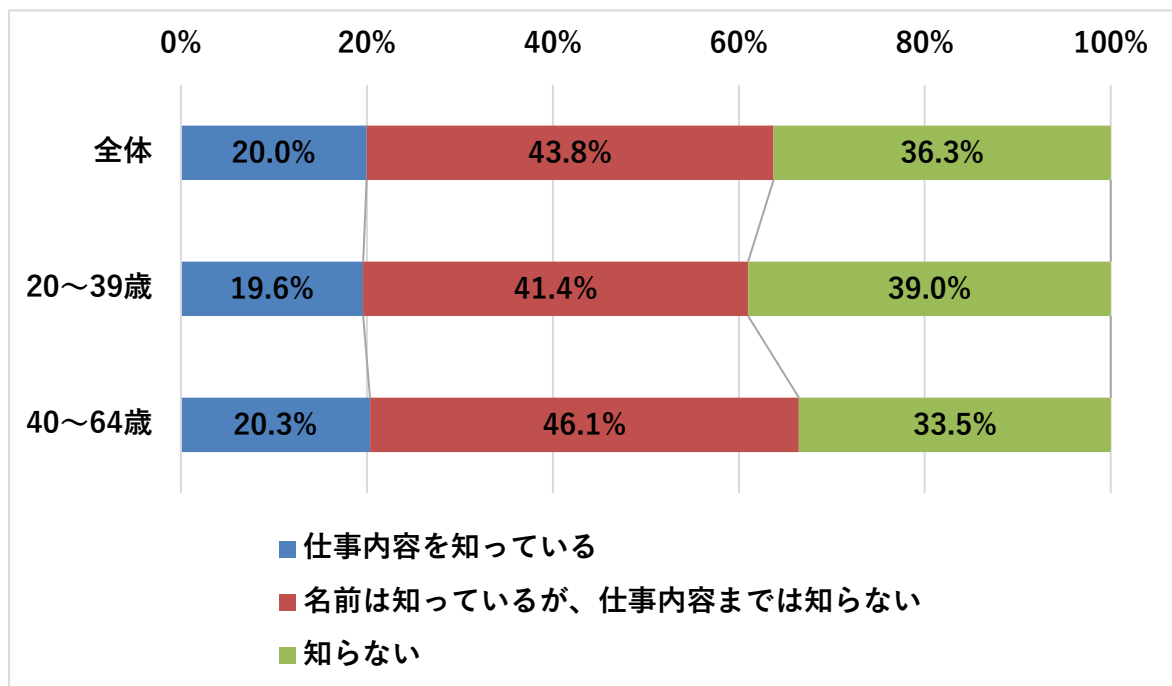
- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職(⑦作業療法士)の認知度をみると、いずれの年齢において「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、「20～39歳」は39.0%と、「40～64歳」の33.5%と比較すると高い。

図表3-41：Q1「年齢」(SA)と

Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(⑦作業療法士)

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000 100.0%	599 20.0%	1313 43.8%	1088 36.3%
20～39歳	1500 100.0%	294 19.6%	621 41.4%	585 39.0%
40～64歳	1500 100.0%	305 20.3%	692 46.1%	503 33.5%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」 (N=3,000)

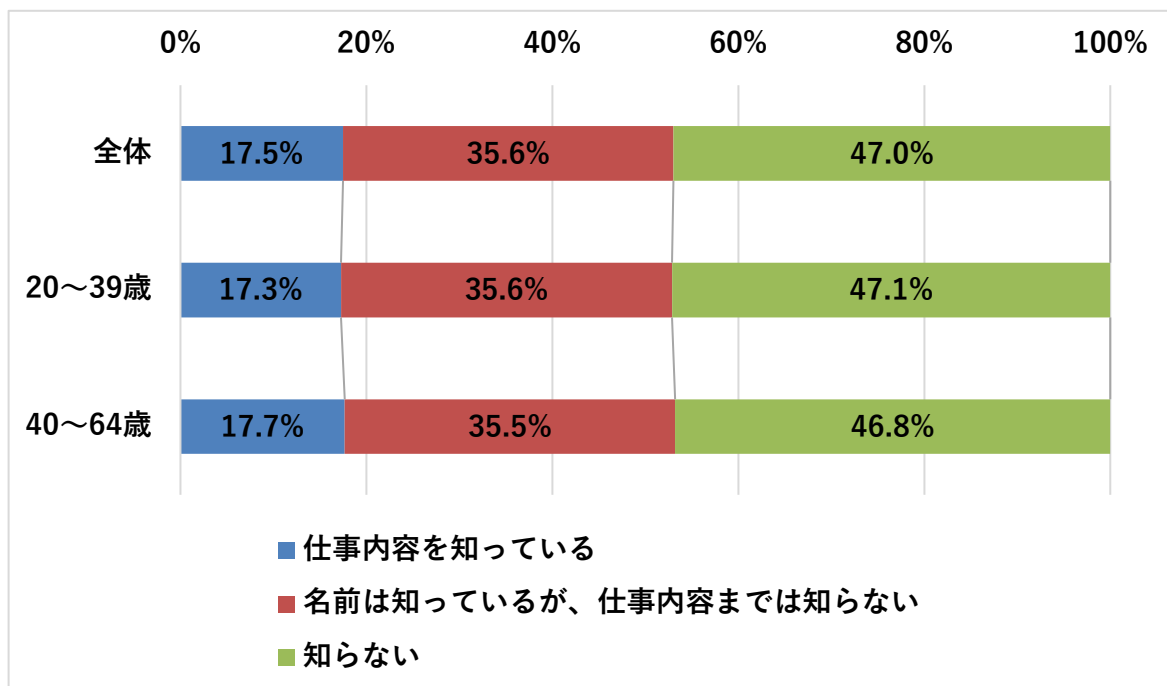
(⑧言語聴覚士)

- ・年齢別に介護保険サービスを担う専門職（⑧言語聴覚士）の認知度をみてみると、いずれの年齢において「知らない」の回答が多い。

図表3-42：Q1「年齢」(SA)と
Q10「介護保険サービスを担う専門職の認知度」(SA)のクロス集計
(⑧言語聴覚士)

	全体	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
全体	3000	524	1067	1409
	100.0%	17.5%	35.6%	47.0%
20～39歳	1500	259	534	707
	100.0%	17.3%	35.6%	47.1%
40～64歳	1500	265	533	702
	100.0%	17.7%	35.5%	46.8%

カイ2乗検定： $p > .05$

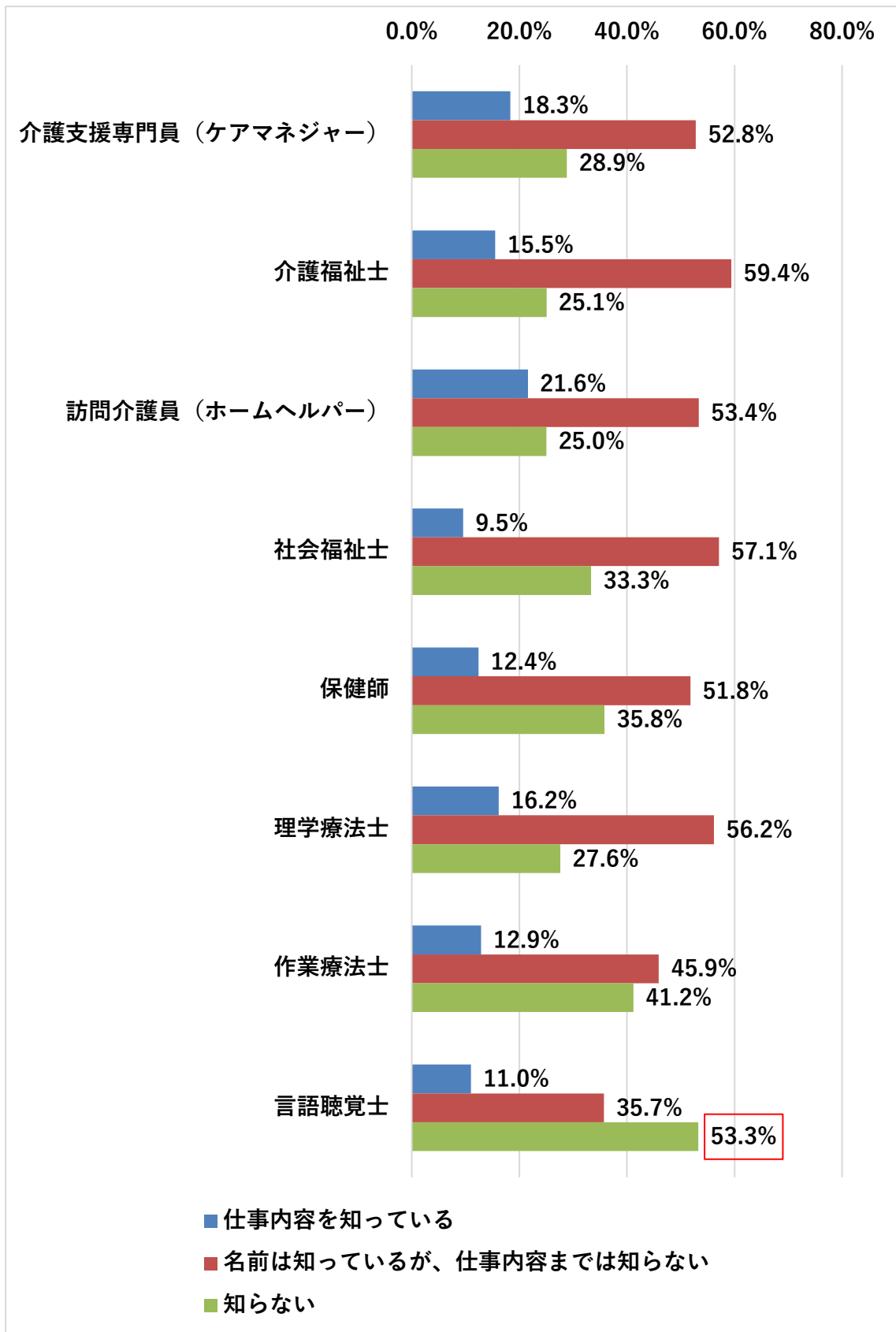


【介護保険サービスを担う専門職の認知度（Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無（働いたことはない）」）】（N=2,454）

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験がない方における、介護保険サービスを担う「専門職」の認知度は、
「名前は知っているが、仕事内容までは知らない」の回答が最も多いが、「言語聴覚士」においてのみ、「知らない」の回答が最も多い。
- ・「知らない」の回答に着目してみると、
「言語聴覚士」の回答が53.3%で最も多く、次いで、「作業療法士」41.2%、「保健師」35.8%が多い。
- ・一方、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」と「訪問介護員（ホームヘルパー）」では、「仕事内容を知っている」と回答した割合がそれぞれ18.3%と21.6%で、他の専門職と比較して高い割合となっている。
- ・なお、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」は、居宅介護支援事業所としての認知度は低かったものの、専門職としての認知度は全体で2番目に高く、約5人に1人が「仕事内容を知っている」と回答している。

図表3-43：【介護保険サービスを担う専門職の認知度（Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無（働いたことはない）」）】の分布

No.	専門職名	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない	合計
①	介護支援専門員 (ケアマネジャー)	450	<u>1296</u>	708	2454
		18.3%	<u>52.8%</u>	28.9%	100.0%
②	介護福祉士	381	<u>1458</u>	615	2454
		15.5%	<u>59.4%</u>	25.1%	100.0%
③	訪問介護員（ホームヘルパー）	530	<u>1310</u>	614	2454
		21.6%	<u>53.4%</u>	25.0%	100.0%
④	社会福祉士	234	<u>1402</u>	818	2454
		9.5%	<u>57.1%</u>	33.3%	100.0%
⑤	保健師	304	<u>1271</u>	879	2454
		12.4%	<u>51.8%</u>	35.8%	100.0%
⑥	理学療法士	397	<u>1379</u>	678	2454
		16.2%	<u>56.2%</u>	27.6%	100.0%
⑦	作業療法士	316	<u>1127</u>	1011	2454
		12.9%	<u>45.9%</u>	41.2%	100.0%
⑧	言語聴覚士	270	877	<u>1307</u>	2454
		11.0%	35.7%	<u>53.3%</u>	100.0%

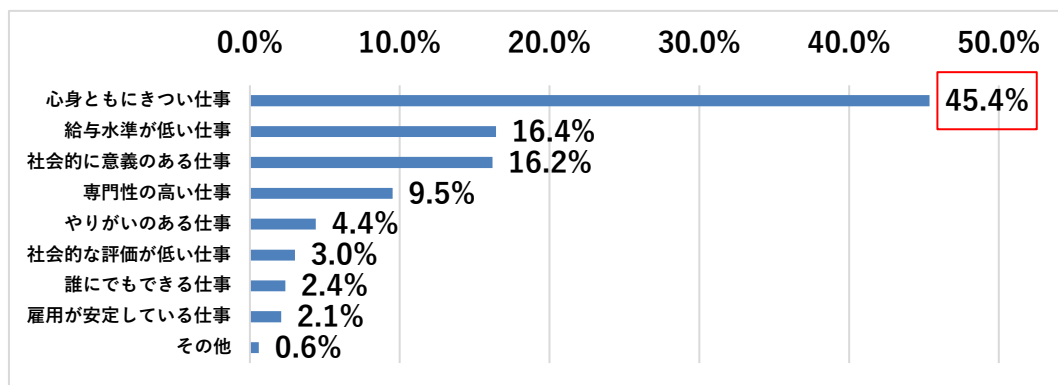


Q11.ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージとして、最も近いものをひとつお答えください。[SA] (N=3,000)

- ・「介護職の仕事」のイメージは、「心身ともにきつい仕事」の回答が最も多く、45.4%であった。次いで、「給与水準が低い仕事」16.4%、「社会的に意義のある仕事」16.2%、「専門性の高い仕事」9.5%が多い。
- ・また、「心身ともにきつい仕事」「給与水準が低い仕事」などの負のイメージが約7割みられた一方、「社会的に意義のある仕事」「専門性の高い仕事」などの正のイメージが約3割みられた。

図表3-44：Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」(SA)の分布

	N	%
心身ともにきつい仕事	1361	45.4%
給与水準が低い仕事	493	16.4%
社会的に意義のある仕事	486	16.2%
専門性の高い仕事	286	9.5%
やりがいのある仕事	132	4.4%
社会的な評価が低い仕事	90	3.0%
誰にでもできる仕事	71	2.4%
雇用が安定している仕事	63	2.1%
その他	18	0.6%
合計	3000	100.0%



(参考) 令和6年度「介護労働実態調査」(公益財団法人介護労働安定センター)の「(2) 仕事・職場の評価〔労働者調査・問24〕の今の仕事や職場についてあてはまるもの」の回答としては、

- ・「利用者や家族から感謝される」(57.3%)が最も多く、
- ・「利用者の援助・支援や生活改善につながる」(49.8%)、
- ・「福祉に貢献できる」(34.6%)、
- ・「収入が安定している」(27.2%)」となっている。

一方、「(3) 労働条件・仕事の負担についての悩み・不安・不満等〔労働者調査・問20①〕」では、

- ・「人手が足りない」(49.1%)が最も多く、
- ・「仕事内容のわりに賃金が低い」(35.3%)、
- ・「身体的負担が大きい」(24.6%)」となっている。

【クロス集計】

Q1「年齢」×Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」（N=3,000）

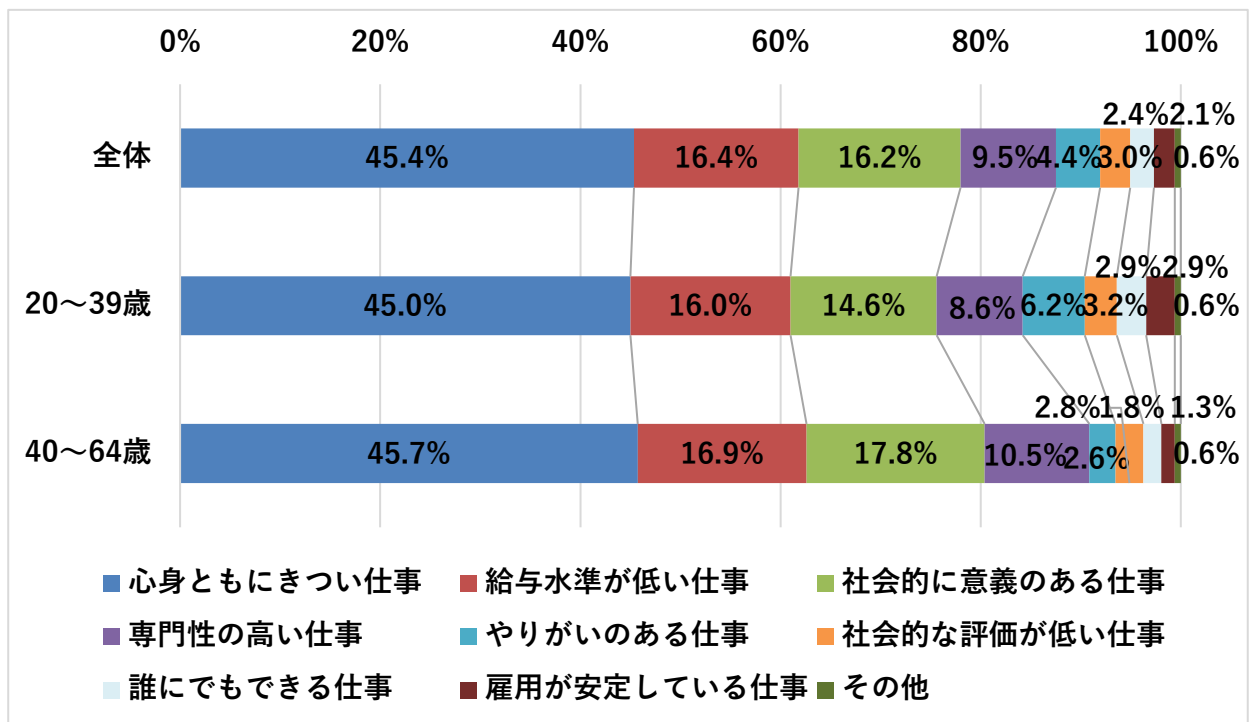
- ・年齢別に介護職の仕事のイメージをみると、順位の違いはあるものの、いずれの年齢において上位4つが共通しており、「心身ともにきつい仕事」「給与水準が低い仕事」「社会的に意義のある仕事」「専門性の高い仕事」であった。
- ・また、「社会的に意義のある仕事」と回答した割合は「40～64歳」が「20～39歳」に比べて3.2ポイント高く、「やりがいのある仕事」と回答した割合は「20～39歳」が「40～64歳」に比べて3.6ポイント高く、それぞれの項目で年齢層による差が特に大きかった。

図表3-45：Q1「年齢」（SA）と

Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」（SA）のクロス

	全体	心身ともにきつい仕事	給与水準が低い仕事	社会的に意義のある仕事	専門性の高い仕事	やりがいのある仕事	社会的な評価が低い仕事	誰にでもできる仕事	雇用が安定している仕事	その他
全体	3000	1361	493	486	286	132	90	71	63	18
	100.0%	45.4%	16.4%	16.2%	9.5%	4.4%	3.0%	2.4%	2.1%	0.6%
20～39歳	1500	675	240	219	129	93	48	44	43	9
	100.0%	45.0%	16.0%	14.6%	8.6%	6.2%	3.2%	2.9%	2.9%	0.6%
40～64歳	1500	686	253	267	157	39	42	27	20	9
	100.0%	45.7%	16.9%	17.8%	10.5%	2.6%	2.8%	1.8%	1.3%	0.6%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

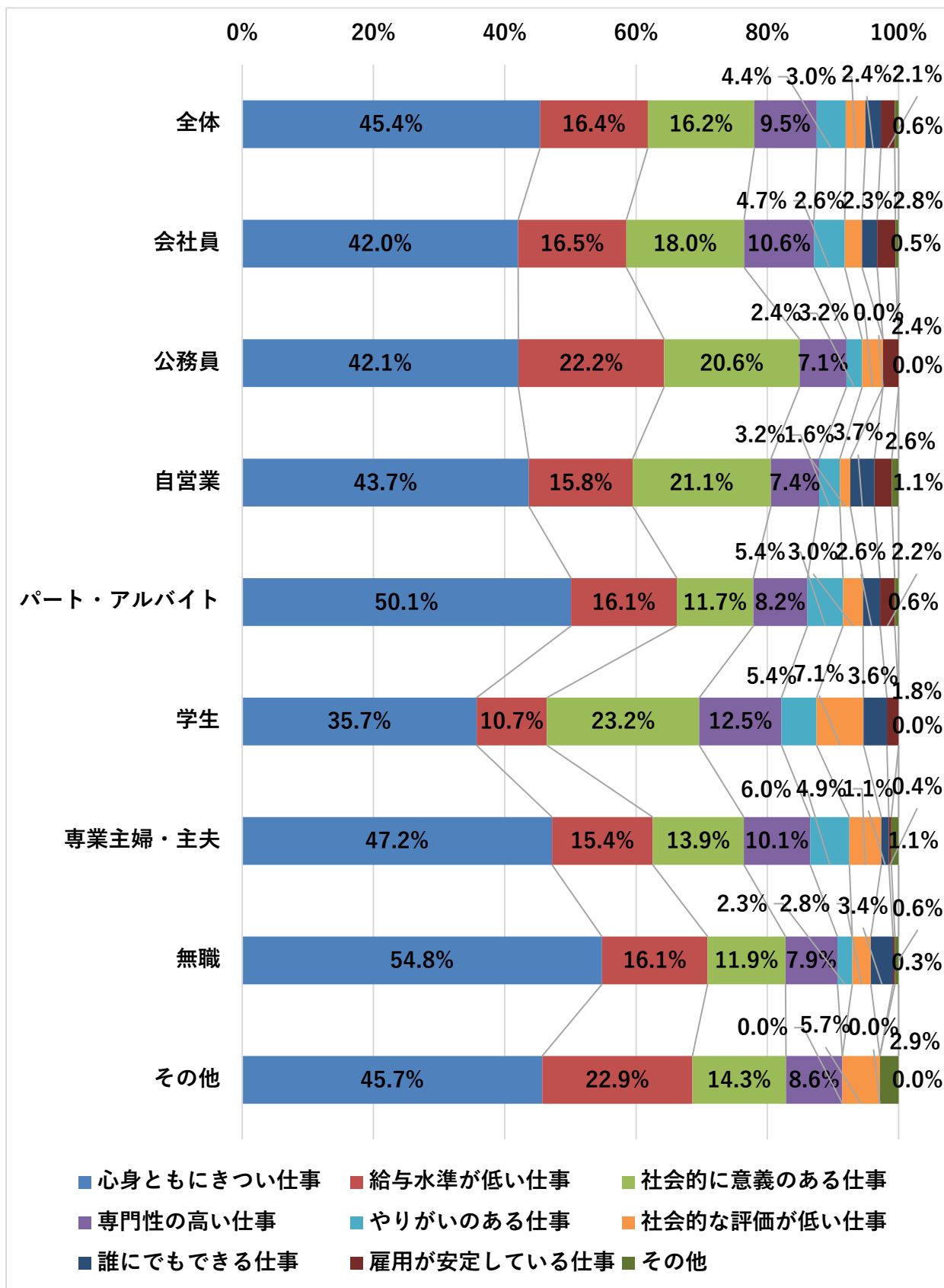
Q2「職業」×Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」（N=3,000）

- ・職業別に介護職の仕事のイメージをみると、すべての職業において「心身ともにきつい仕事」の回答が最も多い。
- ・なお、各職業の上位3つをみると、「学生」では、「心身ともにきつい仕事」が最も多く、次いで「社会的に意義のある仕事」23.2%、「専門性の高い仕事」12.5%の順に多い。
- ・一方、それ以外では、順位の違いはあるものの上位3つは共通しており、「心身ともにきつい仕事」「給与水準が低い」「社会的に意義のある仕事」であった。
- ・また、「給与水準が低い仕事」の回答に着目してみると、「公務員」が22.2%で最も多く、次いで「会社員」16.5%、「パート・アルバイト」16.1%であった（※「その他」は除く）。

図表3-46：Q2「職業」（SA）と

Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」（SA）のクロス

	全体	心身ともにきつい仕事	給与水準が低い仕事	社会的に意義のある仕事	専門性の高い仕事	やりがいのある仕事	社会的な評価が低い仕事	誰にでもできる仕事	雇用が安定している仕事	その他
全体	3000	1361	493	486	286	132	90	71	63	18
	100.0%	45.4%	16.4%	16.2%	9.5%	4.4%	3.0%	2.4%	2.1%	0.6%
会社員	1475	620	243	265	157	69	39	34	41	7
	100.0%	42.0%	16.5%	18.0%	10.6%	4.7%	2.6%	2.3%	2.8%	0.5%
公務員	126	53	28	26	9	3	4	0	3	0
	100.0%	42.1%	22.2%	20.6%	7.1%	2.4%	3.2%	0.0%	2.4%	0.0%
自営業	190	83	30	40	14	6	3	7	5	2
	100.0%	43.7%	15.8%	21.1%	7.4%	3.2%	1.6%	3.7%	2.6%	1.1%
パート・アルバイト	497	249	80	58	41	27	15	13	11	3
	100.0%	50.1%	16.1%	11.7%	8.2%	5.4%	3.0%	2.6%	2.2%	0.6%
学生	56	20	6	13	7	3	4	2	1	0
	100.0%	35.7%	10.7%	23.2%	12.5%	5.4%	7.1%	3.6%	1.8%	0.0%
専業主婦・主夫	267	126	41	37	27	16	13	3	1	3
	100.0%	47.2%	15.4%	13.9%	10.1%	6.0%	4.9%	1.1%	0.4%	1.1%
無職	354	194	57	42	28	8	10	12	1	2
	100.0%	54.8%	16.1%	11.9%	7.9%	2.3%	2.8%	3.4%	0.3%	0.6%
その他	35	16	8	5	3	0	2	0	0	1
	100.0%	45.7%	22.9%	14.3%	8.6%	0.0%	5.7%	0.0%	0.0%	2.9%



【クロス集計】

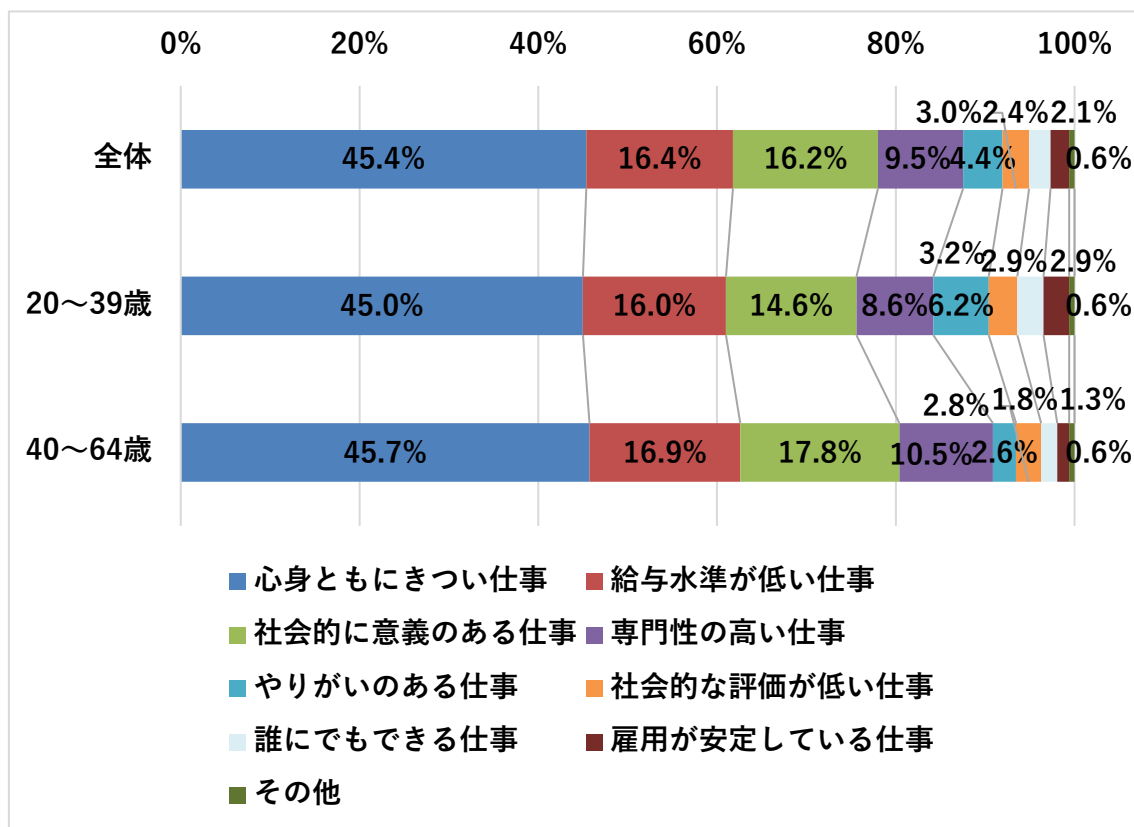
Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」×Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」(N=3,000)

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別に介護職の仕事のイメージをみると、すべての経験層において「心身ともにきつい仕事」の回答が多い。
- ・なお、「心身ともにきつい仕事」と回答した割合に着目してみると、「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」が28.6%、「過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）」が36.1%、「働いたことはない」が48.3%となっており、福祉・介護・医療分野で働いた経験がない方ほど「心身ともにきつい仕事」という回答の割合が高い。
- ・また、「やりがいのある仕事」と回答した割合に着目してみると、「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」の割合は10.2%で、他の経験層と比較すると最も高い。

図表3-47：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」(SA)と

Q11「ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージ」(SA)のクロス集計

	全体	心身ともにきつい仕事	給与水準が低い仕事	社会的に意義のある仕事	専門性の高い仕事	やりがいのある仕事	社会的な評価が低い仕事	誰にでもできる仕事	雇用が安定している仕事	その他
全体	3000	1361	493	486	286	132	90	71	63	18
	100.0%	45.4%	16.4%	16.2%	9.5%	4.4%	3.0%	2.4%	2.1%	0.6%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	81	65	46	34	29	11	5	12	0
	100.0%	28.6%	23.0%	16.3%	12.0%	10.2%	3.9%	1.8%	4.2%	0.0%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	263	95	40	40	33	20	11	7	15	2
	100.0%	36.1%	15.2%	15.2%	12.5%	7.6%	4.2%	2.7%	5.7%	0.8%
働いたことはない	2454	1185	388	400	219	83	68	59	36	16
	100.0%	48.3%	15.8%	16.3%	8.9%	3.4%	2.8%	2.4%	1.5%	0.7%



Q12.あなたは、今後も「介護保険制度」は必要だと思いますか。[SA] (N=3,000)

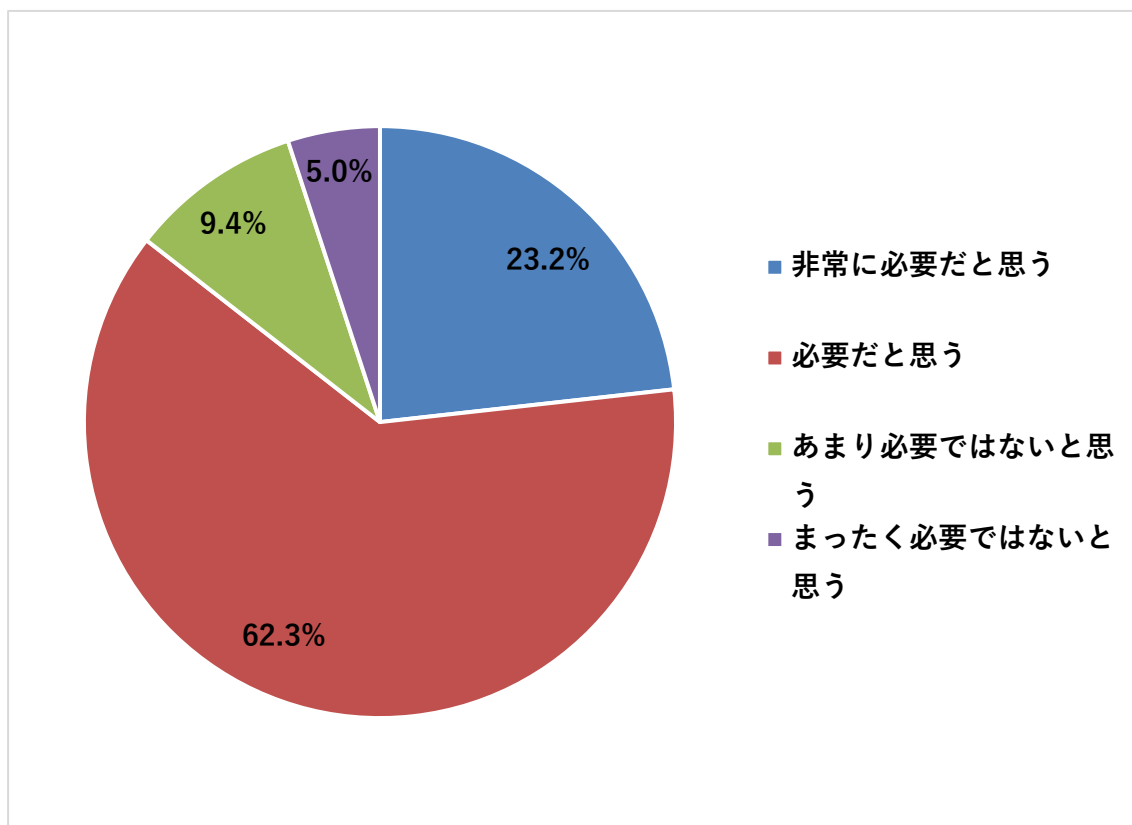
※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。

※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。

- ・介護保険制度の必要性については、「必要だと思う」の回答が最も多く、62.3%であった。次いで、「非常に必要だと思う」23.2%が多い。
- ・「必要だと思う」「必要ではないと思う」の2類型でみると、「必要だと思う」と回答した方は85.5%であった。

図表3-48：Q12「介護保険制度の必要性」(SA)の分布

	N	%
非常に必要だと思う	697	23.2%
必要だと思う	1869	62.3%
あまり必要ではないと思う	283	9.4%
まったく必要ではないと思う	151	5.0%
合計	3000	100.0%



【クロス集計】

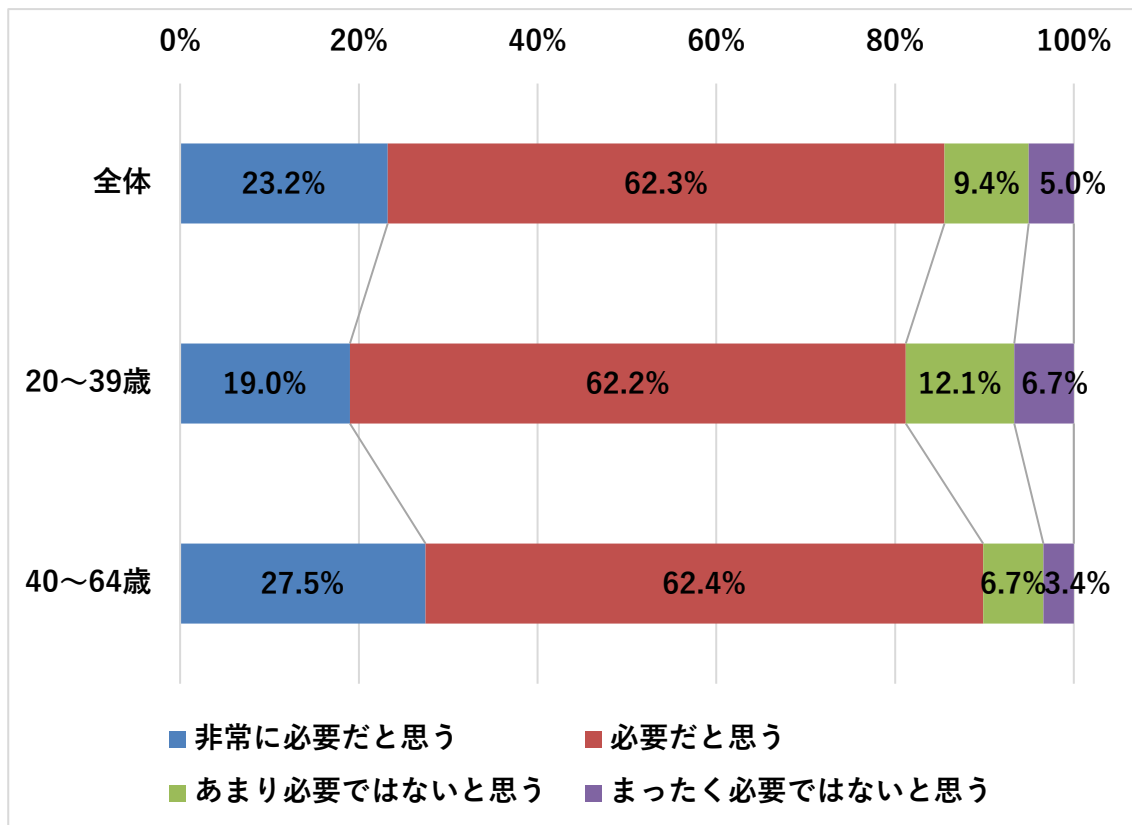
Q1「年齢」×Q12「介護保険制度の必要性」 (N=3,000)

- ・年齢別に介護保険制度の必要性をみると、
いずれの年齢において「必要だと思う」の回答が多い。
- ・「必要ではない」の回答の計に着目してみると、「20～39歳」は18.8%と、「40～64歳」の10.1%と比較すると高い。

図表3-49：Q1「年齢」(SA)とQ12「介護保険制度の必要性」(SA)のクロス集計

	全体	非常に必要だと思う	必要だと思う	あまり必要ではないと思う	まったく必要ではないと思う
全体	3000	697	1869	283	151
	100.0%	23.2%	62.3%	9.4%	5.0%
20～39歳	1500	285	933	182	100
	100.0%	19.0%	62.2%	12.1%	6.7%
40～64歳	1500	412	936	101	51
	100.0%	27.5%	62.4%	6.7%	3.4%

カイ2乗検定： $p < .05$



【クロス集計】

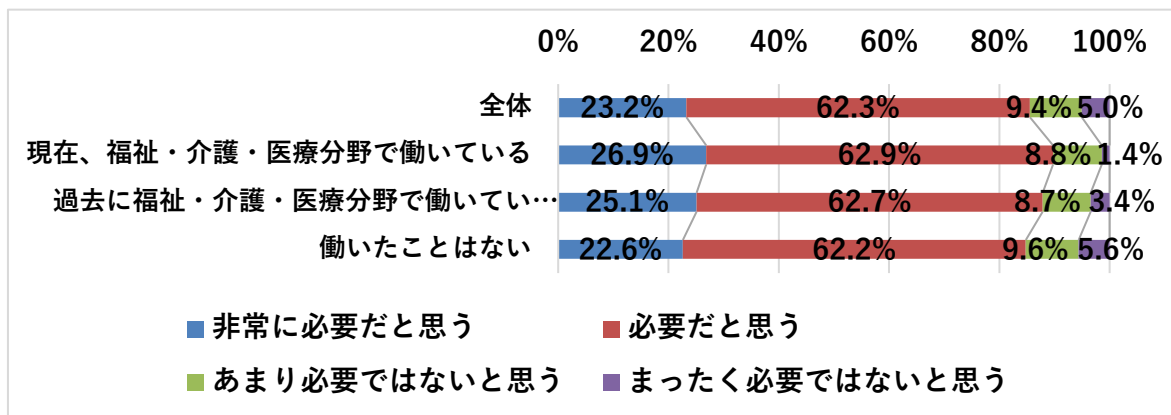
Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」×Q12「介護保険制度の必要性」(N=3,000)

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別に介護保険制度の必要性をみると、すべての経験層において「必要だと思う」の回答が多い。
- ・なお、「必要ではない」と回答した計の割合に着目してみると、「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」が10.2%、「過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）」が12.1%、「働いたことはない」が15.2%となっており、福祉・介護・医療分野で働いた経験がない方では制度の必要性を感じていない割合が高い。

図表3-50：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」(SA)とQ12「介護保険制度の必要性」(SA)のクロス集計

	全体	非常に必要だと思う	必要だと思う	あまり必要ではないと思う	まったく必要ではないと思う
全体	3000	697	1869	283	151
	100.0%	23.2%	62.3%	9.4%	5.0%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	76	178	25	4
	100.0%	26.9%	62.9%	8.8%	1.4%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない）	263	66	165	23	9
	100.0%	25.1%	62.7%	8.7%	3.4%
働いたことはない	2454	555	1526	235	138
	100.0%	22.6%	62.2%	9.6%	5.6%

カイ2乗検定： $p < .05$

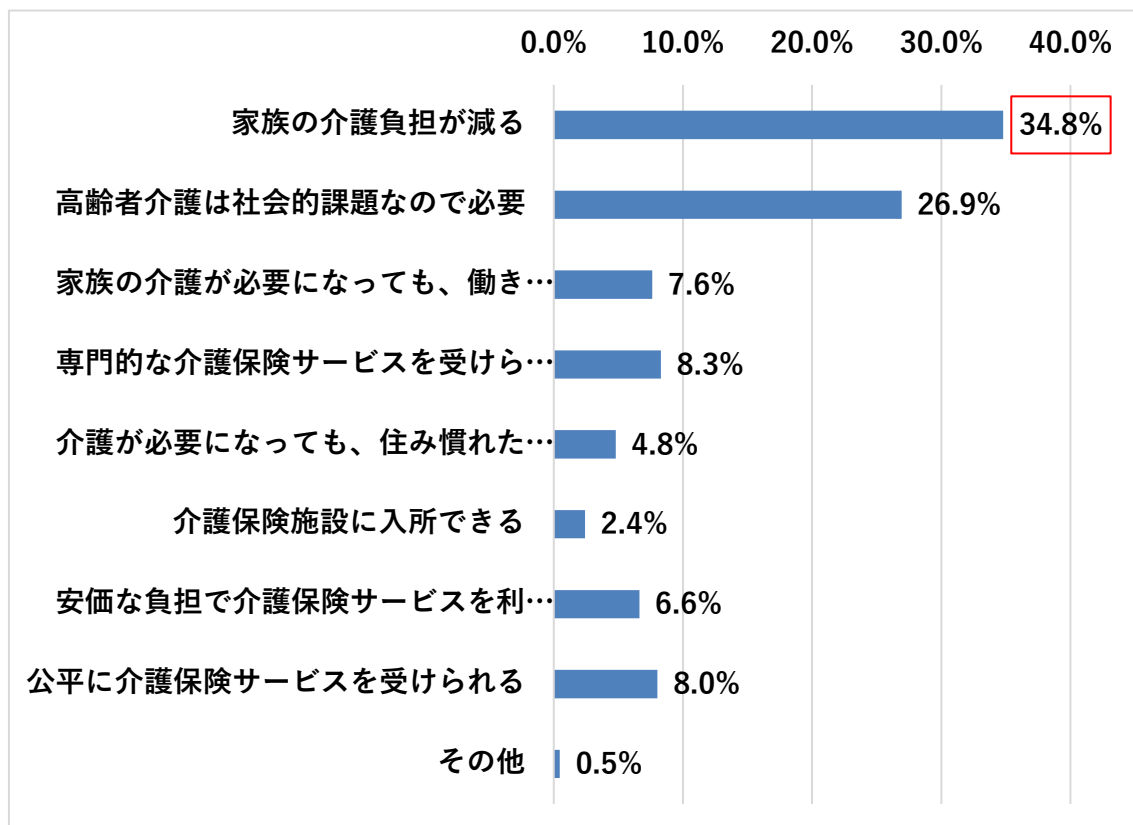


Q13.Q12で、「必要だと思う」と回答した方に伺います。その「理由」として最も近いものをひとつお答えください。[SA] (N=2,566)

- ・必要だと思うと回答した理由は、「家族の介護負担が減る」の回答が最も多く、34.8%であった。次いで、「高齢者介護は社会的課題なので必要」26.9%が多い。

図表3-51：Q13「介護保険制度が「必要だと思う」と回答した理由」(SA)の分布

	N	%
家族の介護負担が減る	893	34.8%
高齢者介護は社会的課題なので必要	691	26.9%
家族の介護が必要になっても、働き続けることができる	196	7.6%
専門的な介護保険サービスを受けられる	213	8.3%
介護が必要になっても、住み慣れた自宅・地域で暮らせる	123	4.8%
介護保険施設に入所できる	62	2.4%
安価な負担で介護保険サービスを利用できる	170	6.6%
公平に介護保険サービスを受けられる	206	8.0%
その他	12	0.5%
合計	2566	100.0%

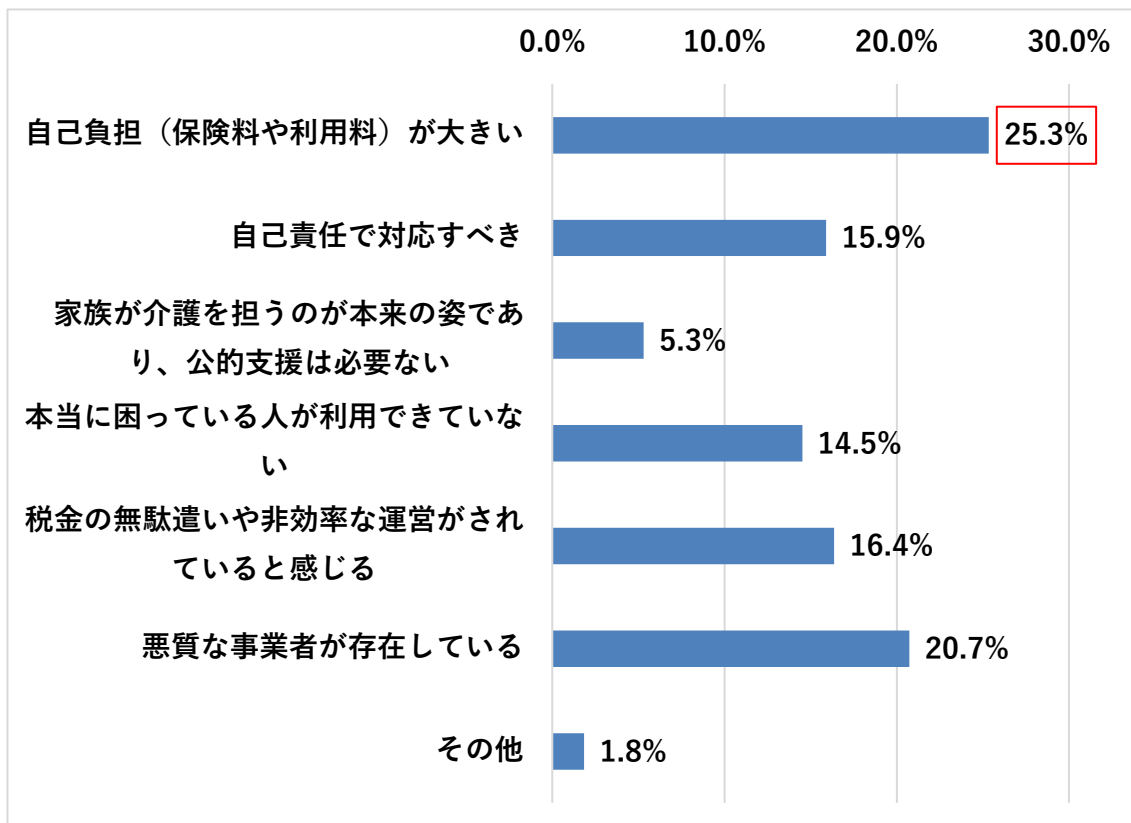


Q14.Q12で、「必要ではないと思う」と回答した方に伺います。その「理由」として最も近いものをひとつお答えください。[SA] (N=434)

- ・必要ではないと思うと回答した理由は、「自己負担（保険料や利用料）が大きい」の回答が最も多く、25.3%であった。次いで、「悪質な事業者が存在している」20.7%、「税金の無駄遣いや非効率な運営がされていると感じる」16.4%、「自己責任で対応すべき」15.9%、「本当に困っている人が利用できていない」14.5%が多い。

図表3-52：Q14「介護保険制度が「必要ではないと思う」と回答した理由」（SA）の分布

	N	%
自己負担（保険料や利用料）が大きい	110	25.3%
自己責任で対応すべき	69	15.9%
家族が介護を担うのが本来の姿であり、公的支援は必要ない	23	5.3%
本当に困っている人が利用できていない	63	14.5%
税金の無駄遣いや非効率な運営がされていると感じる	71	16.4%
悪質な事業者が存在している	90	20.7%
その他	8	1.8%
合計	434	100.0%



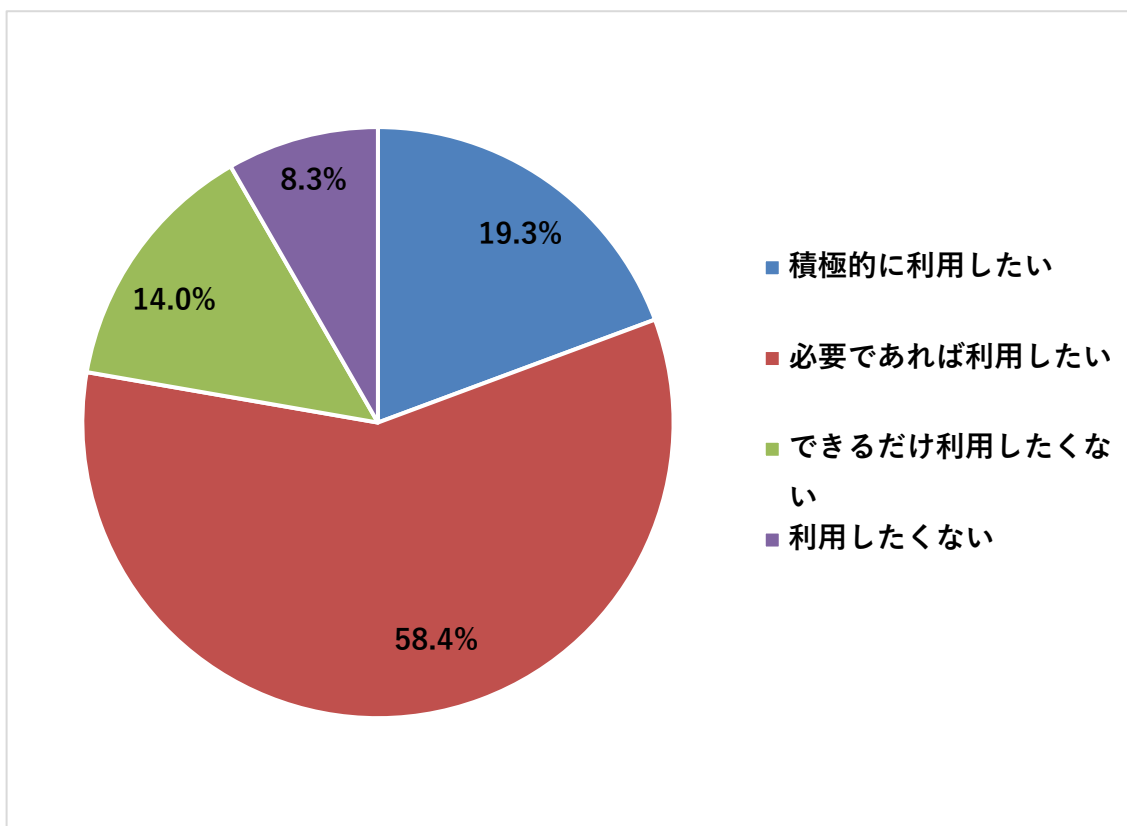
Q15.将来、ご自身に介護が必要となった場合、介護保険サービスを「利用」したいと思いますか。[SA] (N=3,000)

- ・将来の介護保険サービスの利用意向は、「必要であれば利用したい」の回答が最も多く、58.4%であった。次いで、「積極的に利用したい」19.3%、「できるだけ利用したくない」14.0%が多い。
- ・「利用したい」「利用したくない」の2類型でみると、「利用したい」と回答した割合が77.7%で、約8割を占める。

図表3-53：Q15「将来の介護保険サービスの利用意向」(SA)の分布

	回答数	%
積極的に利用したい	580	19.3%
必要であれば利用したい	1752	58.4%
できるだけ利用したくない	419	14.0%
利用したくない	249	8.3%
合計	3000	100.0%

77.7%



【クロス集計】

Q1「年齢」×Q15「将来の介護保険サービスの利用意向」 (N=3,000)

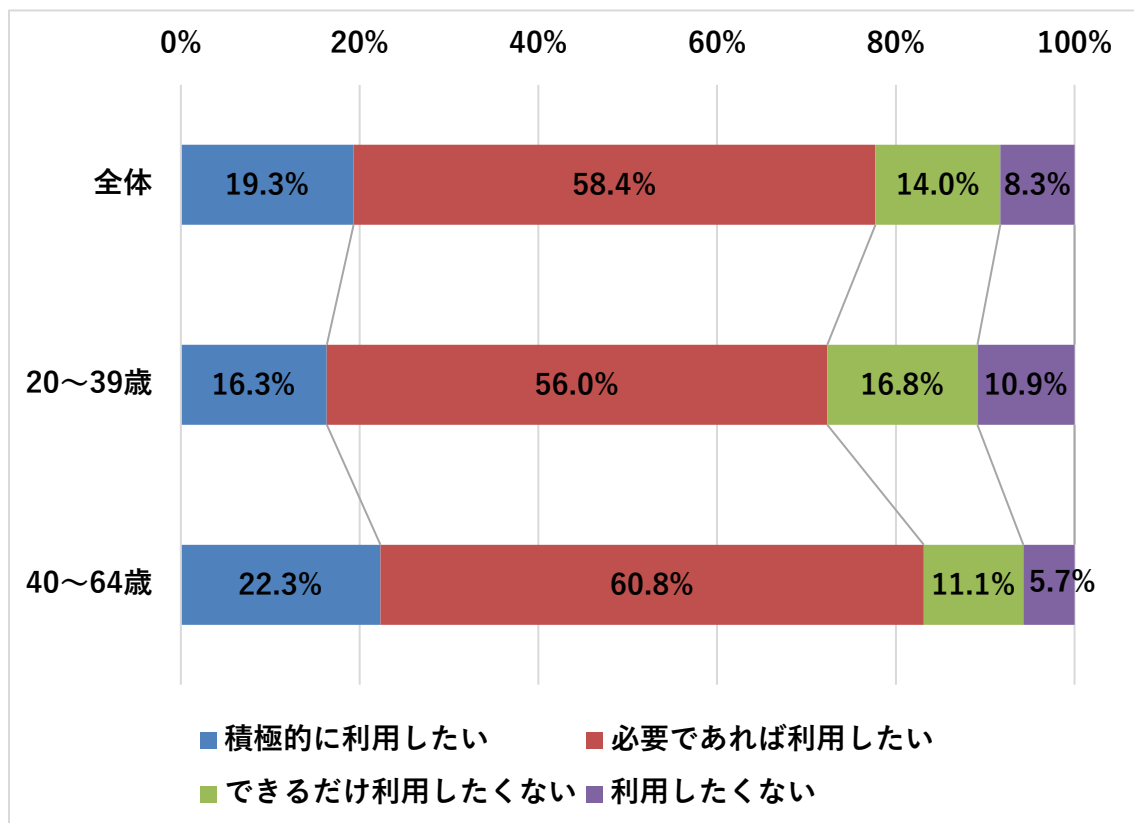
- ・年齢別に将来の介護保険サービスの利用意向をみると、
いずれの年齢において「必要であれば利用したい」の回答が多い。
- ・「利用したくない」の回答の計に着目してみると、「20～39歳」は27.7%と、「40～64歳」の16.8%と比較すると高い。

図表3-54：Q1「年齢」(SA)と

Q15「将来の介護保険サービスの利用意向」(SA)のクロス集計

	全体	積極的に利用したい	必要であれば利用したい	できるだけ利用したくない	利用したくない
全体	3000	580	1752	419	249
	100.0%	19.3%	58.4%	14.0%	8.3%
20～39歳	1500	245	840	252	163
	100.0%	16.3%	56.0%	16.8%	10.9%
40～64歳	1500	335	912	167	86
	100.0%	22.3%	60.8%	11.1%	5.7%

カイ2乗検定： $p < .05$



Q16. 「介護保険制度」に対して、あなたが最も「期待」していることをひとつお答えください。

[SA] (N=3,000)

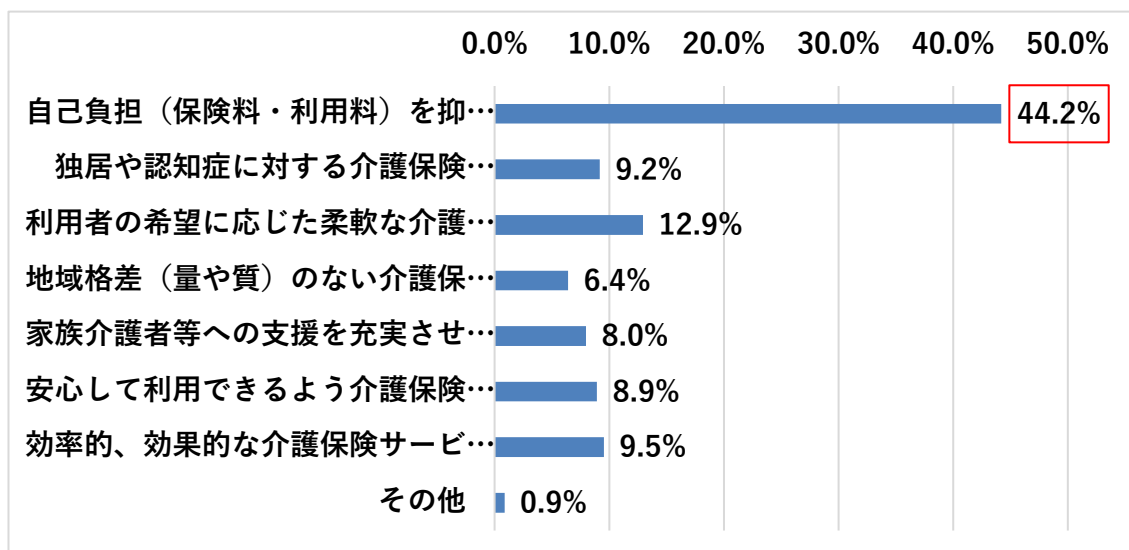
※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。

※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。

- ・介護保険制度に対して期待していることは、「自己負担（保険料・利用料）を抑えてほしい」の回答が最も多く、44.2%であった。次いで、「利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい」12.9%が多い。

図表3-55：Q16「介護保険制度に対する期待」（SA）の分布

	N	%
自己負担（保険料・利用料）を抑えてほしい	1326	44.2%
独居や認知症に対する介護保険サービスをより充実してほしい	275	9.2%
利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい	388	12.9%
地域格差（量や質）のない介護保険サービスを実現してほしい	192	6.4%
家族介護者等への支援を充実させてほしい	239	8.0%
安心して利用できるよう介護保険サービスの質をさらに向上してほしい	268	8.9%
効率的、効果的な介護保険サービスに絞ってほしい	286	9.5%
その他	26	0.9%
合計	3000	100.0%



【クロス集計】

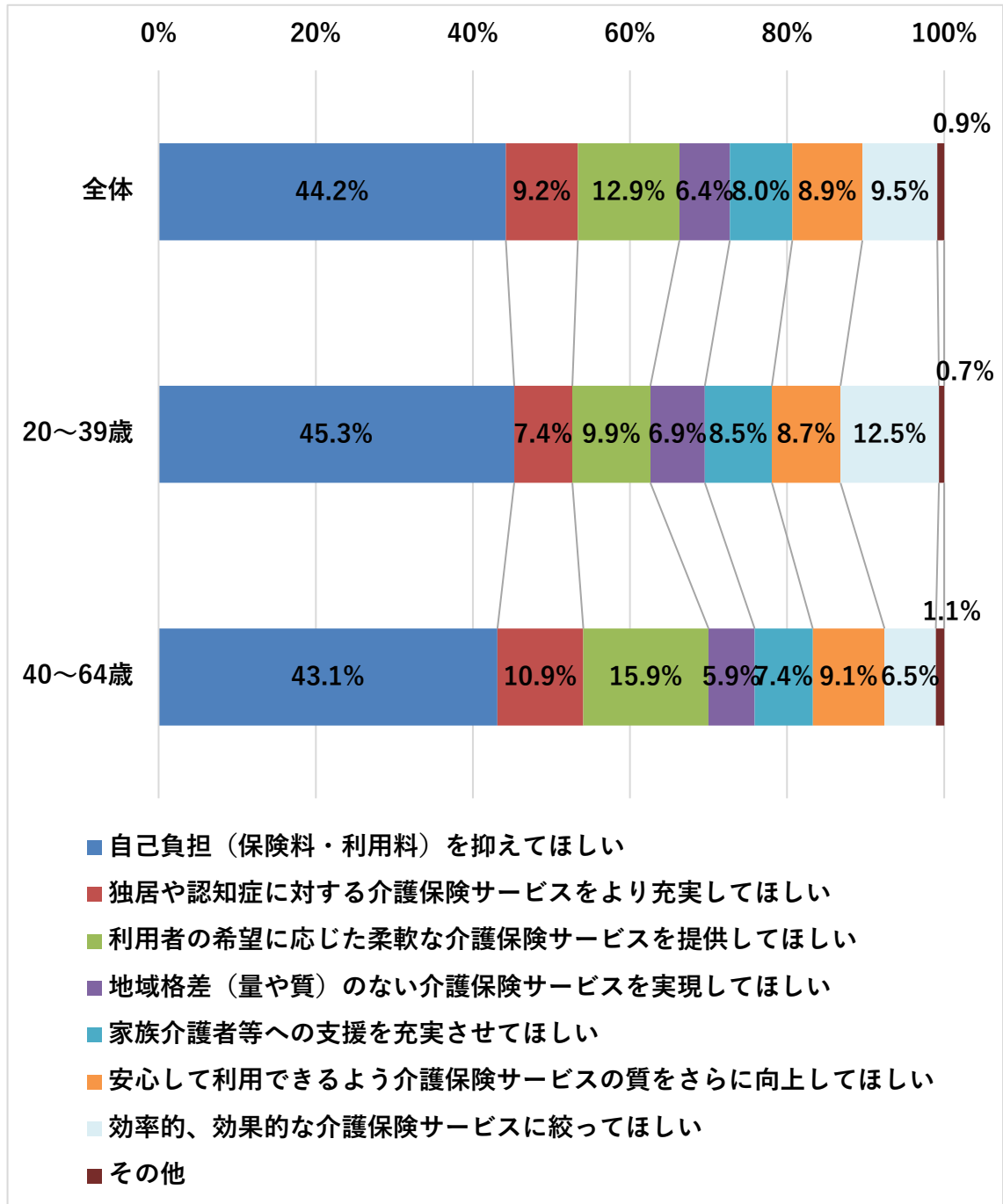
Q1「年齢」×Q16「介護保険制度に対する期待」(N=3,000)

- ・年齢別に介護保険制度に対する期待をみると、
いずれの年齢において「自己負担（保険料・利用料）を抑えてほしい」が最も多い。
上位2つ目については、
「20～39歳」で「効率的・効果的な介護保険サービスに絞ってほしい」が、「40～64歳」は
「利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい」であった。
上位3つ目については、
「20～39歳」で「利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい」が、
「40～64歳」は「独居や認知症に対する介護保険サービスをより充実してほしい」であり、
年齢層による順位の違いがみられた。
- ・また、「20～39歳」で上位2つ目に挙げられた「効率的・効果的な介護保険サービスに絞ってほ
しい」は、「40～64歳」での回答は低く6.5%であった。
- ・一方、「40～64歳」で上位3つ目に挙げられた「独居や認知症に対する介護保険サービスをより
充実してほしい」は、「20～39歳」での回答は低く7.4%であり、年齢層による違いがみられ
た。

図表3-56：Q1「年齢」(SA)とQ16「介護保険制度に対する期待」(SA)のクロス集計

	全体	自己負 担（保 険料・ 利用 料）を 抑えて ほしい	独居や 認知症 に対す る介護 保険 サービ スをよ り充実 してほ しい	利用者 の希望 に応じ た柔軟 な介護 保険 サービ スを提 供して ほしい	地域格 差（量 や質） のない 介護保 険サー ビスを 実現し てほし い	家族介 護者等 への支 援を充 実させ てほし い	安心し て利用 できる よう介 護保険 サービ スの質 をさら に向上 してほ しい	効率 的、効 果的な 介護保 険サー ビスに 絞って ほしい	その他
全体	3000	1326	275	388	192	239	268	286	26
	100.0%	44.2%	9.2%	12.9%	6.4%	8.0%	8.9%	9.5%	0.9%
20～39歳	1500	679	111	149	104	128	131	188	10
	100.0%	45.3%	7.4%	9.9%	6.9%	8.5%	8.7%	12.5%	0.7%
40～64歳	1500	647	164	239	88	111	137	98	16
	100.0%	43.1%	10.9%	15.9%	5.9%	7.4%	9.1%	6.5%	1.1%

カイ2乗検定： $p < .05$



Q17. 「介護保険制度」に対して、あなたが最も「懸念」していることをひとつお答えください。

[SA] (N=3,000)

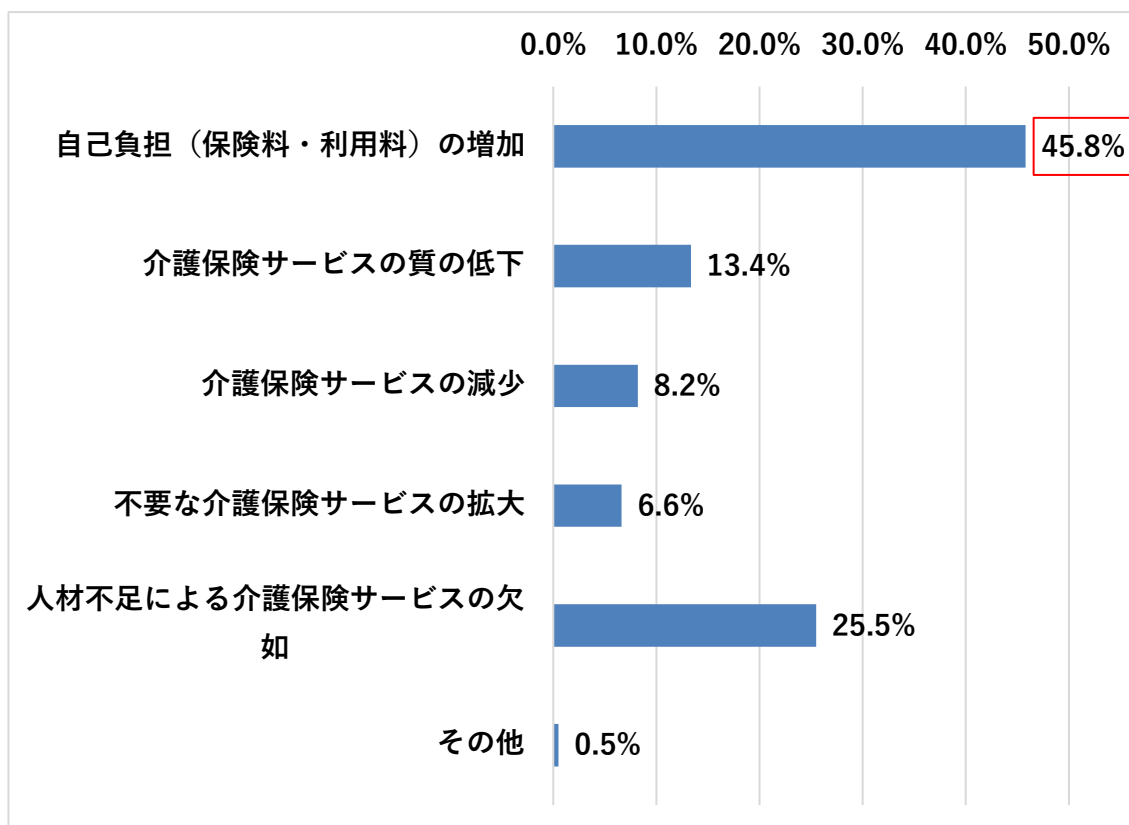
※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。

※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。

- ・介護保険制度に対して懸念していることは、「自己負担（保険料・利用料）の増加」の回答が最も多く、45.8%であった。次いで、「人材不足による介護保険サービスの欠如」25.5%、「介護保険サービスの質の低下」13.4%が多い。

図表3-57：Q17「介護保険制度に対する懸念」（SA）の分布

	N	%
自己負担（保険料・利用料）の増加	1374	45.8%
介護保険サービスの質の低下	401	13.4%
介護保険サービスの減少	246	8.2%
不要な介護保険サービスの拡大	199	6.6%
人材不足による介護保険サービスの欠如	765	25.5%
その他	15	0.5%
合計	3000	100.0%



【クロス集計】

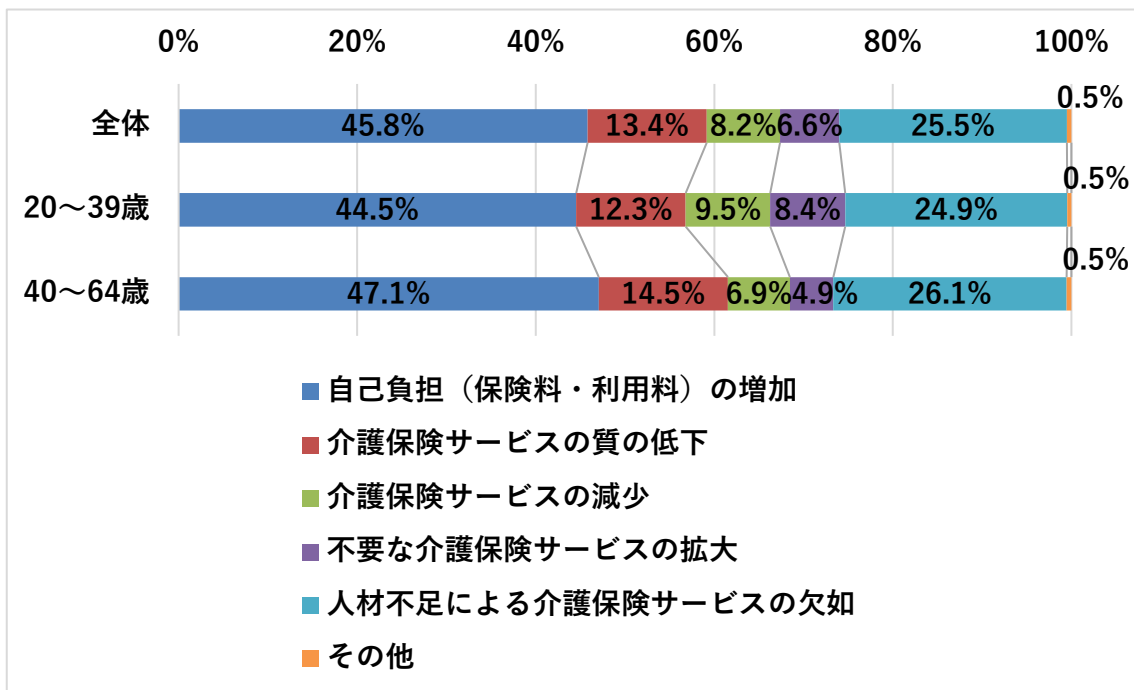
Q1「年齢」×Q17「介護保険制度に対する懸念」(N=3,000)

- ・年齢別に介護保険制度に対する懸念をみると、
いずれの年齢において「自己負担（保険料・利用料）の増加」の回答が最も多い。
- ・なお、上位2つ目以降の順位についても共通しており、「人材不足による介護保険サービスの欠如」「介護保険サービスの質の低下」「介護保険サービスの減少」「不要な介護保険サービスの拡大」の順に多かった。

図表3-58：Q1「年齢」(SA)とQ17「介護保険制度に対する懸念」(SA)のクロス集計

	全体	自己負担（保険料・利用料）の増加	介護保険サービスの質の低下	介護保険サービスの減少	不要な介護保険サービスの拡大	人材不足による介護保険サービスの欠如	その他
全体	3000	1374	401	246	199	765	15
	100.0%	45.8%	13.4%	8.2%	6.6%	25.5%	0.5%
20～39歳	1500	668	184	142	126	373	7
	100.0%	44.5%	12.3%	9.5%	8.4%	24.9%	0.5%
40～64歳	1500	706	217	104	73	392	8
	100.0%	47.1%	14.5%	6.9%	4.9%	26.1%	0.5%

カイ2乗検定： $p < .05$



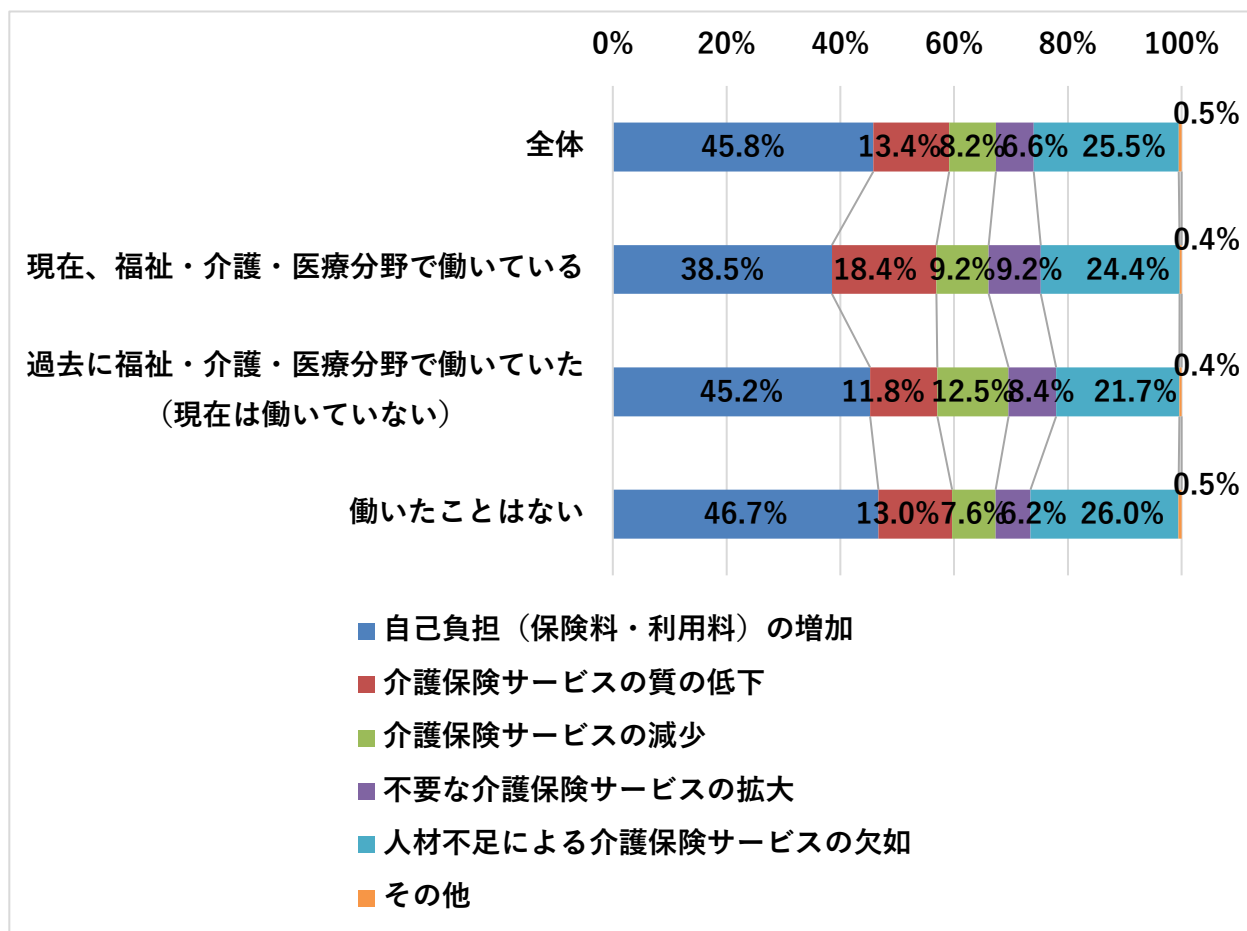
【クロス集計】

Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」×Q17「介護保険制度に対する懸念」
(N=3,000)

- ・福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無別に介護保険制度に対する懸念をみてみると、すべての経験層において「自己負担（保険料・利用料）の増加」の回答が多い。なかでも「働いたことはない」の回答では、その割合が46.7%と最も高く、他の経験層と比較すると自己負担への懸念が強くみられた。
- ・また、「現在、福祉・介護・医療分野で働いている」では「介護保険サービスの質の低下」の割合が18.4%で、他の経験層と比較すると最も高い。
- ・一方、「働いたことはない」では「人材不足による介護保険サービスの欠如」の割合が26.0%で、他の経験層と比較すると最も高かった。

図表3-59：Q3「福祉・介護・医療などの分野で働いた経験の有無」（SA）と
Q17「介護保険制度に対する懸念」（SA）のクロス集計

	全体	自己負担（保険料・利用料）の増加	介護保険サービスの質の低下	介護保険サービスの減少	不要な介護保険サービスの拡大	人材不足による介護保険サービスの欠如	その他
全体	3000	1374	401	246	199	765	15
	100.0%	45.8%	13.4%	8.2%	6.6%	25.5%	0.5%
現在、福祉・介護・医療分野で働いている	283	109	52	26	26	69	1
	100.0%	38.5%	18.4%	9.2%	9.2%	24.4%	0.4%
過去に福祉・介護・医療分野で働いていた (現在は働いていない)	263	119	31	33	22	57	1
	100.0%	45.2%	11.8%	12.5%	8.4%	21.7%	0.4%
働いたことはない	2454	1146	318	187	151	639	13
	100.0%	46.7%	13.0%	7.6%	6.2%	26.0%	0.5%



(4) 調査票

※Q1～Q4は、令和7年10月1日時点のあなた自身に関する情報をご回答ください。

Q	設問内容	回答形式	選択肢等
1	あなたの「年齢」をお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	20～39歳 40～64歳
2	あなたの現在の「職業」をお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	会社員 公務員 自営業 パート・アルバイト 学生 専業主婦・主夫 無職 その他（ ）
3	あなたは、これまでに福祉・介護・医療などの分野で働いた経験がありますか。 ※パート・アルバイトを含む。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	Q4ス 現在、福祉・介護・医療分野で働いている Q4ス 過去に福祉・介護・医療分野で働いていた（現在は働いていない） Q4へ 働いたことはない
4	Q3で「働いたことはない」と回答した方に伺います。 あなたは、これまでに、「介護の経験」はありますか。 ※ここでいう「介護の経験」とは、例えば、親の食事や排泄の世話、障害のある兄弟の通院や日常生活の支援などを指します。 【必須/該当するものをひとつ選択】	S A	ある ない

※Q5～Q17は、指示がない限り、令和7年10月1日時点でお答えください。

Q	設問内容	回答形式	選択肢等
5	<p>あなたは、「介護保険制度」について知っていますか。</p> <p>※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。</p> <p>※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>Q6へ 内容をよく知っている</p> <p>Q6へ ある程度知っている</p> <p>Q6スキップ ほとんど知らない</p> <p>Q6スキップ まったく知らない</p>
6	<p>Q5で、「知っている」と回答した方に伺います。</p> <p>介護保険制度について、どのようなきっかけで知りましたか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>マスメディア（新聞、テレビ、インターネットなど）</p> <p>市区町村からの情報</p> <p>知人・友人</p> <p>職場</p> <p>学校</p> <p>福祉・介護関係者</p> <p>医療機関</p>
7	<p>あなたは、40歳になると介護保険料が徴収されることを知っていますか。</p> <p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	<p>知っている</p> <p>知らない</p>

8 令和7年度（2025年度）の第2号被
 保険者（40歳以上65歳未満）の介 S A 高いと思う
 護保険料は、1人当たりの月額
 （事業主負担分、公費分を含む）
 が6,202円となる見込みです（全
 国平均）。
 あなたは、この「金額」につい
 て、どう思いますか。
 【必須/該当するものをひとつ選
 択】

妥当だと思う

安いと思う

9 介護保険サービスを提供する「事 S A
 業所」について伺います。
 以下の①～⑩それぞれの事業所に
 ついて最も近いものをひとつお答
 えください。
 【必須/項目毎に該当するものを
 ひとつ選択】

	サービスの内容を 知っている	名前は知っている が、サービスの内 容までは知らない	知らない
①地域包括支援センター	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②居宅介護支援事業所	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③訪問介護（ホームヘルプ サービス）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④訪問看護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤通所介護（デイサービ ス）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥通所リハビリテーション （デイケア）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ショートステイ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧有料老人ホーム	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨福祉用具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩介護保険施設（特養、老 健など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

10 介護保険サービスを担う「専門職」について伺います。 S A

職」について伺います。

以下の①～⑧それぞれの専門職について最も近いものをひとつお答えください。

【必須/項目毎に該当するものをひとつ選択】

	仕事内容を知っている	名前は知っているが、仕事内容までは知らない	知らない
①介護支援専門員（ケアマネジャー）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②介護福祉士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③訪問介護員（ホームヘルパー）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④社会福祉士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤保健師	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥理学療法士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦作業療法士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧言語聴覚士	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

11 ホームヘルパーや介護福祉士などの「介護職の仕事」のイメージとして、最も近いものをひとつお答えください。

【必須/該当するものをひとつ選択】

S A

やりがいのある仕事

社会的に意義のある仕事

専門性の高い仕事

雇用が安定している仕事

心身ともにきつい仕事

給与水準が低い仕事

社会的な評価が低い仕事

誰にでもできる仕事

その他（ ）

<p>12 あなたは、今後も「介護保険制度」は必要だと思いますか。</p>	<p>S A</p>
<p>※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。</p>	<p>Q13へ 非常に必要だと思う</p>
<p>※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。</p>	<p>Q13へ 必要だと思う</p>
<p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	<p>Q14へ あまり必要ではないと思う</p>
	<p>Q14へ まったく必要ではないと思う</p>
<p>13 Q12で、「必要だと思う」と回答した方に伺います。 その「理由」として最も近いものをひとつお答えください。</p>	<p>S A</p>
<p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	<p>家族の介護負担が減る</p>
	<p>高齢者介護は社会的課題なので必要</p>
	<p>家族の介護が必要になっても、働き続けることができる</p>
	<p>専門的な介護保険サービスを受けられる</p>
	<p>介護が必要になっても、住み慣れた自宅・地域で暮らせる</p>
	<p>介護保険施設に入所できる</p>
	<p>安価な負担で介護保険サービスを利用できる</p>
	<p>公平に介護保険サービスを受けられる</p>
	<p>その他 ()</p>

<p>14 Q12で、「必要ではないと思う」と回答した方に伺います。 その「理由」として最も近いものをひとつお答えください。 【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	自己負担（保険料や利用料）が大きい
		自己責任で対応すべき
		家族が介護を担うのが本来の姿であり、公的支援は必要ない
		本当に困っている人が利用できていない
		税金の無駄遣いや非効率な運営がされていると感じる
		悪質な事業者が存在している
		その他（ ）
<p>15 将来、ご自身に介護が必要となった場合、介護保険サービスを「利用」したいと思いませんか。 【必須/該当するものをひとつ選択】</p>	S A	積極的に利用したい
		必要であれば利用したい
		できるだけ利用したくない
		利用したくない
<p>16 「介護保険制度」に対して、あなたが最も「期待」していることをひとつお答えください。</p>	S A	自己負担（保険料・利用料）を抑えてほしい
<p>※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。</p>		独居や認知症に対する介護保険サービスをより充実してほしい
<p>※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。</p>		利用者の希望に応じた柔軟な介護保険サービスを提供してほしい
<p>【必須/該当するものをひとつ選択】</p>		地域格差（量や質）のない介護保険サービスを実現してほしい
		家族介護者等への支援を充実させてほしい
		安心して利用できるよう介護保険サービスの質をさらに向上してほしい
		効率的、効果的な介護保険サービスに絞ってほしい
		その他（ ）

17 「介護保険制度」に対して、あなたが最も「懸念」していることをひとつお答えください。

※「介護保険制度」とは、高齢者の介護を社会全体で支え合う仕組みであり、加齢や疾病等により介護が必要となった方が、可能な限り自立した日常生活が送れるよう、介護保険サービス等の支援を総合的に受けられる制度です。

※「介護保険サービス」とは、要介護認定を受けた人が利用できる、訪問介護・通所介護・施設入所などの介護サービスの総称です。

【必須/該当するものをひとつ選択】

S A

自己負担（保険料・利用料）の増加

介護保険サービスの質の低下

介護保険サービスの減少

不要な介護保険サービスの拡大

人材不足による介護保険サービスの欠如

その他（ ）

「介護保険制度に関する認知度調査」

とりまとめ報告書

令和8（2026）年3月発行
発行 一般財団法人 長寿社会開発センター
〒105-8446 東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル6階
TEL：03-5470-6751 FAX：03-5470-6762

不許複製